SONY

3-990-784-**06** (1)

ネットワークカメラ

ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 2.3

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

このユーザーガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**このユーザーガイドをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IPELA SuperExwave™

SNC-CS50N/CS50P

目次

はじめに

準備

カメラの操作

カメラの設定

その他

はじめに

特長

本機は、Super Exwave ™ CCD sensor 1/3 型 CCD を採用したネットワークカメラです。本機の特長は次のとおりです。

- 高感度（最低被写体照度：0.4 lx、F1.0）
- 白黒／カラー切り換えのできるデイ／ナイト機能
- ホワイトバランスの自動追尾方式（ATW/ATW-PRO）とワンプッシュモードを搭載
- JPEG/MPEG4/H.264 の 3 つの映像圧縮方式（映像コーデック）を採用
- シングルコーデック、デュアルコーデックの動作モードを選択可能
- 1 台のカメラ画像を 20 人までのユーザーが同時に閲覧可能
- カメラの高画質ライブ画像を最大毎秒 30 フレーム（SNC-CS50N）、または 25 フレーム（SNC-CS50P）でモニタリング可能
- 日付／時刻を画像にスーパーインポーズすることが可能

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねます。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- “IPELA”および IPELA は、ソニー株式会社の商標です。
- “SuperExwave ™”は、ソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer および MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java は Sun Microsystems, Inc. の商標です。
- Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。
- Adobe、Acrobat および Adobe Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash(コンパクトフラッシュ)、および CF はサンディスク社の商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で ®、TM マークは明記しておりません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

使用上のご注意

データ・セキュリティについて

・ネットワークカメラを使用することにより、インターネットを通じて容易にカメラ映像にアクセスすることができます。一方で第三者によりネットワークを通じてモニタリング画像および音声を閲覧、使用等される可能性があります。ネットワークカメラの設置およびご利用については、被写体のプライバシー、肖像権などを考慮のうえ、お客様の責任で行ってください。
・ネットワークカメラへのアクセス権限は、ユーザー名およびパスワードを設定することにより行われます。それ以上のカメラによる認証作業は行われません。
・諸事情による本ネットワークカメラに関連するサービスの停止、中断について、ソニーは一切の責任を負いません。
・ワイヤレス LAN をご使用時にはセキュリティの設定をすることが非常に重要です。セキュリティ対策を施さず、あるいはワイヤレス LAN の仕様上やむを得ない事情により、セキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。
・必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
・お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
・本製品の使用によりデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

使用・保管場所について

非常に明るい被写体（照明や太陽など）を長時間にわたって撮影しないでください。また、次のような場所での使用および保管は避けてください。故障の原因となります。
・極端に暑い所や寒い所（使用温度は 0 ℃～＋ 50 ℃）
・直射日光が長時間あたる場所や暖房器具の近く
・強い磁気を発するものの近く
・強力な電波を発するテレビやラジオの送信所の近く
・強い振動や衝撃のある所
・湿気、ほこりの多いところ
・雨のあたるところ
・蛍光灯や窓の反射の影響を受けるところ
・不安定な照明の下（フリッカーを起こします。）

放熱について

動作中は布などで包まないでください。内部の温度が上がり、故障や事故の原因となります。

輸送について

輸送するときは、付属のカートンとクッション、または同等品で梱包し、強い衝撃を与えないようにしてください。

お手入れについて

・レンズや光学フィルターの表面に付着したごみやほこりは、ブロアーで払ってください。
・外装の汚れは、乾いたやわらかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れを拭き取ったあと、からぶきしてください。
・アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤など揮発性のものをかけると、表面の仕上げをいためたり、表示が消えたりすることがあります。

レーザービームについてのご注意

レーザービームは CCD に損傷を与えることがあります。レーザービームを使用した撮影環境では、CCD 表面にレーザービームが照射されないように充分注意してください。

このユーザーガイドの使いかた

このユーザーガイドは、ネットワークカメラSNC-CS50N、SNC-CS50Pをコンピューターから操作する方法を説明しています。
このユーザーガイドは、コンピューターの画面上に表示して読まれることを想定して書かれています。
ここではユーザーガイドをご活用いただくために知っておいていただきたい内容を記載しています。操作の前にお読みください。

関連ページへのジャンプ

コンピューターの画面上でご覧になっている場合、関連ページが表示されている部分をクリックすると、その説明のページへジャンプします。関連ページが簡単に検索できます。

ソフトウェアの画面例について

このユーザーガイドに記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

ユーザーガイドのプリントアウトについて

このユーザーガイドをプリントする場合、お使いのシステムによっては、画面やイラストの細部までを再現できないことがありますが、ご了承ください。

設置説明書（印刷物）について

付属の設置説明書には、カメラ本体の各部の名称や基本的な設置・接続のしかたが記載されています。操作の前に必ずお読みください。

必要なシステム構成

カメラの映像を見たり、制御したりするコンピューターには、次の動作環境が必要です。

プロセッサー

Intel Pentium 4、1.5 GHz以上
（Pentium 4、2.4 GHz以上を推奨）

RAM

256 MB以上

OS

Microsoft Windows XP、Windows Vista 32bit版（動作検証済みエディション：Ultimate、Business）

Webブラウザ

Microsoft Internet Explorer Ver. 6.0、7.0

Java

1.6.0_12

2009年6月現在

準備

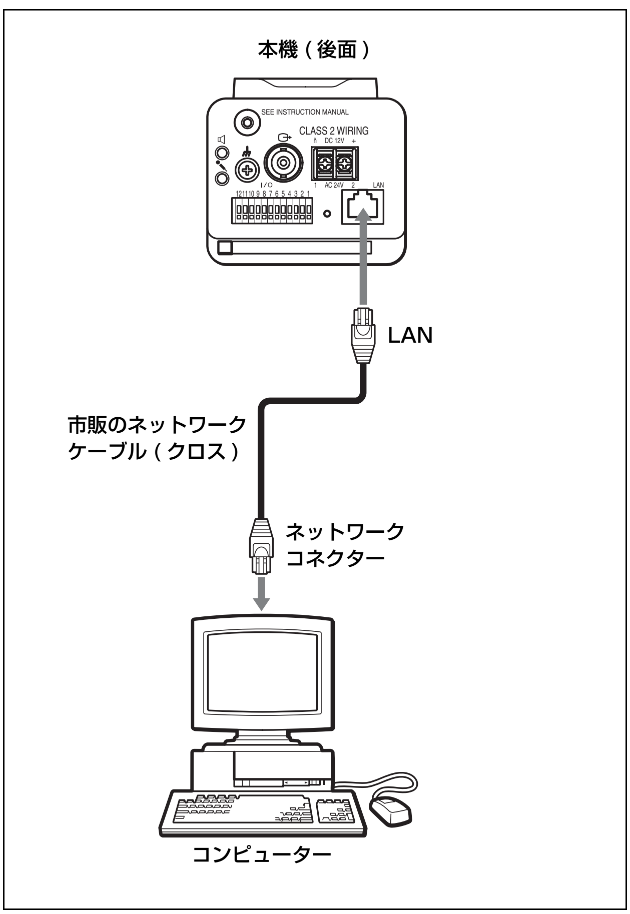
この章では、カメラを設置・接続した後、映像をモニターする前に管理者が行う準備について説明しています。

コンピューターまたはネットワークに接続する

コンピューターへの接続には市販のネットワークケーブル（クロスケーブル）をご用意ください。
ネットワークへ接続するときは、市販のネットワークケーブル（ストレートケーブル）をご用意ください。

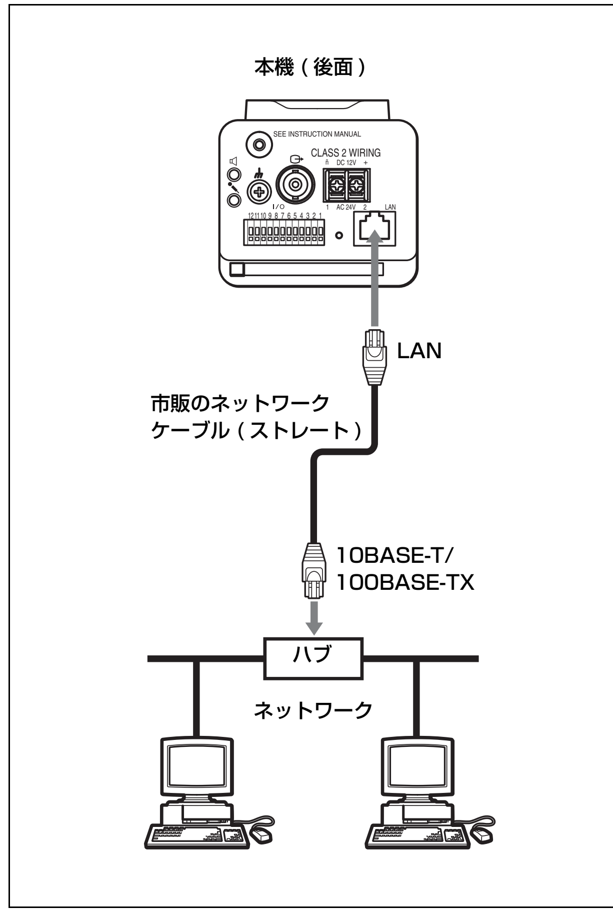
本機をコンピューターに接続する

市販のネットワークケーブル（クロスケーブル）を使って、本機の LAN ポートとコンピューターのネットワークコネクターを接続する。



本機をネットワークに接続する

市販のネットワークケーブル（ストレートケーブル）を使って、本機の LAN ポートとネットワークのハブを接続する。



カメラに IP アドレスを割り当てる

ネットワークを介してカメラに接続するためには、カメラに新しい IP アドレスを割り当てる必要があります。初めてカメラを設置したときは、カメラに IP アドレスを割り当ててください。
IP アドレスを割り当てる方法には、次の 2 とおりがあります。
- 付属の CD-ROM に収録されているセットアッププログラムを使う (右記)
- ARP (Address Resolution Protocol) コマンドを使う（97 ページ）

ここでは、付属のセットアッププログラムを使って IP アドレスを割り当て、ネットワーク設定をする方法を説明します。

操作の前に、「コンピューターまたはネットワークに接続する」（7 ページ）をご覧になって、カメラを接続してください。
割り当てる IP アドレスについては、ネットワークの管理者にご相談ください。

ご注意

- お使いのコンピューターにパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、セットアッププログラムが正しく動作しないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または「ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる」（97 ページ）などの別の方法で IP アドレスを割り当ててください。
- Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］にしないと IP Setup Program が正常に動作しません。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について（11 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（14 ページ）をご覧ください。

セットアッププログラムを使ってカメラに IP アドレスを設定する

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

2 IP Setup Program の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

3 [開く] をクリックする。

ご注意

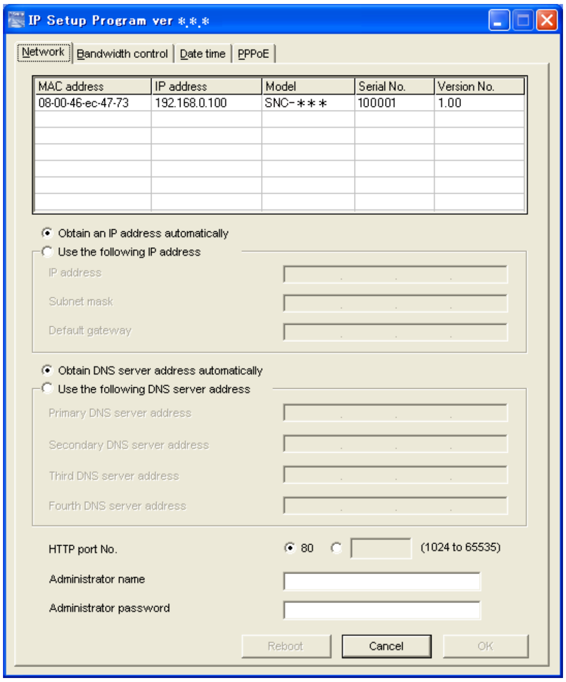
「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「IP Setup Program」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

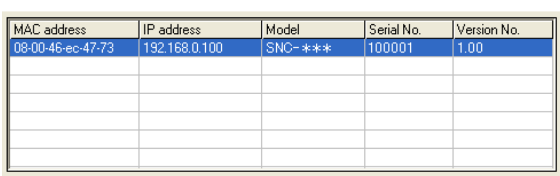
5 IP Setup Program を起動する。

Windows Vista をご利用の場合、起動時に「ユーザーアカウント制御（認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています)」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックしてください。

Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されているネットワークカメラを検出してリスト表示します。



6 リストから IP アドレスを割り当てたいカメラをクリックして選択する。

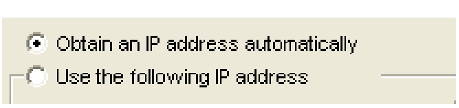


選択されたカメラのネットワーク設定状況が画面に表示されます。

7 IP アドレスを設定する。

IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するときは

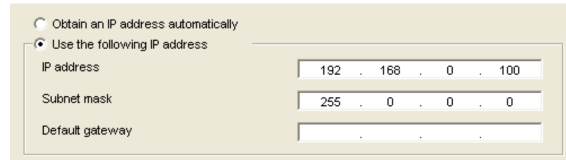
［Obtain an IP address automatically］を選択します。



IP address（IP アドレス）、Subnet mask（サブネットマスク）、Default gateway（デフォルトゲートウェイ）が自動的に割り当てられます。

固定 IP アドレスを設定するときは

［Use the following IP address］を選択し、IP address、Subnet mask、Default gateway 欄にそれぞれの値を入力します。



ご注意

[Obtain an IP address automatically] を選択する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

8 DNS サーバーアドレスを設定する。

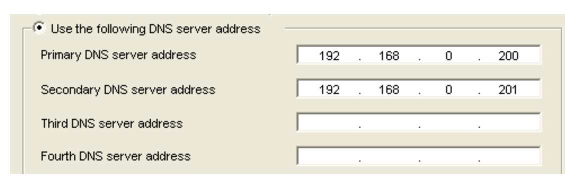
DNS サーバーアドレスを自動取得するには

［Obtain DNS server address automatically］を選択します。



DNS サーバーアドレスを自動取得しないときは

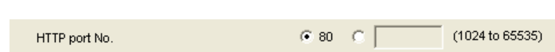
［Use the following DNS server address］を選択してから、Primary DNS server address および Secondary DNS server address 欄に DNS サーバーアドレスを入力します。



ご注意

本機では Third DNS server address、Fourth DNS server address 欄は入力しても無効です。

9 HTTP ポート番号を設定する。



通常は、HTTP port No. の［80］を選択します。
［80］以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

10 [Administrator name] と [Administrator password] 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。

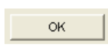


工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

ご注意

ここでは、管理者の名前とパスワードの変更はできません。
変更のしかたは、「ユーザー設定をする －ユーザーメニュー」（56 ページ）をご覧ください。

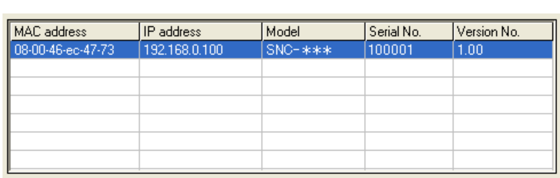
11 正しく入力されていることを確認してから［OK］をクリックする。



「Setting OK」が表示されれば、IP アドレスの設定は終了です。



12 直接カメラにアクセスするには、リスト上のカメラ名をダブルクリックする。



補足

・工場出荷時のカメラのネットワークは次のように設定されています。
IP address（IP アドレス）：192.168.0.100
Subnet mask（サブネットマスク）：255.0.0.0

ワイヤレス LAN 設定
タイプ：アドホック
SSID：snc-cs50
チャンネル：11ch
WEP：なし
IP address (IP アドレス)：10.0.0.100
Subnet mask (サブネットマスク)：255.0.0.0

・Network タブでカメラを選択し、マウスを右クリックして Copy を選択すると、クリップボードにカメラの MAC アドレス、DHCP/FIXED*、IP アドレス、ポート番号、モデル名、シリアル番号、バージョン番号をコピーすることができます。
キーボードの [Ctrl]+[a] キーを押すと、Network タブのすべてのカメラを選択できます。

* DHCP は DHCP 設定、FIXED は固定 IP アドレスを表します。

Web ブラウザにネットワークカメラのウェルカムページが表示されます。



ご注意

IP アドレスが正しく設定されていないと、手順 12 の操作をしてもウェルカムページが表示されません。この場合は IP アドレスの設定をやり直してみてください。

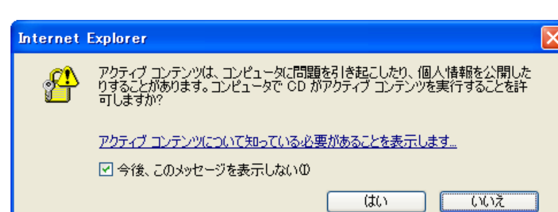
Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合

ソフトウェアのインストールについて

CD-ROM から IP Setup Program などのソフトウェアをインストールするとき、アクティブコンテンツの警告メッセージが表示されることがあります。次のように操作してください。

例：IP Setup Program の場合

「Internet Explorer」メッセージが表示された場合：［はい］をクリックする。



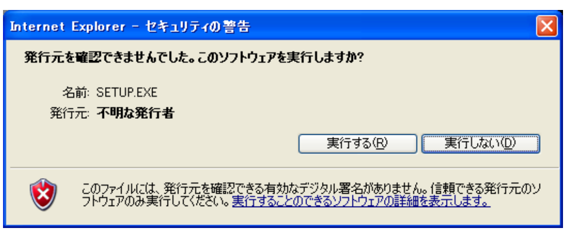
「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行］をクリックする。



ご注意

［保存］をクリックすると正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

「Internet Explorer －セキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行する］をクリックする。

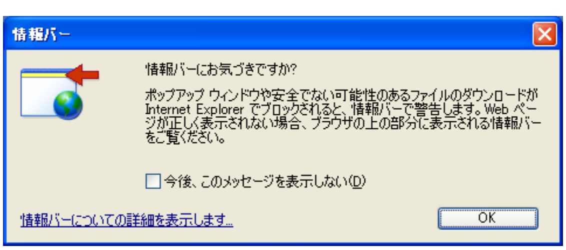


これでソフトウェアをインストールできます。

ActiveX コントロールのインストールについて

ActiveX コントロールがインストールされるとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。次のように操作してください。

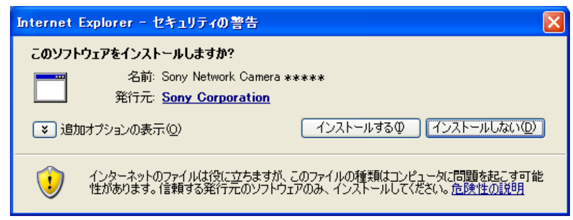
「情報バー」メッセージが表示された場合：［OK］をクリックする。



「情報バー」が表示された場合：情報バーをクリックして［ActiveX コントロールのインストール］を選択する。



「Internet Explorer －セキュリティの警告」が表示された場合：［インストールする］をクリックする。



これで ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーや動体／不動体検知メニューが表示されます。

Windows ファイアウォールの設定について

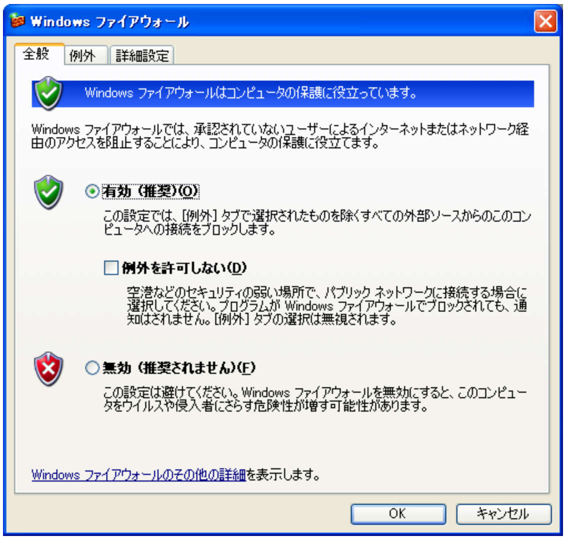
Windows ファイアウォールの設定によっては、IP Setup Program や SNC audio upload tool が正常に動作しない場合があります。（リスト上にカメラが 1 台も検出されないように見えます。）この場合、次のように Windows ファイアウォールの設定を確認してください。

例：IP Setup Program の場合

1 Windows の［スタート］メニューから［コントロールパネル］を選択する。

2 作業する分野で［セキュリティセンター］を選択する。

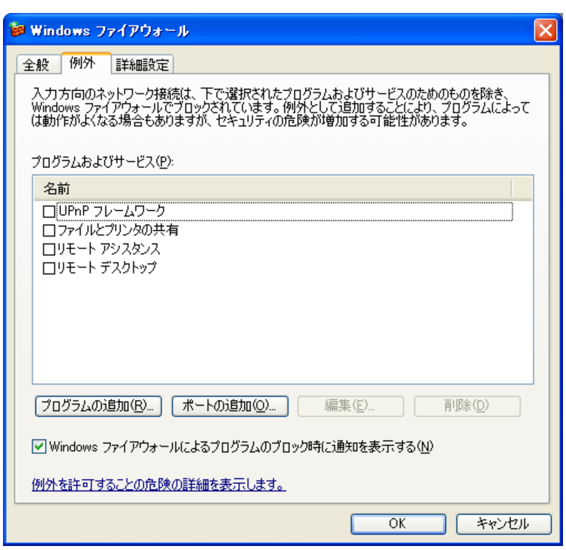
3 「Windows ファイアウォール」画面で［無効］を選択する。



これでリスト上にカメラが表示されるようになります。
［有効］のままご使用になりたい場合は、引き続き、次の設定を行ってください。

4 ［例外］タブを選択する。

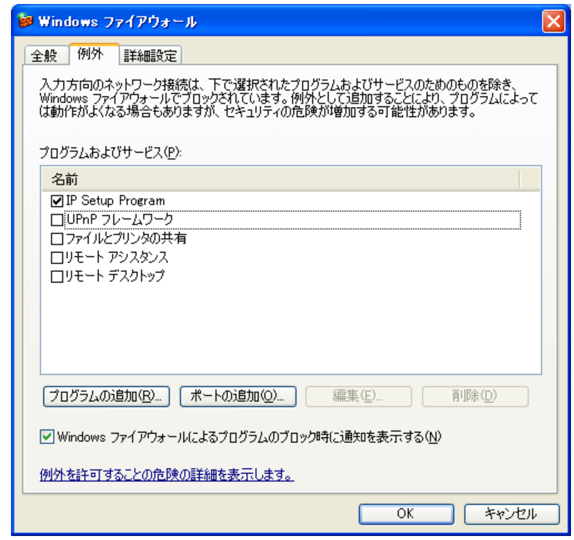
5 ［プログラムの追加］を選択する。



6 プログラムの追加ダイアログが表示されたら、IP Setup Program を選択して［OK］をクリックする。

これで「プログラムおよびサービス」リストに、選択した IP Setup Program が追加されます。

7 ［OK］をクリックする。



以上の設定が完了すると、IP Setup Program 上にローカルネットワーク上のカメラが表示されます。

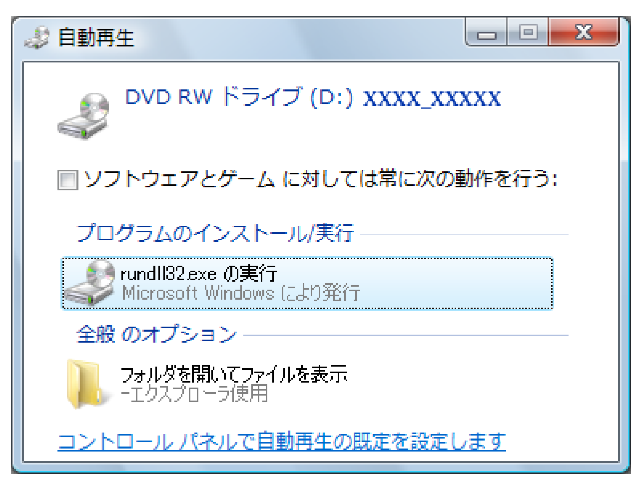
Windows Vista をご利用の場合

ソフトウェアのインストールについて

CD-ROM から IP Setup Program などのソフトウェアをインストールするとき、アクティブコンテンツの警告メッセージが表示されることがあります。次のように操作してください。

例：IP Setup Program の場合

CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れたとき、自動再生のポップアップメッセージが表示された場合：「プログラムのインストール／実行」をクリックする。



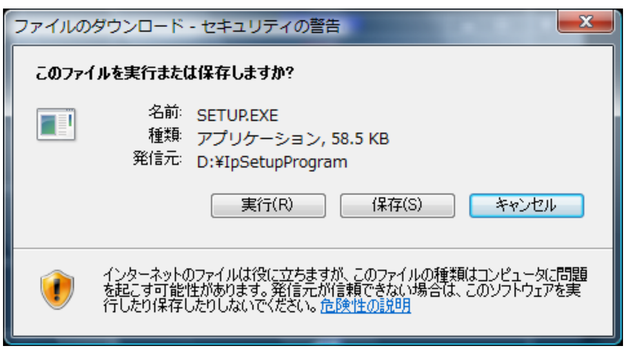
ご注意

「フォルダを開いてファイルを表示」をクリックするとWeb ブラウザが自動的に表示されません。CD-ROM に入っている「index.htm」ファイルをダブルクリックしてください。

「Internet Explorer」メッセージが表示された場合：［はい］をクリックする。



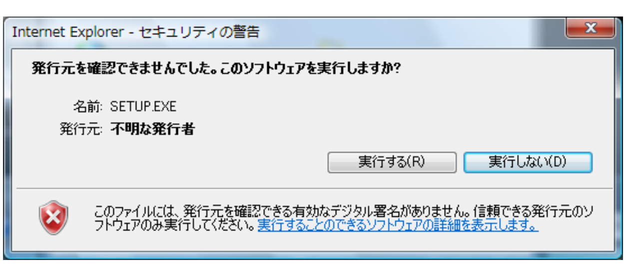
「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行］をクリックする。



ご注意

［保存］をクリックすると正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度Setup アイコンをクリックしてください。

「Internet Explorer －セキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行する］をクリックする。



「ユーザーアカウント制御　（認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示された場合：「許可」をクリックする。

これでソフトウェアをインストールできます。

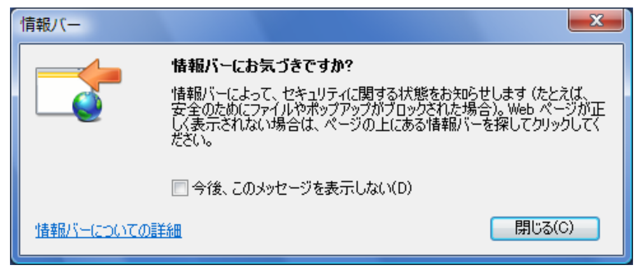
ソフトウェアの起動について

IP Setup Program などのソフトウェアを起動するとき、「ユーザーアカウント制御　（認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックします。

ActiveX コントロールのインストールについて

ActiveX コントロールがインストールされるとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。次のように操作してください。

「情報バー」メッセージが表示された場合：［閉じる］をクリックする。



「情報バー」が表示された場合：情報バーをクリックして［ActiveX コントロールのインストール］を選択する。



「ユーザーアカウント制御（続行するにはあなたの許可が必要です）」メッセージが表示された場合：「続行」をクリックする。

「Internet Explorer アドオンインストーラーセキュリティの警告」が表示された場合：［インストールする］をクリックする。



これで ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーや動体／不動体検知メニューが表示されます。

準備

Windows ファイアウォールの設定について

Windows ファイアウォールの設定によっては、IP Setup Program や SNC audio upload tool が正常に動作しない場合があります。(リスト上にカメラが 1 台も検出されないように見えます。)この場合、次のように Windows ファイアウォールの設定を確認してください。

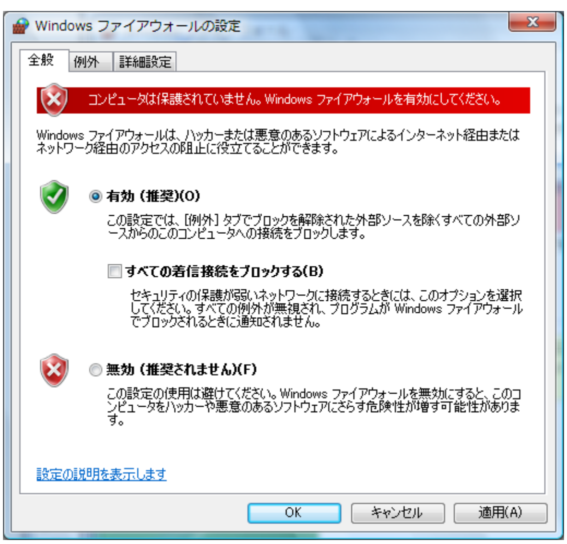
例：IP Setup Program の場合

1 Windows の［スタート］メニューから［設定］、［コントロールパネル］を選択する。

2 ［Windows ファイアウォール］をクリックする。

3 「Windows ファイアウォールの有効化または無効化」を選択する。
「ユーザーアカウント制御　(続行するにはあなたの許可が必要です)」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「続行」をクリックしてください。

4 ［全般］タブで［無効］を選択する。

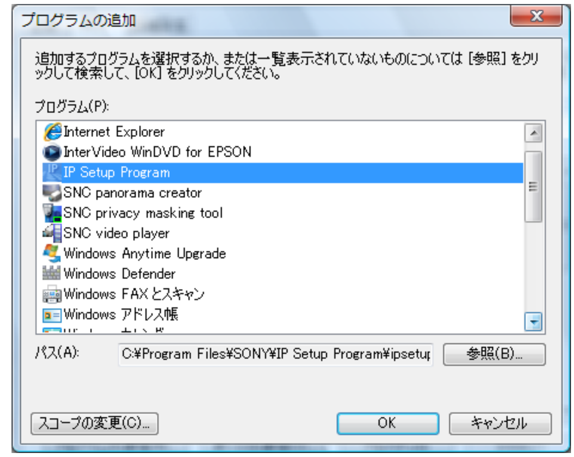


これでリスト上にカメラが表示されるようになります。
［有効］のままご使用になりたい場合は、引き続き、次の設定を行ってください。

5 ［例外］タブを選択する。

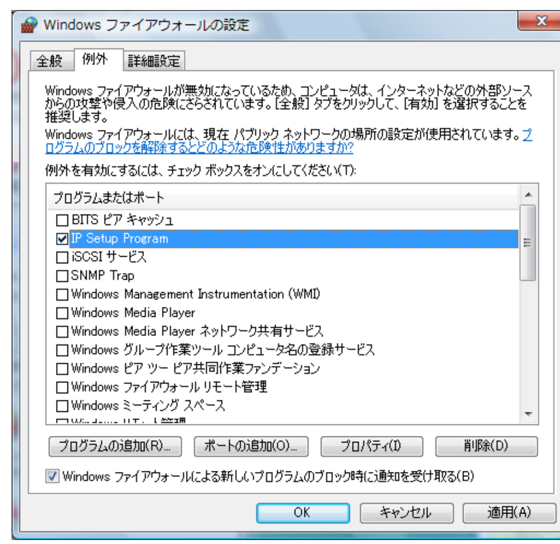
6 ［プログラムの追加］を選択する。

7 プログラムの追加ダイアログが表示されたら、IP Setup Program を選択して [OK] をクリックする。



これで「プログラムまたはポート」リストに、選択した IP Setup Program が追加されます。

8 「OK」をクリックする。



以上の設定が完了すると、IP Setup Program 上にローカルネットワーク上のカメラが表示されます。

Web ブラウザからカメラにアクセスする

カメラに IP アドレスを割り当てたら、実際に Web ブラウザからカメラにアクセスできることを確認します。
Web ブラウザには、Internet Explorer をお使いください。

1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、カメラの IP アドレスをアドレス欄に入力する。



Web ブラウザにネットワークカメラのウェルカムページが表示されます。



2 [Enter] をクリックする。
メインビューアーが表示されます。



メインビューアーが正しく表示されればカメラにアクセスできることの確認は完了です。

初めてカメラのメインビューアーを表示するときは

[Enter] ボタンをクリックすると「セキュリティ警告」が表示されます。[はい] をクリックすると、ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーが表示されます。



ご注意

- Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を [自動構成] にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は [自動構成] を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。
- Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合、[Enter] をクリックしたとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ ActiveX コントロールのインストールについて」（11 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ ActiveX コントロールのインストールについて」（13 ページ）をご覧ください。

補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適に表示されます。

ウェルカムページやメインビューアーページを正しく表示させるには

ウェルカムページやメインビューアーページを正しく動作させるためには、以下の手順で Internet Explorer のセキュリティレベルを［中］以下に設定してください。

1 Internet Explorer のメニューバーから［ツール］—［インターネットオプション］—［セキュリティ］タブの順に選択する。

2 [インターネット]アイコン(本機をインターネット環境で使用しているとき)、または［イントラネット］アイコン（本機をイントラネット環境で使用しているとき）をクリックする。

3 レベルバーを操作して［中］以下にする。(レベルバーが表示されていない場合は、[既定のレベル］ボタンをクリックしてからレベルバーを操作してください。)

コンピューターでウイルス対策ソフトウェアなどをお使いの場合

・コンピューターでウイルス対策ソフトウェア、セキュリティソフトウェア、パーソナルファイアウォール、ポップアップブロッカーなどをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
・本機にアクセスしたときに表示される Web ページは JavaScript を使用しています。ご使用になるコンピューターで上記のウイルス対策ソフトウェアなどをお使いの場合には、Web ページが正しく表示されない場合があります。

管理者による基本設定を行う

本機は、出荷時の状態でログインするだけでカメラの映像をモニターできますが、カメラの設置場所やネットワーク環境、カメラの用途などに合わせてさまざまな機能を設定できます。
日常、カメラの映像をモニターする前に、管理者が設定しておいたほうがよい設定項目は、次のとおりです。

設定内容	管理者設定メニュー
カメラから配信する映像のフォーマットを設定する	「ビデオコーデックタブ」（39 ページ）
カメラから配信する映像の明るさを選択する	「露出」（37 ページ）
カメラから配信する映像の画質を選択する	「ビデオコーデックタブ」（39 ページ）
画像の表示サイズを選択する	「View size（画像表示サイズ）」（22 ページ）
外部マイクからの音声を配信するかどうかを選択する	「マイク設定」（36 ページ）
カメラの日付と時刻をコンピューターに合わせる	「日付／時刻タブ」（32 ページ）
カメラのモニター画像をメールに添付して送信するための設定をする	「メール（SMTP）メニュー」（58 ページ）
ユーザーのカメラへのアクセス権を設定する	「ユーザーメニュー」（56 ページ）

カメラの操作

この章では、Web ブラウザを使ってカメラ映像をモニターする方法を説明しています。Web ブラウザには Internet Explorer をお使いください。

カメラの設定は管理者が行います。設定のしかたは「カメラの設定」（29 ページ）をご覧ください。

管理者とユーザーについて

本機では、ログインする人を「管理者」と「ユーザー」に区別しています。
「管理者」はカメラの設定を含め、本機のすべての機能を利用することができます。「ユーザー」はカメラの映像・音声のモニターとカメラの操作だけを行うことができます。ユーザーは「ビューアーモード」の設定により、利用できる機能（アクセス権）を限定され、3 種類のユーザーに区別されます。

それぞれの利用できる機能は次のとおりです。

機能	管理者	ユーザー		
		フル	ライト	ビュー
ライブ画像を見る	○	○	○	○
日付・時刻を見る	○	○	○	○
フレームレートを操作する（JPEG モード時のみ利用可）	○	○	×	×
画像表示サイズを操作する	○	○	○	×
デジタルズームで拡大する	○	○	○	×
静止画像をコンピューターに保存する	○	○	○	× 1)
FTP サーバーに映像ファイルを送信する	○	○	×	×
メールに画像を添付して送信する	○	○	×	×
メモリーに映像を記録する	○	○	×	×
カメラ本体の I/O ポートのアラーム出力を制御する	○	○	×	×
デイ / ナイト機能を切り換える	○	○	×	×
音声ファイルを再生する	○	○	×	×
TCP/UDP 通信を切り換える（MPEG4/ H.264 モード時のみ利用可）	○ 2)	○ 2)	×	×
音声を受信する	○	○	○	○
設定メニューを操作する	○	×	×	×

○ 利用できる機能、× 利用できない機能

1) Java applet viewer の場合は、この機能が利用できます。
2) Java applet viewer の場合は、この機能は利用できません。

管理者とユーザーのアクセス権は、管理者設定メニューの「ユーザー設定をする－ユーザーメニュー」（56 ページ）で設定できます。

ホームページへログインする
ーウェルカムページ

ユーザーとしてログインする

1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、モニターしたいカメラの IP アドレスをアドレス欄に入力する。



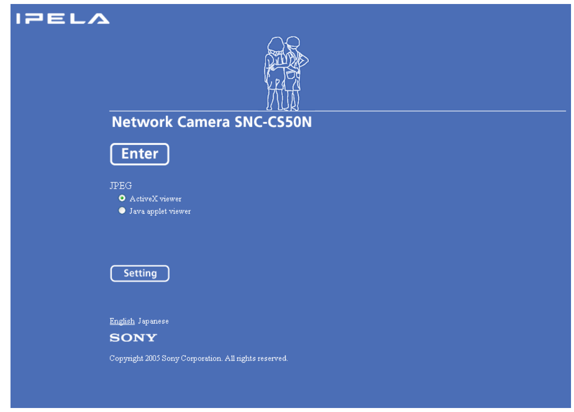
Web ブラウザにネットワークカメラのウェルカムページが表示されます。



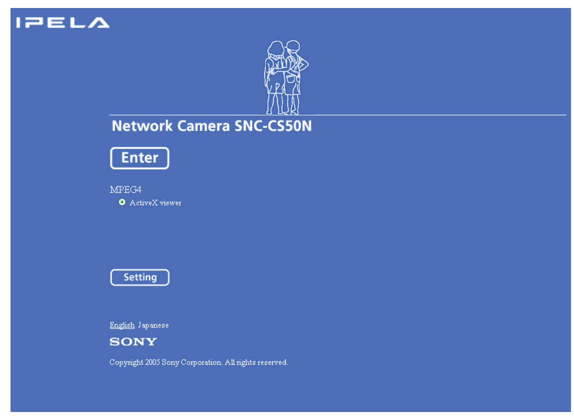
2 ビューアーを選択する。
カメラメニューの [ビデオコーデック] タブの [動作モード]（39 ページ）の設定により、選択できるコーデックとビューアーがウェルカムページに表示されます。

動作モードがシングルコーデックの場合
ビデオコーデックタブの動作モードで設定されているコーデック（JPEG、MPEG4、H.264）で映像を見ることができます。
JPEG が選択されている場合は、[Java applet viewer] も選択できます。

JPEG に設定されているとき



MPEG4 に設定されているとき

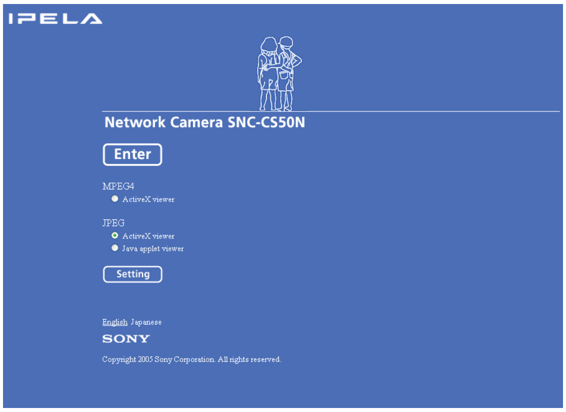


H.264 に設定されているとき



動作モードがデュアルコーデックの場合

MPEG4 と JPEG を選択することができます。JPEG の場合は、[Java applet viewer] も選択できます。



3 [Enter] をクリックする。
メインビューアーが表示されます。

ActiveX viewer（MPEG4 または H.264）の場合



Java applet viewer の場合



メインビューアーからカメラを操作してください。

ご注意

ウェルカムページが正しく動作しないときは、Internet Explorer のセキュリティレベルが [中] より高くなっている可能性があります。「ウェルカムページやメインビューアーページを正しく表示させるには」（15 ページ）をご覧になって、セキュリティレベルを確認してください。

管理者設定メニューを直接表示する

管理者がカメラの設定を行うとき、ウェルカムページから直接、管理者設定メニューを表示することができます。

1 言語を選択する。
ウェルカムページ下部の [Japanese] または [English] を選択します。

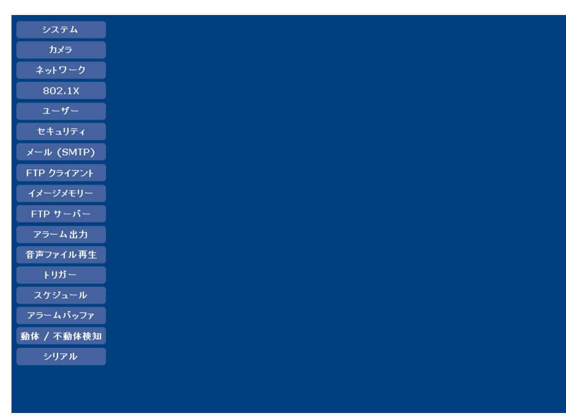
2 ウェルカムページの [Setting] をクリックする。
次のダイアログが表示されます。



3 管理者用のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

管理者用のユーザー名とパスワードは、工場出荷時には「admin」が設定されています。ユーザー名とパスワードは、管理者設定メニューのユーザーメニューで変更できます（56 ページ）。

別ウィンドウで管理者設定メニューが表示されます。



ビューアーについて

本機では、次のビューアーが使用できます。

ActiveX viewer

カメラの映像が [JPEG]、[MPEG4]、[H.264]、いずれの場合にも映像をモニターできるビューアーです。
初めてメインビューアーにアクセスするときに、インストールする必要があります。

初めてカメラのメインビューアーを表示するときは

ActiveX viewer を使って初めて本機にログインする([Enter] をクリックしてメインビューアーに入る）と [セキュリティ警告] が表示されます。[はい] をクリックして ActiveX コントロールをインストールしてください。この ActiveX コントロールを使用するとビューアーのすべての機能が使用できます。

Java applet viewer

カメラ映像が [JPEG] の場合にモニターできるビューアーです。フレームレートは、ActiveX viewer に比べると低くなります。
Java applet viewer は、Java がインストールされていて、かつ Java (Sun) が有効になっていないと動作しません。
Java applet viewer が正しく動作しない場合は、Java が正常にインストールされていることと、Java (Sun) が有効になっているかどうかを確認してください。

動作確認済みの Java のバージョンについては、「必要なシステム構成」（6 ページ）をご覧ください。

Java のバージョンを確認するには

Internet Explorer のメニューバーから [ツール]、[インターネットオプション]、[詳細設定] タブの順に選択し、[Java (Sun)] に表示されている Java のバージョンを確認します。[Java (Sun)] 項目が表示されない場合は Java がインストールされていませんので、インストールが必要です。

Java Plug-in を有効にするには

例：Java Plug-in Ver. 1.6.0_01 の場合

[Java (Sun)] の [<applet> に JRE 1.6.0_01 を使用 (再起動が必要)] にチェックします。

Java Plug-in をインストールするには

Sun Microsystems 社のホームページから、Java2 Runtime Environment、Standard Edition（JRE）をダウンロードし、インストーラーの指示に従ってインストールします。

ご注意

・ Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を [自動構成] にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は [自動構成] を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
・ ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。

補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適に表示されます。

メインビューアーの構成

ここでは、メインビューアーの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

ActiveX viewer（MPEG4 または H.264）の場合のメインビューアー



ActiveX viewer（JPEG）の場合のメインビューアー



Java applet viewer の場合のメインビューアー



メインメニュー

 Setting

管理者用の管理者設定メニューを表示します。（30 ページ）

この操作は、管理者としてログインした場合のみ可能です。

 Home

ウェルカムページを表示します。

カメラ操作部

Frame rate（フレームレート）



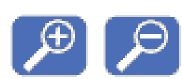
（カメラの映像が JPEG のときのみ表示されます。）

配信する画像のフレームレートを選択します。（24 ページ）

View size（画像表示サイズ）



画像の表示サイズを選択します。（24 ページ）

 Digital zoom（デジタルズーム）

デジタルズームのサイズを変えるときクリックします。（24 ページ）

 Capture（キャプチャー）

(Java applet viewer のときはメインメニューに表示されます。)

カメラの静止画像をキャプチャーし、コンピューターに保存するときクリックします。（25 ページ）

トリガー



（ユーザーメニューのビューアーモード（56 ページ）が [フル] に設定されており、トリガーメニュー（71 ページ）で 1 つ以上のトリガーが有効になっているときのみ表示されます。）

リストボックスから機能を選択し、 をクリックすると次のようなことができます。
- 静止画ファイルをメールに添付して送信する（26 ページ）。
- 静止画ファイルを FTP サーバーに送信する（26 ページ）。
- 静止画ファイルを内蔵メモリーまたは ATA メモリーカード（別売り）に記録する（26 ページ）。
- アラーム出力を制御する（26 ページ）。
- デイ / ナイト機能をオン / オフする（27 ページ）。
- カメラに登録されている音声ファイルを再生する（27 ページ）。

Transmission（TCP/UDP 通信切り換え）

（カメラの映像が MPEG4 または H.264 で、ActiveX viewer を使用している場合のみ表示されます。）

クリックすると、映像・音声データの通信モードを TCP モード、UDP（Unicast）モード、UDP（Multicast）モードに切り換えることができます。（27 ページ）
最後に設定された通信モードはコンピューターに記録され、次回の起動時に選択されます。

音量



（カメラの [マイク設定]（36 ページ）が [オン] に設定されているときのみに表示されます。）

 のバー部分をドラッグすると、音量が調整されます。
 をクリックすると、ボタンが に変わり、音声の出力が止まります。
もう一度音声を出力するには、 をクリックします。

ご注意

Java applet viewer をお使いの場合、 が表示されないときは次のような可能性があります。
- カメラメニューの [音声受信コーデック]（36 ページ）が [G.711（64kbps）] 以外に設定されている。
- Java が正しくインストールされていない。Java のインストールを確認するには、「ビューアーについて」の「Java applet viewer」（21 ページ）をご覧ください。

モニター画面



カメラの映像を表示します。画面上部に日付と時刻が表示されます。

カメラ映像をモニターする

ここでは、メインビューアーのモニター画面でカメラ映像を見る方法を説明します。

カメラ映像をモニターする

1 ホームページにログインし、メインビューアーを表示する。
ログインのしかたは、「ユーザーとしてログインする」（19 ページ）をご覧ください。



2 フレームレートを選ぶ。（カメラの映像が [JPEG] のときのみ）



［Frame rate］リストボックスをクリックして画像を配信するフレームレートを選択します。選択可能なフレームレートは以下のようになります。

SNC-CS50N
1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 fps

SNC-CS50P
1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 16, 20, 25 fps

"fps" は 1 秒間に配信されるフレーム数を示す単位です。
たとえば SNC-CS50N の場合、［30 fps］を選択すると、接続されている回線に可能な最高速度（最大 30fps）で配信されます。

ご注意
選択された値は配信されるフレームレートの最大値を示します。
ご使用のコンピューターや、接続されているネットワーク環境、カメラの設定（画像サイズや画質）により実際のフレームレートは異なります。

3 画像の表示サイズを選ぶ。



［View size］リストボックスをクリックして［AUTO］、［640 × 480］、［320 × 240］、［160 × 120］の 4 種類から画像サイズを選択します。
［AUTO］を選択すると、カメラメニューの [画像サイズ]（39 ページ）で選択した画像サイズで表示されます。

モニター画像をズームする

1 をクリックする。

2 モニター画像の拡大したい場所をクリックする。
クリックした場所を中心に、画像が約 1.5 倍に拡大されます。



ボタンが に変わります。

3 拡大を解除するには、 をクリックする。

モニター画像をキャプチャーする

モニターしているカメラ映像を静止画像としてキャプチャーし、コンピューターに保存できます。

モニター画像をキャプチャーする

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2  をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、キャプチャー画面に静止画像が表示されます。

ActiveX viewer の場合



Java applet viewer の場合



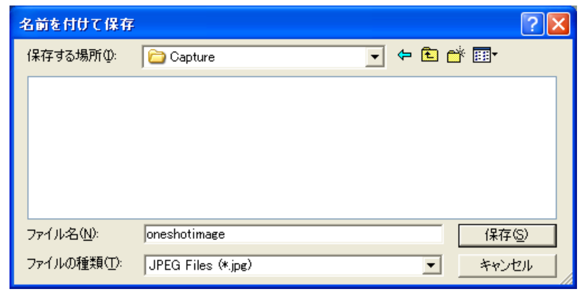
3 キャプチャー画面を閉じるには、[Cancel] または [Close] をクリックする。

キャプチャーした画像を保存する

ActiveX viewer の場合

1 モニター画像をキャプチャーする。

2 [Save] をクリックする。
[名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。



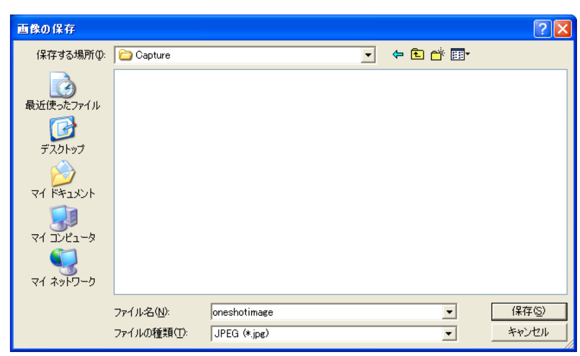
3 [ファイルの種類] として、[JPEG Files] または [Windows Bitmap Files] を選択する。

4 [ファイル名]と[保存する場所]を指定してから、[保存] をクリックする。

Java applet viewer の場合

1 モニター画像をキャプチャーする。

2 マウスを右クリックし、表示されるメニューから［名前を付けて画像を保存］を選択する。
［画像の保存］ダイアログが表示されます。



3 [ファイルの種類] として、[JPEG] または [ビットマップ] を選択する。

4 [ファイル名]と[保存する場所]を指定してから、[保存] をクリックする。

トリガーを使った操作

メインビューアーの（トリガー）をクリックするだけで、さまざまな機能を動作させることができます。

モニター画像をメールに添付して送信する

モニターしているカメラ映像を静止画像としてキャプチャーし、メールに添付して送信できます。
この操作を行うには、あらかじめ、管理者設定メニューのトリガーメニュー（71 ページ）で［メール（SMTP）］を有効にし、送信先を適切に設定しておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［e-Mail］を選択する。



3 をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、設定されているメールアドレスに映像ファイルを添付したメールが送信されます。

モニター画像を FTP サーバーに送信する

モニターしているカメラ映像を静止画像としてキャプチャーし、FTP サーバーに送信できます。
この操作を行うには、あらかじめ、管理者設定メニューのトリガーメニュー（72 ページ）で［FTP クライアント］を有効にし、送信先を適切に設定しておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［FTP］を選択する。



3 をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、映像ファイルが FTP サーバーに送信されます。

カメラ映像を静止画として記録する

モニターしているカメラ映像を静止画としてキャプチャーし、内蔵メモリーまたは別売りの ATA メモリーカードに記録することができます。
この操作を行うには、あらかじめ管理者設定メニューのトリガーメニュー（72 ページ）で［イメージメモリー］を有効にし、詳細を設定しておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Image memory］を選択する。



3 をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、映像ファイルとして記録されます。

アラーム出力 1、2 を制御する

アラーム出力 1、2 を制御できます。
この操作を行うには、あらかじめ、管理者設定メニューのトリガーメニュー（72 ページ）で［アラーム出力 1］または［アラーム出力 2］を有効にしておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Alarm output1］または［Alarm output2］を選択する。



3 をクリックする。
クリックすると、アラーム出力を制御できます。
アラーム出力の動作は、トリガーメニューの「アラーム出力 1、2」（72 ページ）で［トグルモード］と［タイマーモード］のどちらかを選択できます。

補足

カメラの I/O ポートのアラーム出力を周辺デバイスに接続する方法は、付属の設置説明書をご覧ください。

デイ／ナイト機能をオン／オフする

デイ／ナイト機能のオン（ナイトモード）・オフ（デイモード）を制御できます。
この操作を行うには、あらかじめ管理者設定メニューのトリガーメニュー（72 ページ）で［デイ／ナイト］を有効にしておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Day/Night］を選択する。



3 をクリックする。
クリックするたびに、デイ／ナイトのオン（ナイトモード）とオフ（デイモード）が切り換わります。

ご注意

トリガー－デイ／ナイトメニュー（72 ページ）の［デイ／ナイトモード］が［無効］または［自動］に設定されているときは、をクリックしてもデイ／ナイト機能を制御できません。

カメラに登録されている音声ファイルを再生する

SNC audio upload tool を使って、あらかじめ登録しておいた音声ファイルを再生することができます。
この操作を行うには、あらかじめ管理者設定メニューのトリガーメニュー（73 ページ）で［音声ファイル再生 1］、［音声ファイル再生 2］または［音声ファイル再生 3］を有効にしておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Voice alert1］、［Voice alert2］または［Voice alert3］を選択する。



3 をクリックする。
クリックするとカメラに接続されているスピーカーから、選択された音声ファイルの再生音が出力されます。

TCP/UDP 通信方式を切り換える

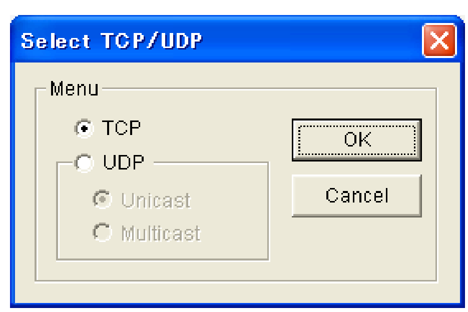
映像 / 音声データの通信ポートを TCP ポートまたは UDP ポートのどちらかに切り換えることができます。
動作させるビデオコーデックを [MPEG4] または [H.264] に設定し、ビューアーに ActiveX viewer を使用している場合のみ操作できます。

ご注意

- お使いのコンピューターでパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、この機能が正しく動作しないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または TCP モードでお使いください。
- Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］に設定してください。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－Windows ファイアウォールの設定について」（11 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－Windows ファイアウォールの設定について」（14 ページ）をご覧ください。

1 メインビューアーを表示する。

2 TCP/UDP 通信切り換えアイコンをクリックする。
Select TCP/UDP（通信方式選択）ダイアログが表示されます。



3 [TCP] または [UDP (Unicast)]、[UDP (Multicast)] をクリックして選択する。

[TCP]：通常はこれを選択します。
通信ポートとして [TCP] が選択されている場合には、映像 / 音声用の通信に HTTP 通信が採用されます。HTTP は通常の Web ページの閲覧に使用されているプロトコルです。Web 閲覧が可能な環境であれば、TCP ポートを選択すれば、映像 / 音声を見たり聞いたりできます。

[UDP (Unicast)]：通信ポートとして [UDP (Unicast)] が選択されている場合には、映像 / 音声用の通信に RTP（Real-time Transport Protocol）通信が採用されます。RTP は映像 / 音声データを流すことを目的としたプロトコルで、TCP（HTTP）と比較してスムーズな映像 / 音声の再生が可能です。ただし、カメラとコンピューターの間にファイアウォールが設置されている場合やネットワーク環境により、[UDP (Unicast)] を選択すると映像 / 音声が正しく再生されない場合があります。正しく再生できない場合には [TCP] を選択してください。

[UDP (Multicast)]: マルチキャスト配信機能（41 ページ）が [オン] に設定されているときに、選択することができます。通信ポートとして [UDP (Multicast)] が選択されている場合には、映像 / 音声用の通信には、RTP（Real-time Transport Protocol）通信が採用され、加えて UDP のマルチキャスト技術が採用されます。これを選択することによって、カメラのネットワーク配信負荷を軽減することが可能です。ただし、カメラとコンピューター間にマルチキャストに対応していないルーターが設置されていたり、ファイアウォールが設置されていたりする場合には映像 / 音声が正しく再生されない場合があります。正しく再生できない場合には、[TCP] または [UDP (Unicast)] を選択してください。

4 [OK] をクリックして、ダイアログを閉じる。

通信方式を変更しない場合は [Cancel] をクリックします。

カメラの設定

この章では、管理者によるカメラの機能の設定について説明します。
カメラの画像をモニターする方法は、「カメラの操作」（18 ページ）をご覧ください。

この章では、はじめに管理者設定メニューの設定の際の基本操作を説明し、その後、メニューの設定項目をひとつずつ説明します。

設定項目の表示について

本機の設定メニュ―は、現在設定可能な設定項目のみが濃く表示されます。薄く（グレーアウト）表示されている項目は設定できません。

管理者設定メニューの基本操作

管理者設定メニューでは、それぞれのユーザーの使用状態に合わせて本機のすべての機能を細かく設定することができます。
ウェルカムページの [Setting] をクリックするか、メインビューアーの 🔧 をクリックすると管理者設定メニューが表示されます。

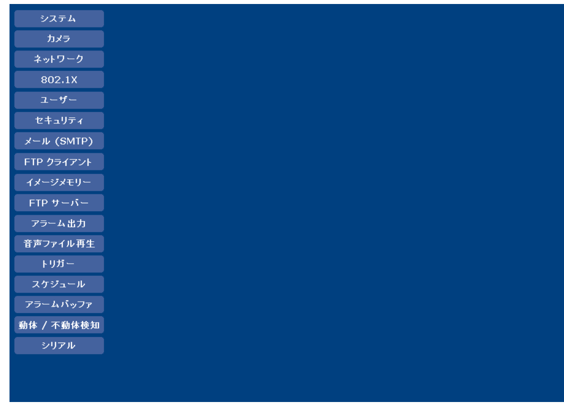
管理者設定メニューの設定のしかた

1 ホームページにログインし、ウェルカムページを表示する。
ログインのしかたは、「ユーザーとしてログインする」（19 ページ）をご覧ください。

2 ウェルカムページ下部で言語（[Japanese] または [English]）を選択する。

3 ウェルカムページの [Setting] をクリックする。
認証ダイアログが表示されます。管理者のユーザー名とパスワードを入力すると、管理者設定メニューが表示されます。

管理者のユーザー名とパスワードは工場出荷時には [admin] が設定されています。



手順 **3** の代わりに、次のようにして表示することもできます。
①ウェルカムページの [Enter] をクリックしてメインビューアーを表示する。
②メインビューアーの 🔧 をクリックする。
③ 管理者のユーザー名とパスワードを入力する。

4 管理者設定メニューの左側のメニュー名（例 : システム）をクリックする。
クリックしたメニューが表示されます。

例 :「システム」メニュー



5 メニュー上部のタブを選択し、タブ内の各項目の設定を行う。

例 :「システム」メニューの「日付 / 時刻」タブ



各メニューのタブと設定項目について詳しくは、31 ～ 82 ページをご覧ください。

6 設定が終わったら、[OK] をクリックする。
設定した内容が有効になります。

設定した内容を無効にして元の状態に戻すときは、[Cancel] をクリックします。

各メニューの共通ボタン

メニューには、必要に応じて以下の共通ボタンが表示されます。ボタンの機能は、どのメニューでも同じです。

OK

設定した内容を有効にするとき、クリックします。

Cancel

設定した内容を無効にして、元の状態に戻すときクリックします。

メニュー全般についてのご注意

・ウェルカムテキストやユーザー名など、コンピューターから入力する文字に、半角カタカナは使用できません。
・メニューで設定を変更し、すぐに電源を切る場合は、10 秒以上経過してからカメラの電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が保存されない場合があります。
・メインビューアーで閲覧中にカメラの設定を変更しても反映されない項目があります。変更した設定内容を既に開いているメインビューアーに反映させるには、Web ブラウザの [更新] をクリックしてください。

管理者設定メニューの構成



システム

システムメニューを表示します。（「システム設定を行う －システムメニュー」31 ページ）

カメラ

カメラ映像や音声に関する設定を行うカメラメニューを表示します。（「カメラ映像や音声の設定を行う －カメラメニュー」36 ページ）

ネットワーク

ネットワーク接続のための設定を行うネットワークメニューを表示します。（「ネットワークを設定する－ネットワークメニュー」42 ページ）

802.1X

802.1X 仕様（ポート認証）で構成されたネットワークへの接続を行うための 802.1X メニューを表示します。
（「802.1X 認証機能を使用する － 802.1X メニュー」48 ページ）

ユーザー

ログインするときのユーザー名やパスワードの設定を行うユーザーメニューを表示します。（「ユーザー設定をする －ユーザーメニュー」56 ページ）

セキュリティ

接続を許可するコンピューターを指定するセキュリティメニューを表示します。（「セキュリティ設定をする－セキュリティメニュー」57 ページ）

メール（SMTP）

メール送信を行うためのメール（SMTP）メニューを表示します。（「メールに画像を添付して送る －メール (SMTP) メニュー」58 ページ）

FTP クライアント

FTP サーバーへ映像・音声ファイルなどを送信するための設定を行う FTP クライアントメニューを表示します。
（「FTP サーバーへ画像を送信する － FTP クライアントメニュー」61 ページ）

イメージメモリー

内蔵メモリー、またはカメラに装着した ATA メモリーカード（別売り）に映像・音声ファイルなどを記録するための設定を行うイメージメモリーメニューを表示します。（「画像を記録する－イメージメモリーメニュー」64 ページ）

FTP サーバー

カメラの FTP サーバー機能を設定する FTP サーバーメニューを表示します。（「カメラから画像をダウンロードする－ FTP サーバーメニュー」68 ページ）

アラーム出力

カメラのアラーム出力端子の設定を行うアラーム出力メニューを表示します。（「アラーム出力を設定する－アラーム出力メニュー」69 ページ）

音声ファイル再生

あらかじめカメラに保存された音声ファイルを、センサー入力や動体 / 不動体検知などのアラーム検出時に再生させるための音声ファイル再生メニューを表示させます。（「アラーム検出時に音声を出力する －音声ファイル再生メニュー」70 ページ）

トリガー

メインビューアーのトリガーボタンをクリックしたときの操作を設定するトリガーメニューを表示します。
（「ビューアーページからの操作を設定する－トリガーメニュー」71 ページ）

スケジュール

デイ / ナイト機能、メール（SMTP）機能、FTP クライアント機能、イメージメモリー機能、アラーム出力機能、音声ファイル再生機能などのスケジュールを設定するスケジュールメニューを表示します。
（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ）

アラームバッファ

アラーム検出時に映像や音声を記録するバッファに関する設定を行うアラームバッファメニューを表示します。
（「アラームバッファを設定する－アラームバッファメニュー」74 ページ）

動体 / 不動体検知

カメラ内蔵の動体 / 不動体検知機能の設定を行う動体 / 不動体検知メニューを表示します。（「動体／不動体検知機能を設定する － 動体／不動体検知メニュー」75 ページ）

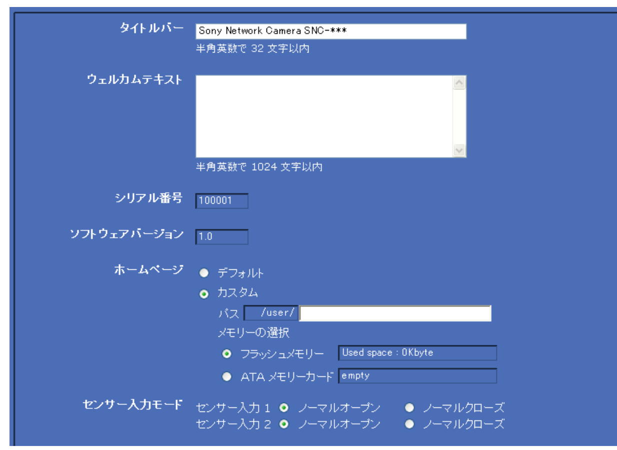
シリアル

外部シリアル端子を使って外部機器と通信するためのシリアルメニューを表示します。（「外部シリアル端子を使って外部機器と通信する － シリアルメニュー」81 ページ）

システム設定を行う －システムメニュー

管理者設定メニューの システム をクリックすると、システムメニューが表示されます。
このメニューでは本機の基本設定を行います。
システムメニューは [システム]、[日付／時刻]、[スーパーインポーズ]、[初期化]、[システムログ]、[アクセスログ] の 6 つのタブで構成されます。

システムタブ



タイトルバー

タイトルバー名を入力します。Web ブラウザのタイトルバーにここに入力された文字が表示されます。
半角で 32 文字、全角で 16 文字まで入力可能です。

ウェルカムテキスト

ウェルカムページに表示する文を HTML 形式で入力します。
半角で 1024 文字以内、全角で 512 文字以内（改行は半角 2 文字換算）で入力可能です。
改行は
 タグで入力してください。

シリアル番号

シリアル番号が表示されます。

ソフトウェアバージョン

ソフトウェアのバージョンが表示されます。

ホームページ

Web ブラウザのアドレス欄に本機の IP アドレスを入力したときに表示されるホームページを選択します。

[デフォルト]：本機に内蔵のホームページを使用するときに選択します

[カスタム]：独自のホームページ（カスタムホームページ）を使用するときに選択します。
本機内蔵のフラッシュメモリーやカメラに装着したATA メモリーカード（別売り）に書き込むことにより、独自のホームページを使用することができます。
本機内蔵のフラッシュメモリーにホームページのHTML ファイルを書き込む場合には、付属のCD-ROM に収録されているCustom Homepage Installer を使用します。（95 ページ）
動作確認済みのカードについては、ソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

カスタムホームページを使用する場合は以下のように設定します。

1 [カスタム] を選択する。

2 [パス] の右のテキストボックスに表示するHTML ファイルへのパスを入力する。(半角英数字64 文字以下)

3 [メモリーの選択]で、[フラッシュメモリー]、[ATA メモリーカード] からホームページが保存されているメモリーを選択する。
[パス] の右に表示されるディレクトリは、選択したメモリーに合わせて変更されます。

補足

[カスタム] を選択した場合でも、Web ブラウザのアドレス欄に以下のURL を入力すると、本機内蔵のホームページを表示できます。

例：本機のIP アドレスが192.168.0.100 に設定されている場合

http://192.168.0.100/ja/index.html

センサー入力モード

カメラのセンサー入力端子に入力される信号を検出する方向を設定します。

[ノーマルオープン]：センサー信号が短絡したときにアラームを検知します。

[ノーマルクローズ]：センサー信号が開放になったときにアラームを検知します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

日付／時刻タブ



現在時刻

本カメラに設定されている日付／時刻を表示します。

ご注意

お買い上げ時、時刻の設定が合っていない場合があります。必ずご確認ください。

コンピューターの現在時刻

使用しているコンピューターの日付／時刻を表示します。

日付／時刻フォーマット

メインビューアーに表示する日付／時刻の書式を各リストボックスから選択します。
[年―月―日 時：分：秒]、[月―日―年 時：分：秒]、[日―月―年 時：分：秒］から選択できます。

日時設定

日付／時刻の設定方法を選択します。

[変更なし]：カメラの日付／時刻を設定しない場合に選択します。

[PC 同期]：カメラの日付／時刻をコンピューターの日付／時刻と合わせるときに選択します。

[手動設定]：カメラの日付／時刻を手動設定するときに選択します。
各リストボックスから、年、月、日、時、分、秒を選択します。

[NTP 同期]：カメラの日付／時刻をNTP（Network Time Protocol）サーバーと呼ばれる時刻サーバーと同期させる場合に選択します。この場合、[NTP サーバー名] と [同期間隔] を設定してください。

NTP サーバー名

NTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。半角文字で 64 文字以内で入力します。

同期間隔

NTP サーバーに現在時刻を問い合わせ、カメラとの時刻調整を行う間隔を設定します。1 ～ 24 時間の間で設定できます。実際にはこの間隔は目安であり、多少の差異があります。

ご注意

ネットワークの環境によって、設定される時刻は多少ずれることがあります。

タイムゾーン選択

カメラの設置してある地域に合わせ、グリニッジ標準時刻との時差を設定します。
リストボックスからカメラを設置してある地域を選択します。
日本の場合は、［Osaka, Sapporo, Tokyo（GMT+9:00）］を選択します。

自動的に夏時間の調整をする

この項目にチェックすると、選択したタイムゾーンの夏時間に合わせて自動的に時刻の修正が行われます。

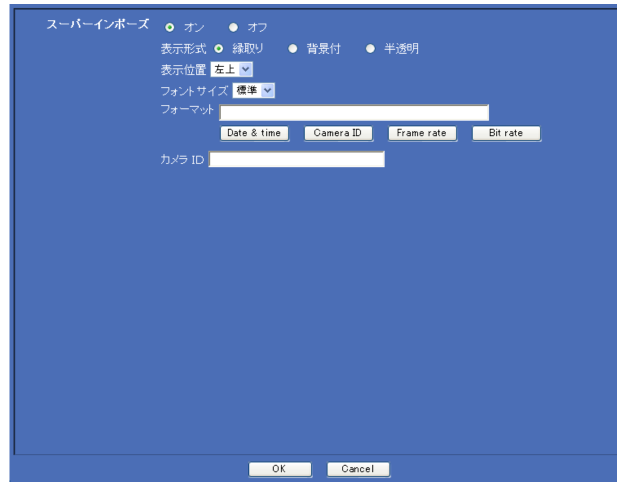
ご注意

[タイムゾーン選択] で選択したタイムゾーンとコンピューターのタイムゾーンが異なる場合は、タイムゾーンの差を反映した日付／時刻がカメラに設定されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

スーパーインポーズタブ



スーパーインポーズ

「オン」を選択すると、映像にカメラ ID や日付 / 時刻を重ねて合成（スーパーインポーズ）することができます。

表示形式

スーパーインポーズする表示形式を選択します。
[縁取り]：文字の周りを縁取りにします。
[背景付]：文字の背景を黒く塗りつぶします。
[半透明]：文字の背景を半透明にします。

表示位置

スーパーインポーズする文字の表示位置を選択します。
[左上]、[右上]、[左下]、[右下] のいずれかを選択します。

フォントサイズ

スーパーインポーズする文字サイズを選択します。
[標準]：文字のサイズを標準の大きさで表示します。最大 41 文字表示されます。
[小]：文字のサイズを標準より小さく表示します。最大 60 文字表示されます。

フォーマット

半角英数の任意の文字や特殊タグを使用して表示する文字を入力します。
ボタンをクリックすると特殊タグが自動的にフォーマット欄に入力されます。
[Date & time]：<DATETIME> がフォーマット欄に入力され、日付と時刻が表示されます。
[Camera ID]：<CAMERAID> がフォーマット欄に入力され、カメラ ID 欄に記入したカメラ ID が表示されます。
[Frame rate]：<FPS> がフォーマット欄に入力され、現在のフレームレートが表示されます。

[Bit rate]：<BPS> がフォーマット欄に入力され、現在のビットレートが表示されます。

カメラ ID

スーパーインポーズで表示する任意のカメラ ID もしくはカメラ名を半角英数で入力します。
[Camera ID] をクリックして <CAMERAID> タグをフォーマット欄に入れてください。

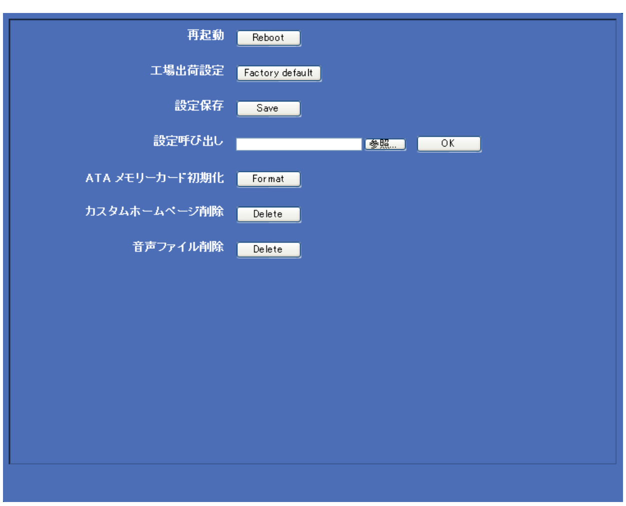
ご注意

- 日付 / 時刻やカメラ ID の文字を表示すると、表示エリアは動体 / 不動体検知の非検知領域として扱われます。
- 文字を表示する場合、表示エリアの背景により文字に背景がうすく透けて見える場合があります。
- 文字を表示する場合、画像サイズを [384 × 288] や [320 × 240（QVGA）] にすると文字も小さくなります。
- 画像サイズを [160 × 120（QQVGA）] にすると文字の判別ができなくなります。
- [日付 / 時刻] を変更した場合、すでに開いているメインビューアーページに設定変更を反映させるには、Web ブラウザの [更新] をクリックしてください。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

初期化タブ



再起動

強制的にカメラを再起動するときに使います。
［Reboot］をクリックすると、「強制的にカメラを再起動します。よろしいですか？」と表示されます。［OK］をクリックするとカメラが再起動します。再起動には約 2 分かかります。

工場出荷設定

カメラを出荷時の設定に戻すときに使います。
［Factory default］をクリックすると、「カメラを出荷時の設定に戻します。よろしいですか？」と表示されます。[OK] をクリックすると、カメラのネットワークインジケーターが点滅し始めます。工場出荷時の設定が終了すると、カメラが自動的に再起動します。カメラが再起動するまではカメラの電源を切らないでください。

補足

カメラ本体のリセットスイッチを押しながら本体の電源を入れても出荷時の設定に戻すことができます。詳しくは、付属の設置説明書をご覧ください。

設定保存

カメラの設定情報をファイルに保存するときに使います。
[Save] をクリックし、Web ブラウザの指示に従ってフォルダーを指定してカメラの設定情報を保存することができます。
保存ファイル名称の初期値は「snc-cs50.cfg」です。

設定呼び出し

保存されているカメラの設定情報を呼び出すときに使います。
[参照 ...] をクリックして、保存されているカメラ設定情報を選択します。[OK] をクリックすると、選択されたファイルに従ってカメラが設定され、再起動します。

ご注意

- 「設定呼び出し」ではネットワークメニュー（42 ページ）の一部の設定は反映されません。
- 「設定保存」および「設定呼び出し」で以下の項目を保存または呼び出しすることはできません。
  - SNC audio upload tool でアップロードされた音声ファイル
  - Custom Homepage Installer で書き込まれたホームページ
  - 802.1X 機能で使用されるクライアント証明書と CA 証明書

ATA メモリーカード初期化

[Format] をクリックすると、本機の PC カードスロットに挿入されている ATA メモリーカードのフォーマット（初期化）を行います。この操作を行うと、ATA メモリーカード中に保存されているファイルやフォルダーは消去されます。

ご注意

・ATA メモリーカード初期化を行う場合は、あらかじめイメージメモリー機能および FTP サーバー機能を [オフ] に設定し、ATA メモリーカードにファイルが書き込まれることのないようにしてください。
・ATA メモリーカードが PC カードスロットに挿入されていない状態で [ATA メモリーカード初期化] の操作を行わないでください。

カスタムホームページ削除

[Delete] をクリックすると、Custom Homepage Installer（95 ページ）を使用して本機のフラッシュメモリーに設定したホームページを削除することができます。

音声ファイル削除

[Delete] をクリックすると、SNC audio upload tool（85 ページ）で本機に保存したすべての音声ファイルを削除することができます。

ご注意

・［Delete］をクリックすると、保存されている音声ファイルが同時に削除されます。個々の音声ファイルを削除する場合は、音声ファイル再生メニュー（70 ページ）の削除したい音声ファイルタブで音声ファイル削除の操作を行ってください。
・あらかじめ音声ファイル再生メニュー（70 ページ）のすべてのタブで [音声ファイル再生] を [オフ] に設定してから音声ファイル削除の操作を行ってください。

システムログタブ



カメラのソフトウェアの動作に関する情報が記述されます。トラブルが発生した時に役立つ情報などが記録されます。
[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

アクセスログタブ

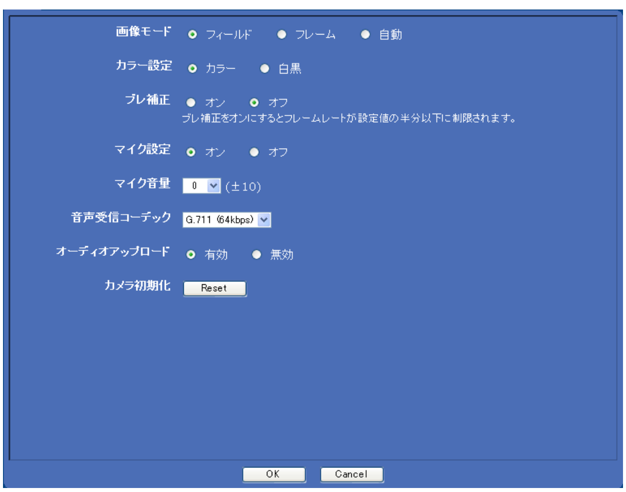


カメラのアクセス履歴が表示されます。
[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

カメラ映像や音声の設定を行う
ーカメラメニュー

管理者設定メニューの カメラ をクリックすると、カメラメニューが表示されます。
このメニューではカメラ機能の設定を行うことができます。
カメラメニューは [共通]、[画像]、[デイ / ナイト]、[ビデオコーデック]、[ストリーミング] の 5 つのタブで構成されます。

共通タブ



画像モード

カメラから出力される映像のモードを選択します。

[フィールド]：動きのある映像を撮影するときに選択します。
[フレーム]：動きのない映像を撮影するときに選択します。垂直解像度が上がりますが、動いているものを撮影するとギザギザの映像が表示されます。
[自動]：撮影する映像の動きに合わせて、動きのない領域に対しては [フレーム] 処理を、動きのある領域に対しては [フィールド] 処理を行って表示します。

カラー設定

映像を [カラー] に設定するか、[白黒] に設定するかを選択します。

ブレ補正

ブレ補正を設定します。[オン] を選択すると振動のある場所に設置した時に揺れの少ない映像を表示できます。

ご注意

- ブレ補正はコンピューター映像にのみ反映されます。Video 出力には反映されません。
- [ブレ補正] を [オン] に設定すると、撮影される画角が約 10% 小さくなります。
- [ブレ補正] を [オン] に設定すると、映像のフレームレートが約半分に低下します。
- 振動によっては、[ブレ補正] を [オン] にしても補正が効かない場合があります。
- 撮影シーンの大部分が単色の壁や床のような平坦な映像の場合、または撮影シーンの大部分を占める大きな物体が通過したり動いていたりする場合、画面全体が小さく動く場合があります。このような場合は [ブレ補正] を [オフ] にしてください。
- 明るさが急に変化した場合や、明るさ設定を変更した場合、一瞬画面全体が小さく動く場合があります。

マイク設定

マイク入力端子から入力される音声を配信するかどうかを設定します。カメラに入力される音声を配信したい場合には [オン] を選択します。

ご注意

[マイク設定] を変更した場合、すでに開いているメインビューアーページに設定変更を反映させるには、Web ブラウザの [更新] をクリックしてください。

マイク音量

マイク入力端子から入力される音量レベルを設定します。[− 10] ～ [+ 10] の範囲で設定できます。

音声受信コーデック

マイク入力端子から入力される音声を配信する場合のビットレートを選択します。
選択可能なビットレートは以下のようになります。

[G.711 (64kbps)]、[G.726 (40kbps)]、[G.726 (32kbps)]、[G.726 (24kbps)]、[G.726 (16kbps)]

ご注意

[G.711(64kbps)] 以外を選択すると、Java applet viewer 使用時に音声が出力されません。

オーディオアップロード

[有効] を選択すると、付属の CD-ROM に収録されている SNC audio upload tool を使用して、お使いのコンピューターの音声入力端子に入力された音声を、カメラのライン出力端子に接続されるスピーカーに出力できます。

カメラ初期化

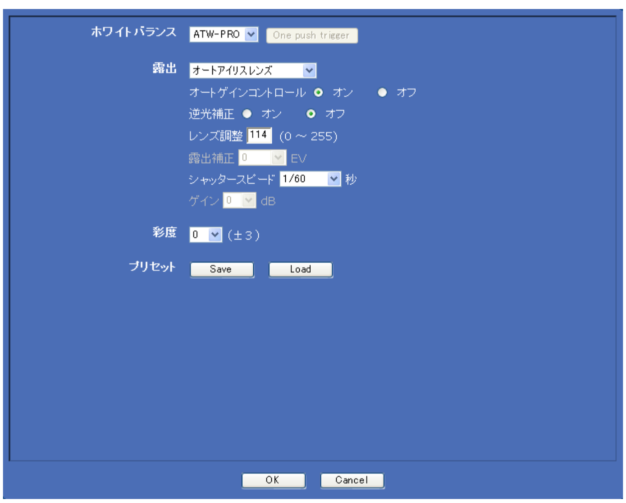
[Reset] をクリックすると、「カメラメニューの設定が初期化されます。よろしいですか？」と表示されます。
[OK] をクリックするとカメラメニューの設定が出荷時の設定に戻ります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

画像タブ

カメラの色再現や露出などに関する設定を行います。



ホワイトバランス

ホワイトバランスモードを選択します。

[ATW]：照明等の影響を受けにくく、本来の色に近い色再現を自動で調整します。（約 2200K ～ 10000K）
[ATW-PRO]：人の見た目に近い色再現を自動で調整します。（約 3000K ～ 7500K）
[ワンプッシュ]：選択すると [One push trigger] が有効になります。[One push trigger] をクリックすると、ホワイトバランスが調整されます。

露出

カメラの露出を選択します。
選択したモードに応じて必要な項目が設定可能になります。

[オートアイリスレンズ]：オートアイリスレンズを使用しているときに選択します。選択すると、[オートゲインコントロール]、[逆光補正]、[レンズ調整]、[シャッタースピード] が設定可能になります。
[マニュアルアイリスレンズ 1]：マニュアルアイリスレンズまたは固定アイリスレンズを使用しており、電子シャッターと AGC（オートゲインコントロール）によって、露出を自動で調整するときに選択します。選択すると [オートゲインコントロール]、[逆光補正]、[露出補正] が設定可能になります。
[マニュアルアイリスレンズ 2]：マニュアルアイリスレンズまたは固定アイリスレンズを使用しており、電子シャッターと感度を自動で調整するときに選択します。選択すると [シャッタースピード]、[ゲイン] が設定可能になります。

オートゲインコントロール

[オン] を選択すると被写体の明るさに応じて、感度を自動で調整します。

逆光補正

[オン] を選択すると逆光補正機能が動作します。

ご注意

逆光補正を [オン] に設定すると、絵柄によってはハンチングを生じることがあります。その場合は、逆光補正を [オフ] に設定してください。

レンズ調整

オートアイリスレンズの絞り収束値のレベルを調整します。0 ～ 255 の範囲で設定できます。

露出補正

露出補正によって画像の明るさを調整する機能です。リストボックスから露出補正値を選択することができます。
選択可能な値は以下のようになります。

＋ 0.20, ＋ 0.16, ＋ 0.12, ＋ 0.08, ＋ 0.04, 0, － 0.04, － 0.08, － 0.12, － 0.16, － 0.20（EV）

シャッタースピード

リストボックスから電子シャッターのシャッタースピードを選択します。
選択可能なシャッタースピードは以下のようになります。

SNC-CS50N
1/10000, 1/4000, 1/2000, 1/1000, 1/500, 1/250,1/100, 1/60（秒）

SNC-CS50P
1/10000, 1/4000, 1/2000, 1/1000, 1/500, 1/250, 1/120, 1/50（秒）

補足

蛍光灯などのちらつき（Flicker）が気になる場合には、[シャッタースピード] を [1/100] に設定することで軽減できます。

ゲイン

リストボックスからゲインを選択します。
選択可能なゲインは以下のようになります。

0, 6, 12, 18, 24 (dB)

彩度

彩度を［－ 3］～［+ 3］の 7 段階から選択します。
［+3］を選択すると最高彩度の画像になります。

プリセット

現在の設定をカスタム設定としてカメラに保存したり、現在保存されている設定を呼び出したりすることができます。画像に関する設定を一時的に変更したり、元に戻したりすることが容易にできます。

[Save]：クリックすると画像タブの現在の設定を保存します。
[Load]：クリックすると現在保存されているカスタム設定を呼び出します。呼び出した設定を反映させたい場合には [OK] をクリックしてください。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

デイ / ナイトタブ

カメラのデイ / ナイト機能に関する設定を行います。



デイ / ナイトモード

デイ / ナイト機能には次の 5 つのモードがあります。

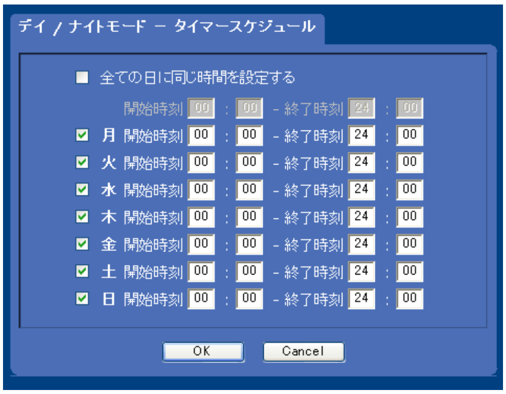
[無効]：常にデイモードで動作します。
[自動]：通常はデイモードで動作します。暗いところでは自動的にナイトモードに切り換わります。
［画像］タブにある［露出］の［オートアイリスレンズ］または［マニュアルアイリスレンズ 1］が選択されていて、[オートゲインコントロール] が［オン］に設定されているときに有効です。
切り換えるタイミングは以下のパラメーターで調整できます。
[切換レベル]：ナイトモードに切り換わったときの明るさのレベルを [高] [低] から選択します。
[保持時間]：明るさの変化に反応する時間を [2 秒] [30 秒] から選択します。

ご注意

・オートゲインコントロールが [オフ] のとき、ナイトモードには切り換わりません。
・ナイトモードに切り換ったときに強いエネルギーを持った光が当たっていると、ハンチングを生じることがあります。その場合は、[センサー] モードで照明に連動した切換を行うか、[手動] モードでデイ / ナイトモードを切り換えてください。

[手動]：デイ / ナイトモードの切り換えを手動で制御します。[手動] を選択すると [オン]、[オフ] が選択できます。[オン] を選択すると、ナイトモードになります。[オフ] を選択するとデイモードになります。
[タイマー]：デイ / ナイトモードをタイマーによって切り換えます。タイマーのスケジュール設定で設定され

た時間になるとナイトモードになり、それ以外ではデイモードで動作します。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」（73 ページ））



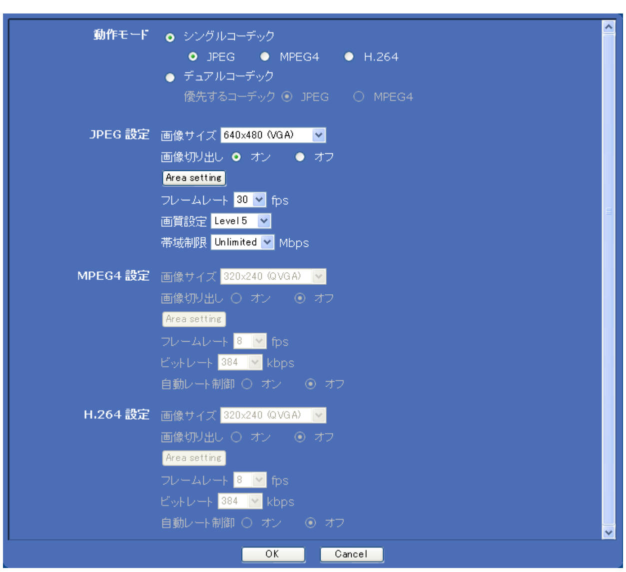
[センサー入力]：センサー入力に対応してデイ / ナイトモードを制御します。対応させるセンサーを [センサー入力 1]、[センサー入力 2] から選択します。センサー入力が検出されている間はナイトモードになります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

ビデオコーデックタブ

ビデオ（映像）コーデックに関する設定を行います。



動作モード

カメラの動作モードを選択します。

[シングルコーデック]：動作させるビデオコーデックを JPEG、MPEG4、H.264 から 1 つ設定するモードです。このモードを使用するときは、[JPEG]、[MPEG4]、[H.264] からビデオコーデックを 1 つ選択します。

[デュアルコーデック]：JPEG、MPEG4 の 2 つのコーデックを同時に動作させるモードです。このモードを使用するときは、[JPEG] と [MPEG4] のどちらのコーデックを優先して処理するか選択します。

JPEG 設定 / MPEG4 設定 /H.264 設定

動作モード設定に応じて、ビデオコーデックの詳細を設定します。
設定した動作モードに応じて、[JPEG 設定]、[MPEG4 設定] または [H.264 設定] の設定可能な項目を設定してください。

画像サイズ

カメラから出力される画像サイズを次から選択します。

SNC-CS50N
[704 × 480（4CIF）]、[640 × 480（VGA）]、[384 × 288]、[320 × 240（QVGA）]、[160 × 120（QQVGA）]

SNC-CS50P
[704 × 576（4CIF）]、[640 × 480（VGA）]、[384 × 288]、[320 × 240（QVGA）]、[160 × 120（QQVGA）]

[640 × 480 (VGA)] を選択し、[画像切り出し] の [オン] を選択すると、必要な部分の画像を切り出してコンピューターに表示できます。

画像切り出し

画像サイズが [640 × 480 (VGA)] のとき、画像を切り出して必要な部分の画像のみを表示させることにより、配信のデータ量を小さくし、回線の負担を軽減し、フレームレートをあげることができます。

画像の切り出しを行うときは [オン]、切り出しを行わないときは [オフ] を選択します。

ご注意

画像切り出しを設定した場合でも、動体 / 不動体検知機能（75 ページ）は画像切り出しを行う前の画像サイズで動作します。

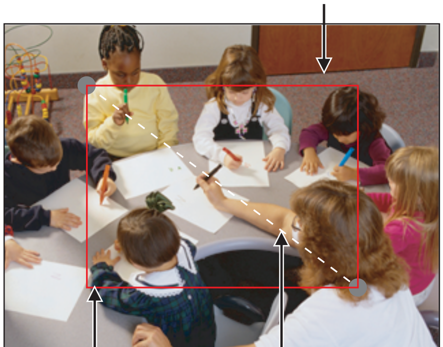
画像の切り出しかた

1 [画像サイズ] を [640 × 480 (VGA)] に設定する。
[画像切り出し] が選択できます。

2 [画像切り出し]の[オン]を選択し、[Area setting]をクリックする。
画像切り出し設定画面が表示されます。

3 切り出し範囲を設定する。
静止画像上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグします。赤い枠で囲まれたエリアが切り出し範囲となります。

静止画像



切り出し範囲（赤枠） マウスのボタンを押したままドラッグする

4 画面下部の［OK］をクリックする。
切り出した画像がメインビューアーに表示されます。

5 画像を閉じるには、画面右上の ❎ をクリックする。

フレームレート

映像のフレームレートを設定します。
選択可能なフレームレートは以下のようになります。

SNC-CS50N
1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 (fps)

SNC-CS50P
1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 16, 20, 25 (fps)

“fps”は1秒間に配信されるフレーム数を示す単位です。

画質設定

動作させるビデオコーデックをJPEGに設定したときに、JPEG映像の画質を設定することができます。
[Level 1]～[Level 10]まで選択できます。[Level 10]を選択すると最高画質になります。

帯域制限

動作させるビデオコーデックをJPEGに設定したときに、カメラが出力するJPEG映像データのネットワーク帯域を制限することができます。

選択できる帯域は以下のようになります。

0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, Unlimited （Mbps）

ご注意

帯域制限を行うと、設定によっては音声が途切れる場合があります。この場合は、制限する帯域を大きくしてください。

ビットレート

動作させるビデオコーデックをMPEG4またはH.264に設定したときに、映像配信の1回線あたりのビットレートを選択することができます。ビットレートを大きい値に設定すると高画質な映像を配信することができます。
選択できるビットレートは以下のようになります。

H.264 : 32, 64, 128, 256, 384, 512, 768, 1024, 1536 (kbps)
MPEG4 : 64, 128, 256, 384, 512, 768, 1024, 1536, 2048 (kbps)

自動レート制御

動作させるビデオコーデックをMPEG4またはH.264に設定したときに、接続しているコンピューターの環境などに合わせてスムーズな映像を再生できるように、映像のフレームレートやビットレートを自動で調整する機能です。[オン]を選択すると自動でMPEG4またはH.264映像のレート調整を行います。

ご注意

- 実際に配信されるフレームレートやビットレートは画像サイズ、撮影シーン、ネットワーク環境などによって設定値とは異なる場合があります。
- [自動レート制御]が[オン]のときの最大配信レートは、フレームレートやビットレートに設定されている値となります。
- [H.264]を動作させるビデオコーデックとして選択した場合、画像サイズを[704 × 480 (4CIF)] (SNC-CS50Pの場合は[704 × 576 (4CIF)])、[640 × 480 (VGA)]または[384 × 288]に設定すると、カメラが配信できるフレームレートは以下のようになります。
  SNC-CS50Nの場合 : 10 fps以下
  SNC-CS50Pの場合 : 8 fps以下
- [MPEG4]を動作させるビデオコーデックとして選択し、画像サイズを[704 × 480 (4CIF)] (SNC-CS50Pの場合は[704 × 576 (4CIF)])、[640 × 480 (VGA)]または[384 × 288]、フレームレートを[25 fps]以上に設定すると、ビットレートが512kbps（4CIFの場合は256kbps）以上ではフレームレートが低下する場合があります。また、動体/不動体検知が動作している間、フレームレートは低下する場合があります。

・動作モードが [デュアルコーデック] のときに、MPEG4 設定の [画像サイズ] を [704 × 480 (4CIF)] (SNC-CS50P の場合は [704 × 576 (4CIF)])、[640 × 480 (VGA)] または [384 × 288] に設定した場合、カメラが配信できるフレームレートは最大 20 fps となります。
・動作モードが [デュアルコーデック] のとき、JPEG と MPEG4 の設定によってはビデオコーデックの同時処理が設定通りとならない場合があります。以下の表に記載されるデュアルコーデック同時処理能力を参考に設定を行ってください。

コーデック同時処理能力

SNC-CS50N

JPEG		MPEG4	
4CIF/VGA/384 × 288	15 fps	4CIF/VGA/384 × 288	15 fps
4CIF/VGA/384 × 288	20 fps	4CIF/VGA/384 × 288	10 fps
4CIF/VGA/384 × 288	10 fps	QVGA	30 fps
VGA/384 × 288	15 fps	QVGA	20 fps
4CIF	15 fps	QVGA	15 fps
QVGA	30 fps	QVGA	30 fps

SNC-CS50P

JPEG		MPEG4	
4CIF/VGA/384 × 288	12 fps	4CIF/VGA/384 × 288	12 fps
4CIF/VGA/384 × 288	16 fps	4CIF/VGA/384 × 288	8 fps
4CIF/VGA/384 × 288	8 fps	QVGA	25 fps
VGA/384 × 288	12 fps	QVGA	16 fps
4CIF	12 fps	QVGA	12 fps
QVGA	25 fps	QVGA	25 fps

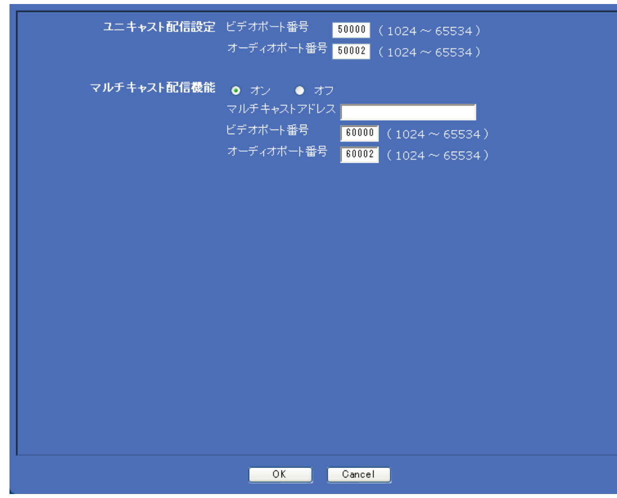
・ビデオコーデックタブで H.264 が選択されている場合、動体 / 不動体検知機能は動作しません。
・動作させるビデオコーデックに [H.264] を選択した場合、FTP クライアントのアラーム送信タブとイメージメモリー機能のアラーム記録タブで、[アラームバッファ使用] を選択することはできません。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

ストリーミングタブ

ユニキャストやマルチキャストを使用した配信に関する設定を行います。



ユニキャスト配信設定

メインビューアー内の をクリックして [UDP (Unicast)] を選択したときに使用される MPEG4、H.264 映像データと音声データの通信ポート番号を指定します。

ビデオポート番号

MPEG4、H.264 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 50000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

オーディオポート番号

音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 50002 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

ご注意

ビデオポート番号とオーディオポート番号には異なる番号を指定してください。

マルチキャスト配信機能

本機が MPEG4、H.264 映像データと音声データのマルチキャスト配信を行うかどうかを設定します。同じセグメントのコンピューターに対して同じ配信データを受信させることによってカメラ側の配信負荷を軽減させることができます。

カメラの設定

マルチキャスト配信を許可する場合には [オン]、許可しない場合には [オフ] を選択します。
[オン] を選択した場合には、以下の [マルチキャストアドレス]、[ビデオポート番号]、[オーディオポート番号] を適切に設定してください。

マルチキャストアドレス

マルチキャスト配信時に使用するマルチキャストアドレスを入力します。

ビデオポート番号

マルチキャスト配信時に使用する MPEG4、H.264 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 60000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

オーディオポート番号

マルチキャスト配信時に使用する音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 60002 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

ご注意

ビデオポート番号とオーディオポート番号には異なる番号を指定してください。

OK/Cancel

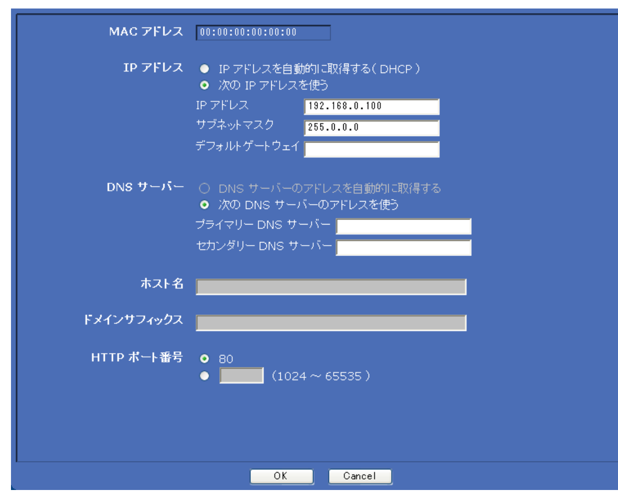
「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

ネットワークを設定する －ネットワークメニュー

管理者設定メニューの ネットワーク をクリックすると、ネットワークメニューが表示されます。
このメニューでは本機とコンピューターを接続するためにネットワーク設定を行います。
ネットワークメニューは [ネットワーク]、[ワイヤレス]、[IP アドレス通知] の 3 つのタブで構成されます。

ネットワークタブ

本機をネットワークケーブルで接続するための設定を行います。



MAC アドレス

カメラの MAC アドレスを表示します。

IP アドレス

IP アドレスの設定を行います。

[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)]：ネットワークに DHCP サーバーが設置されており、IP アドレスが DHCP サーバーから割り振られる環境の場合に選択します。IP アドレスが自動的に割り当てられます。
[次の IP アドレスを使う]： 固定 IP アドレスを設定する場合に選択します。[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] をそれぞれ入力します。

ご注意

[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

IP アドレス
カメラの IP アドレスを入力します。

サブネットマスク
サブネットマスク値を入力します。

デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

DNS サーバー
DNS サーバーのアドレスを設定します。

[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]：DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。ネットワークタブの［IP アドレスを自動的に取得する（DHCP)］を選択したときのみ設定可能です。

[次の DNS サーバーのアドレスを使う]：DNS サーバーの IP アドレスに固定のアドレスを使用する場合に選択し、[プライマリー DNS サーバー]、[セカンダリー DNS サーバー] のアドレスを入力します。

ご注意

［DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する］に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

プライマリー DNS サーバー
プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

セカンダリー DNS サーバー
必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

ホスト名
DHCP サーバーに送信するカメラのホスト名情報を入力します。ネットワークタブの [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ドメインサフィックス
DHCP サーバーに送信するカメラのドメインサフィックス情報を入力します。ネットワークタブの [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ご注意

上記のドメインサフィックスは、[ホスト名] が設定されている場合に FQDN（Fully Qualified Domain Suffix）情報として DHCP サーバーに送信されます。

HTTP ポート番号
通常は [80] を選択します。[80] 以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

ご注意

ネットワークメニューやセットアッププログラムで HTTP ポート番号を [80] 以外のポート番号に設定したときは、Web ブラウザのアドレス欄に以下のように入力してカメラにアクセスし直してください。

例：出荷時の IP アドレスにポート番号 8000 番を設定した場合



OK/Cancel
「各メニューの共通ボタン」(29 ページ）をご覧ください。

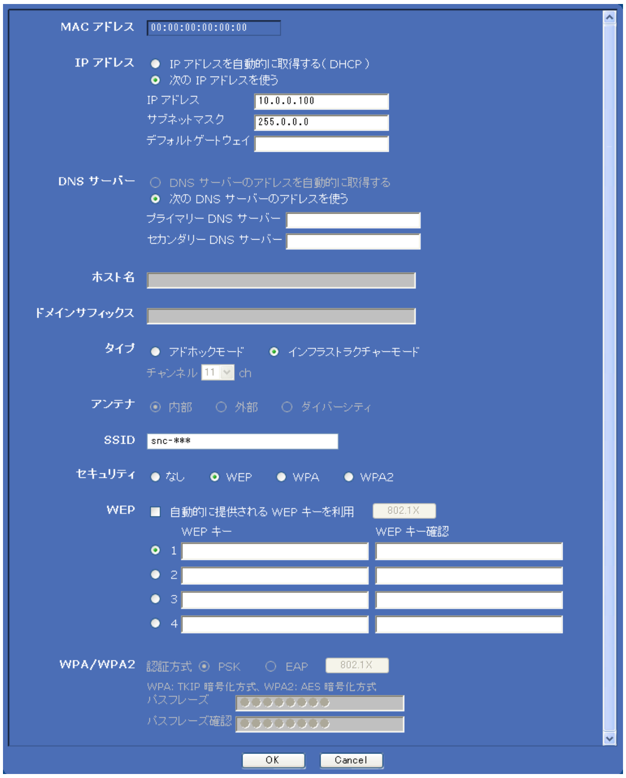
ワイヤレスタブーワイヤレス接続の設定を行う
本機の PC カードスロットに指定のワイヤレスカードを挿入し、ワイヤレスネットワークに接続するための設定を行います。
設定の際には、ワイヤレスカードの取扱説明書や設置説明書も合わせてお読みください。

動作確認済みワイヤレスカード
・ 別売りのソニーワイヤレスカード SNCA-CFW1 または SNCA-CFW5*
・ 市販の CompactFlash type II-PCMCIA 変換アダプター

* SNCA-CFW5 は一部地域では販売されておりません。詳しくはソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

ご注意

・ ワイヤレスカードを抜くときは、必ず本カメラの電源を切ってから行ってください。
・ ワイヤレスカードをお使いの場合は、ネットワークケーブル経由で送受信するデータのスループットが低下する場合があります。



MAC アドレス

PC カードスロットに挿入されているワイヤレスカードの MAC アドレスを表示します。
ワイヤレスカードが挿入されていない場合は「00:00:00:00:00:00」と表示されます。

IP アドレス

ワイヤレスネットワークの IP アドレス設定を行います。

[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)]：ネットワークに DHCP サーバーが設置されており、IP アドレスが DHCP サーバーから割り振られる環境の場合に選択します。IP アドレスが自動的に割り当てられます。

[次の IP アドレスを使う]：固定 IP アドレスを設定する場合に選択します。[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] をそれぞれ入力します。

ご注意

［IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)］に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

IP アドレス

カメラの IP アドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスク値を入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを入力します。

DNS サーバー

DNS サーバーのアドレスを設定します。

[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]：DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。ワイヤレスタブの［IP アドレスを自動的に取得する（DHCP)］を選択したときのみ設定可能です。

[次の DNS サーバーのアドレスを使う]：DNS サーバーの IP アドレスに固定のアドレスを使用する場合に選択し、[プライマリー DNS サーバー]、[セカンダリー DNS サーバー] のアドレスを入力します。

ご注意

［DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する］に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

プライマリー DNS サーバー

プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

セカンダリー DNS サーバー

必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

ホスト名

DHCP サーバーに送信するカメラのワイヤレスネットワーク側のホスト名情報を入力します。ワイヤレスタブの [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ドメインサフィックス

DHCP サーバーに送信するカメラのワイヤレスネットワーク側のドメインサフィックス情報を入力します。ワイヤレスタブの [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ご注意

上記のドメインサフィックスは、[ホスト名] が設定されている場合に FQDN（Fully Qualified Domain Suffix）情報として DHCP サーバーに送信されます。

タイプ

ネットワークの接続タイプを選択します。

[アドホックモード]：コンピューターと直接接続する場合に選択します。[アドホックモード] を選択した場合は、チャンネルを指定してください。
[インフラストラクチャーモード]：アクセスポイントや無線ルーターを経由して接続する場合に選択します。

ご注意

・HTTP ポート番号の設定はネットワークタブの設定と共通になっています。
・［アドホックモード］を選択した場合、［WEP］の［自動的に提供される WEP キーを利用］と［WPA］、［WPA2］は選択できません。
・［セキュリティ］を［WPA］または［WPA2］に設定している際に［インフラストラクチャーモード］から［アドホックモード］に変更した場合、［セキュリティ］の設定は、自動的に［なし］に変更になります。

アンテナ

別売りの専用ワイヤレスカード SNCA-CFW1 または SNCA-CFW5 とワイヤレス LAN アンテナ SNCA-AN1 をお使いの場合、次のアンテナの設定を選択することができます。

[内部]：ワイヤレスカードに内蔵されたアンテナを使って通信を行います。無指向性で近距離での通信に向いています。
[外部]：ワイヤレスカードにワイヤレス LAN アンテナ SNCA-AN1 を接続して、長距離で通信を行う場合に選択してください。
[ダイバーシティ]：ワイヤレスカードにワイヤレス LAN アンテナ SNCA-AN1 を接続してお使いの場合で、近距離および長距離での通信を同時に行う場合に選択してください。感度の良い方のアンテナが自動的に選択されます。

ご注意

SNCA-CFW5 を使用して［ダイバーシティ］に設定した場合、送信側は SNCA-AN1 に固定され、受信側のみアンテナが自動的に選択されます。

SSID

アクセスする特定のワイヤレスネットワークを識別するサービスセット ID です。最大 32 文字の ASCII テキスト文字（半角英数、一部記号）で入力できます。
セキュリティを確保するため、工場出荷時の設定値から変更してご使用ください。

セキュリティ

ワイヤレスネットワークのセキュリティ設定を行います。

[なし]：セキュリティ設定を行わない場合に選択します。

ご注意

セキュリティの観点からは、この設定は推奨できません。

[WEP]：セキュリティ設定で WEP を用いる場合に選択します。
[WPA]：セキュリティ設定で WPA を用いる場合に選択します。
[WPA2]：セキュリティ設定で WPA2 を用いる場合に選択します。

WEP

［セキュリティ］で［WEP］を選択したとき、この設定を行います。

自動的に提供される WEP キーを利用］

自動的に提供される WEP キーを利用する場合に選択します。手動で WEP キーを入力する場合は選択しません。
自動的に提供される WEP キーを利用する場合には 802.1X（ワイヤレス）を動作させる必要があります。この項目を選択し画面下部の［OK］をクリックすると、802.1X（ワイヤレス）の機能が有効となります。

ご注意

802.1X（ワイヤレス）を正常に動作させるためには、証明書などの設定についても適切に行う必要があります。
802.1X（ワイヤレス）の設定内容については 802.1X メニューの説明をご覧ください（48 ページ）。

802.1X

［自動的に提供される WEP キーを利用］が選択されている場合にこのボタンをクリックできます。
［802.1X］をクリックすると、802.1X 設定メニューが表示され、802.1X 機能の設定を行うことができます。

WEP キー

WEP キー情報を入力／選択することができます。［自動的に提供される WEP キーを利用］が選択されていない場合に入力できます。
WEP キーは最大 4 つまで設定できます。WEP キー情報は次のように入力します。

1 設定する WEP キーの番号を選択する。

2 ［WEP キー］と［WEP キー確認］欄に同じ情報を入力する。
WEP キーの長さは、40 または 104 ビット長です。104 ビットの WEP キーでは、40 ビットのキーよりもセキュリティレベルが高くなります。

WEP キー形式は、16 進文字（0-9、A-F）または ASCII テキスト文字（半角英数、一部記号）のどちらでも入力可能です。16 進文字の場合、40 ビット長で 10 文字、104 ビット長で 26 文字入力します。
ASCII テキスト文字の場合、40 ビット長で 5 文字、104 ビット長で 13 文字入力します。
［インフラストラクチャーモード］の場合はアクセスポイントと同じキーに、［アドホックモード］の場合は通信先のクライアントと同じキーに設定する必要があります。

WPA/WPA2

［セキュリティ］で［WPA］または［WPA2］を選択したとき、この設定を行います。
WPA または WPA2 の暗号化方式には TKIP、AES がありますが、本機で利用できる暗号化方式は、WPA の場合は TKIP、WPA2 の場合は AES です。

認証方式

認証方式の設定を行います。

[PSK]：認証方式として PSK を使用する場合に選択します。PSK を使用する場合は［パスフレーズ］を設定する必要があります。
[EAP]：認証方式として EAP を使用する場合に選択します。EAP を利用する場合には 802.1X（ワイヤレス）を動作させる必要があります。この項目を選択し画面下部の［OK］をクリックすると、802.1X（ワイヤレス）の機能が有効となります。

ご注意

802.1X（ワイヤレス）を正常に動作させるためには、証明書などの設定についても適切に行う必要があります。
802.1X（ワイヤレス）の設定内容については 802.1X メニューの説明をご覧ください（48 ページ）。

802.1X

［認証方式］で［EAP］が選択されている場合にこのボタンをクリックできます。
［802.1X］をクリックすると、802.1X 設定メニューが表示され、802.1X 機能の設定を行うことができます。

パスフレーズ

［認証方式］で［PSK］を選択したとき、入力します。
ASCII テキスト文字（半角英数、一部記号）8 ～ 63 文字か、16 進文字（0-9、A-F）で 64 文字入力できます。

パスフレーズ確認

［パスフレーズ］の確認のために、［パスフレーズ］に入力した文字と同じ文字を再入力します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

IP アドレス通知タブ — IP アドレス通知を行う

ネットワークタブまたはワイヤレスタブで [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択した場合、SMTP や HTTP などのプロトコルを使用してネットワーク設定の完了通知を送ることができます。



メール通知

[オン] を選択すると、DHCP 設定完了時にメールを送信することができます。

SMTP サーバー名

メール送信に使用する SMTP（送信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または SMTP サーバーの IP アドレスを入力します。

認証設定

メールの送信に要求される認証方法を設定します。

[オフ]：メール送信に認証が必要ない場合に選択します。
[オン]：メール送信に認証が必要な場合、以下の認証方法を選択し、必要に応じて [POP サーバー名]、[ユーザー名]、[パスワード] を入力します。
　[SMTP 認証]：メール送信に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

カメラの設定

[POP before SMTP 認証]：メール送信に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

ご注意

[オン] で設定する場合、必ず [SMTP 認証] または [POP before SMTP 認証] のどちらかまたは両方を選択してください。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP（受信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要となります。

ユーザー名 、パスワード

メールアカウントを持っているユーザーのユーザー名とパスワードを半角 64 文字以内で入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが認証を行う場合に必要となります。

宛先アドレス

送信先（受取人）のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。送信先は 1 つのみです。

管理者アドレス

カメラ管理者のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。メールの返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

件名

メールの件名 / 題名を半角 64 文字以内で入力します。

本文

メールの本文を半角 384 文字以内、全角 192 文字以内（改行は半角 2 文字換算）で入力します。半角カナ文字は使用しないでください。
後述の特殊タグを使用して、取得した IP アドレスなどの情報を記入することができます。

HTTP 送信

[オン] を選択すると、DHCP 設定完了時に HTTP サーバーにコマンドを出力させることができます。コマンドを受け取る側の HTTP サーバーに残るアクセスログを参照したり、CGI による外部プログラムを起動させたりするなど、便利なシステムを構築することが可能となります。

URL

HTTP リクエストを送信するための URL を指定します。
URL は通常以下の形式で 256 文字以内で記述します。

http://ip_address[:port]/path?parameter

ip_address：接続すべきホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[:port]：接続するポート番号を入力します。通常の HTTP サーバーは Well-known ポートである 80 番を使用しますが、この場合には省略することができます。
path：コマンドを入力します。
parameter：必要があればコマンドのパラメーターを入力します。パラメーターには後述の特殊タグを入力することができます。

プロキシサーバー名

プロキシサーバー経由で HTTP リクエストを送信する際に設定します。プロキシサーバー名またはその IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

プロキシポート番号

プロキシサーバー経由で HTTP リクエストを送信するためのポート番号を設定します。1024 ～ 65535 の値を設定することができます。

送信メソッド

HTTP のメソッドを選択します。サポートされているメソッドは [GET]、[POST] の 2 種類です。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

特殊タグについて

IP アドレス通知には、DHCP で取得した IP アドレスなどを通知できるようにするため特殊タグを使用することができます。これはメール機能の本文中、HTTP の URL のパラメーター部分に入力することができます。特殊タグには以下の 5 種類があります。

<IP>

このタグを使用すると DHCP 設定後の IP アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<HTTPPORT>

このタグを使用すると設定されている HTTP サーバーのポート番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MACADDRESS>

このタグを使用すると DHCP で IP アドレスを取得したインターフェースの MAC アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MODELNAME>

このタグを使用すると本機のモデル名称を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<SERIAL>

このタグを使用することで本機のシリアル番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

802.1X 認証機能を使用する
– 802.1X メニュー

管理者設定メニューの 802.1X をクリックすると 802.1X メニューが表示されます。このメニューでは 802.1X 仕様に基づいた有線ポート／無線ポート認証を行うための設定を行います。

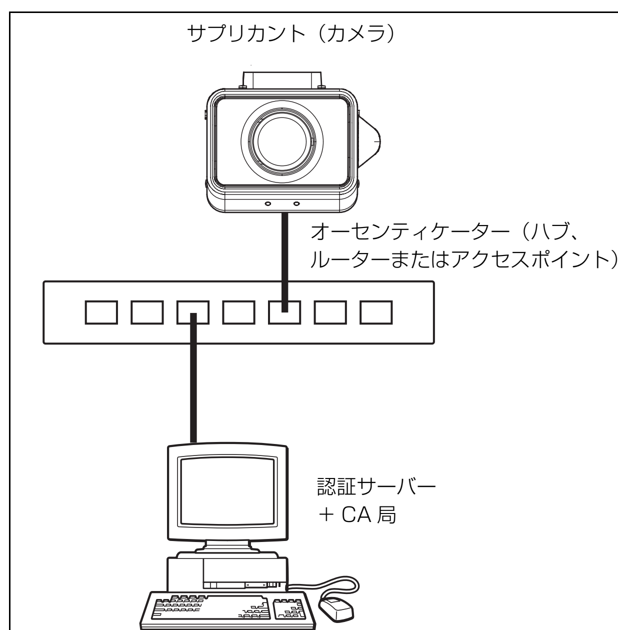
802.1X メニューは［共通］、［クライアント証明書］、［CA 証明書］の 3 つのタブで構成されます。

ご注意

802.1X 認証機能をご利用になるには、あらかじめ 802.1X 認証（WPA、WPA2）およびデジタル証明書に関する知識が必要です。また、802.1X ネットワークを構築するには、オーセンティケーター、アクセスポイント、認証サーバーなどの設定が必要です。これらの設定については該当機器の取扱説明書などをご覧ください。

802.1X ネットワークのシステム構成

802.1X ネットワークの一般的なシステム構成はつぎのとおりです。



サプリカント

認証サーバーと接続し、認証ネットワークに参加する機器を指します。本カメラは 802.1X ネットワークにおいてサプリカントとなります。サプリカントは、認証サーバーと適切な認証を行うことによって 802.1X ネットワークに接続できます。

オーセンティケーター

サプリカントや認証サーバーから発行される要求データや返答データを相互に転送する役割を果たします。通常は、ハブやルーター、アクセスポイントがオーセンティケーターとなります。

認証サーバー

接続ユーザーのデータベースを持ち、接続しようとするサプリカントが正しいユーザーであるかどうかを確認します。RADIUS サーバーと呼ばれることもあります。

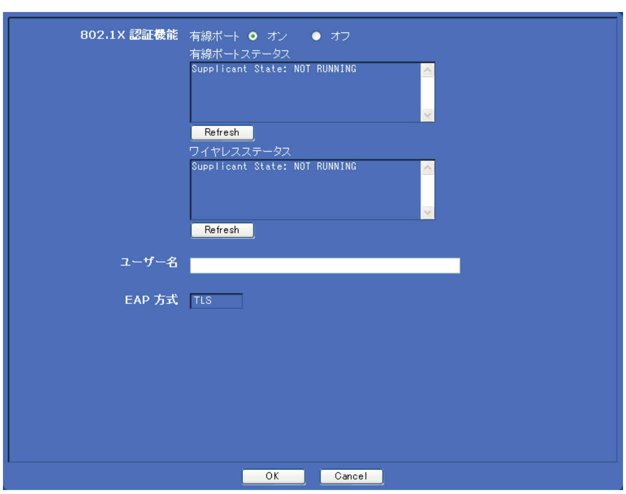
CA 局

認証サーバーの証明書（CA 証明書）やユーザーの証明書を発行、管理します。ユーザーの認証方法に証明書を使用する場合に必要です。通常は、認証サーバー内に CA 局を構成します。

ご注意

本機の 802.1X 認証機能は証明書を用いてサプリカント、サーバーの相互認証を行う EAP-TLS モードのみに対応しています。このため、証明書を発行する CA 局が必要となります。

共通タブ－ 802.1X 認証機能の基本設定を行う



802.1X 認証機能

802.1X 認証機能の有線ポートの有効／無効の設定を行います。また、有線ポートおよびワイヤレスのステータスの確認ができます。

ご注意

ワイヤレスの 802.1X 認証機能を使用するにはネットワークメニューのワイヤレスタブの［セキュリティ］の設定が必要です。詳しくは、「セキュリティ」（45 ページ）をご覧ください。

有線ポート

有線ポートの 802.1X 認証機能を使用するときは［オン］を選択します。

有線ポートステータス

有線ポートの 802.1X 認証機能の認証状態などを表示します。
［Refresh］をクリックすると、最新の情報に更新されます。

ワイヤレスステータス

ワイヤレスの 802.1X 認証機能の認証状態などを表示します。
［Refresh］をクリックすると、最新の情報に更新されます。

ユーザー名

802.1X の認証サーバーにおいてクライアントを特定するユーザー名を半角 3 ～ 253 文字で入力します。

EAP 方式

認証サーバーとの認証方式を表示します。本機では TLS 方式のみをサポートしているため、変更できません。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

クライアント証明書タブ

カメラへのクライアント証明書のインポートや証明書要求のエクスポートを行います。



TLS モード

TLS モードを選択します。
EAP-TLS 認証方式では、証明書を基にした認証を行います。カメラ側に保存する「クライアント証明書」には鍵ペアとなる「秘密鍵情報」が必要となります。TLS モードでは「秘密鍵情報」の入手先に応じた 2 つのモードをサポートしています。

［秘密鍵情報を含む証明書を利用］： CA 局から発行される証明書（秘密鍵情報を含む）を利用するモードです。サポートされる証明書形式は PKCS#12 形式または PEM 形式です。

［カメラ内蔵の秘密鍵を利用］： 本機に搭載されている耐タンパーチップに保管されている秘密鍵情報を利用するモードです。証明書要求の発行や証明書の移動（インポート）時に秘密鍵情報を持ち出すことがないため、より安全なモードです。このモードでサポートされる証明書形式は PEM 形式のみとなります。
このモードを利用するには、「証明書要求（CSR）のエクスポート」（51 ページ）を行い、CA 局から証明書を取得する必要があります。

クライアント証明書

クライアント証明書のインポート、内容表示、削除を行います。

クライアント証明書をインポートするには

［参照 ...］をクリックして、インポートしたいクライアント証明書を選択します。
［Submit］をクリックすると、選択されたファイルがカメラにインポートされます。

ご注意

クライアント証明書以外のファイルを選択したときや、許可されていない形式のクライアント証明書がインポートされたときはインポート処理が無効となります。

クライアント証明書の内容表示をするには

クライアント証明書がカメラに正しく保存されると、［証明書のステータス］、［発行者識別名］、［サブジェクト識別名］、［有効期間］、［拡張キー使用法］に情報が表示されます。

［証明書のステータス］： クライアント証明書の有効／無効に関する情報を表示します。ステータスには以下の種類があります。

［有効］： クライアント証明書が正しく保存・設定されています。

［無効］： クライアント証明書が正しく保存・設定されていません。

無効になった場合には、以下の原因が考えられます。

– ［秘密鍵情報を含む証明書を利用］が選択されている場合で、クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードが正しく設定されていない
– ［秘密鍵情報を含む証明書を利用］が選択されている場合で、クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていないのに、秘密鍵パスワードが設定されている
– ［秘密鍵情報を含む証明書を利用］が選択されている場合で、クライアント証明書に含まれるはずの秘密鍵情報が含まれていない
– ［カメラ内蔵の秘密鍵を利用］が選択されている場合で、カメラから発行された証明書要求（CSR）を基に発行されたクライアント証明書がインポートされていない

ご注意

インポートするクライアント証明書が PKCS#12 形式の場合には、秘密鍵パスワードを正しく設定しないと［発行者識別名］、［サブジェクト識別名］、［有効期間］、［拡張キー使用法］の欄に“<Put correct private key password>”と表示されます。正しい秘密鍵パスワードを設定しないと証明書情報は確認できません。

クライアント証明書を削除するには

［Delete］をクリックすると、カメラに保存されたクライアント証明書を削除します。

秘密鍵パスワード

クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードを半角 50 文字以内で設定します。［TLS モード］が［秘密鍵情報を含む証明書を利用］の場合にのみ入力可能です。
クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていない場合には空欄にしてください。
秘密鍵パスワードがカメラに設定されていない場合は、秘密鍵パスワードの入力が可能です。
秘密鍵パスワードがすでに設定されている場合は、パスワードが伏せ字で表示されます。

Reset

すでに設定した秘密鍵パスワードを変更したい場合、このボタンをクリックすると、現在のパスワードがクリアされ、新しいパスワードの入力が可能になります。

ご注意

［Reset］をクリックした後で秘密鍵パスワードの変更を中止する場合は、画面下部の Cancel をクリックして

ください。この場合、クライアント証明書タブの他の設定項目についても変更前の状態に戻ります。

証明書要求（CSR）のエクスポート

カメラ内蔵の鍵ペアに対応した証明書要求（CSR）をエクスポートします。証明書要求に必要な項目を入力し、[Export] をクリックすると証明書要求をエクスポートできます。[TLS モード] が [カメラ内蔵の秘密鍵を利用] に設定されている場合にエクスポートできます。

ご注意

[証明書要求（CSR）] のすべての入力項目が空の状態で [Export] をクリックすると、[コモンネーム（Common name）] に "localhost" と入力された証明書要求がエクスポートされます。

[国名（Country name）]：リストボックスから国名（Country name）を選択します。

[州名／都道府県名（State or Province name）]：州名／都道府県名（State or Province name）を、半角英数字と記号を使って 128 文字以内で入力します。

[市区町村名（Locality name）]：市区町村名（Locality name）を、半角英数字と記号を使って 128 文字以内で入力します。

[企業名（Organization name）]：企業名（Organization name）を、半角英数字と記号を使って 64 文字以内で入力します。

[部署名（Organization unit name）]：部署名（Organization unit name）を、半角英数字と記号を使って 64 文字以内で入力します。

[コモンネーム（Common name）]：コモンネーム（Common name）を、半角英数字と記号を使って 64 文字以内で入力します。

[e-mail アドレス（Email address）]：e-mail アドレス（Email address）を、半角英数字と記号を使って 64 文字以内で入力します。

ご注意

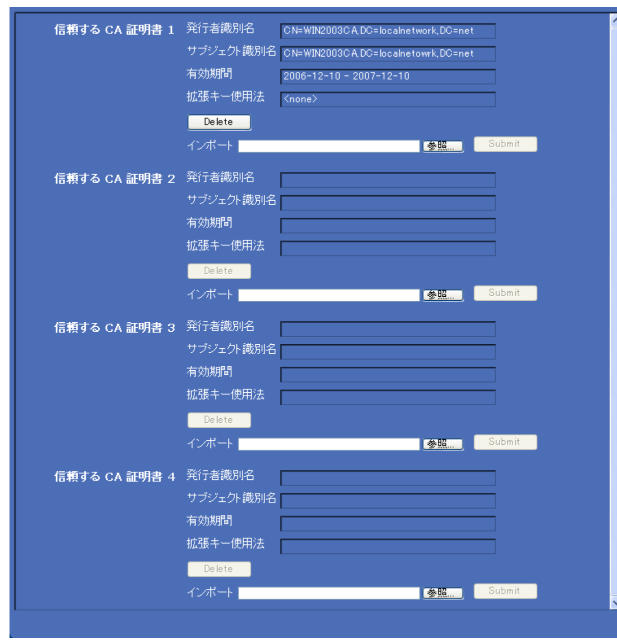
・/（スラッシュ）、=（等号）、,（カンマ）は記号として入力できません。
・[州名／都道府県名（State or Province name）]、[市区町村名（Locality name）]、[企業名（Organization name）]、[部署名（Organization unit name）]、[コモンネーム（Common name）]、[e-mail アドレス（Email address）] の入力値の合計は、以下のようになっている必要があります。
  [国名（Country name）] が選択されている場合：218 文字以内
  [国名（Country name）] が選択されていない場合：220 文字以内

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

CA 証明書タブ

信頼する CA 証明書（サーバー証明書、ルート証明書）をカメラへインポートします。カメラへは信頼する CA 証明書を 4 つまでインポートすることができます。サポートされる証明書形式は PEM 形式のみです。



CA 証明書をインポートするには

[参照 ...] をクリックして、カメラに保存したい CA 証明書を選択します。
[Submit] をクリックすると、選択されたファイルがカメラに転送されます。

ご注意

CA 証明書以外のファイルを選択すると、インポート処理が無効となります。

CA 証明書の内容表示をするには

CA 証明書がカメラに正しく保存されると、[発行者識別名]、[サブジェクト識別名]、[有効期間]、[拡張キー使用法] に情報が表示されます。

CA 証明書を削除するには

[Delete] をクリックすると選択した CA 証明書をカメラから削除します。

802.1X 認証機能の設定のしかた－Windows Server 2003 を使用した場合の例

ここでは、Microsoft 社製の Windows Server 2003 を使用して、認証サーバーおよび CA 局を構成する場合の設定例について説明します。

ご注意

ここでの説明は Windows Server 2003 のユーザーインターフェースを基に記載していますが、オペレーティングシステムのバージョンやサービスパック、パッチの更新状況などにより、表記やページ構成が異なることがあります。

設定の前に

802.1X ネットワークを構成するには、以下の事前設定が必要になります。

Active Directory（ドメインコントローラ）について

この設定例では Active Directory が構成されている前提で説明します。

Windows IAS の構成

Windows Server 2003 の「サーバーの役割管理」メニューで「リモートアクセス／ VPN サーバー」を構築します。
また、Windows メニューの「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を開き、「Windows コンポーネントの追加と削除」でインターネット認証サービス（IAS）をインストールします。

CA 局の構成

次の手順で CA 局を構成します。

1 Windows メニューの「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を開く。

2 ［Windows コンポーネントの追加と削除］を選択する。

3 コンポーネントメニューにある［証明書サービス］を追加する。

4 ［認証局の種類］で［エンタープライズのルート CA］を選択し、次へ進む。

5 ［この CA の共通名］欄に CA 局の名称を入力し、CA 局を構成する。

Active Directory 用セキュリティグループを作成するには

1 Windows メニューの「管理ツール」から「Active Directory ユーザーとコンピュータ」を開く。

2 802.1X 接続を行いたいドメインの ［Users］項を選択して右クリックする。

3 コンテキストメニューの［新規作成］から［グループ］を選択し、802.1X 接続用のグループを作成する。
例として、「Wired_802.1X_Group」という名称のグループを作成したと仮定して説明を行います。

インターネット認証サービスを設定するには

1 Windows メニューの「管理ツール」から「インターネット認証サービス」を開く。

2 操作メニューにある ［Active Directory にサーバーを登録］をクリックする。

3 クリック後に表示される注意事項を良くお読みになり、同意される場合には［OK］をクリックする。

次に EAP-TLS 用のポリシーを作成します。

4 ［リモートアクセスポリシー］を選択して右クリックする。

5 コンテキストメニューの［新規作成］から［新しいリモートアクセスポリシー］を選択して「新しいリモートアクセスポリシーウィザード」を開く。

6 ［カスタムポリシーを設定する］を選択する。

7 以下の項目を設定する。
［ポリシー名］：例として「Allow 802.1X Access」と入力します。
［ポリシー条件］：［追加］をクリックして以下の項目を追加します。
－ NAS-Port-Type：イーサーネット、ワイヤレス - IEEE802.11、ワイヤレス - その他、仮想（VPN）
－ Windows-Groups：Wired_802.1X_Group
［アクセス許可］：［リモートアクセス許可を与える］を選択します。
［プロファイルの編集］：
－ダイヤルインの制限タブ：クライアントが接続できる時間（セッションタイムアウト）を必要に応じて設定します。

－認証タブ：すべてのチェックボックスを外します。また、［EAP メソッド］をクリックし、“スマートカードまたはその他の証明書”を追加します。

次に RADIUS クライアントの設定を行います。

8 ［RADIUS クライアント］を選択して右クリックする。

9 コンテキストメニューから［新しい RADIUS クライアント］を選択する。

10 以下の内容を入力する。
［フレンドリ名］：例として「authenticator」と入力します。
［クライアントのアドレス］：オーセンティケーターの IP アドレス
［クライアントベンダ］：RADIUS Standard
［共有シークレット］：オーセンティケーターに設定する共有シークレットを設定します。

ユーザーを追加するには

1 Windows メニューの［管理ツール］から［Active Directory ユーザーとコンピュータ］を開く。

2 ユーザーを追加したいドメインの［Users］項を選択して右クリックする。

3 コンテキストメニューの［新規作成］から［ユーザー］を選択する。

4 以下の項目を設定し、新たなユーザーを設定する。
例として、ログオンユーザー名を「1XClient」として説明します。
［姓］：1XClient
［ログオン名］：1XClient@ ＜ドメイン名＞
［パスワード］：パスワードを設定します。また、アカウントオプションにて［パスワードを無期限にする］を選択します。

5 追加ユーザーを選択し、右クリックする。

6 コンテキストメニューから［プロパティ］を選択する。

7 以下の詳細を設定する。
［ダイヤルインタブ］：リモートアクセス許可にて［アクセス許可］を選択します。
［所属するグループタブ］：「Wired_802.1X_Group」を追加します。

これで 802.1X ネットワークを構成するための準備が完了しました。
カメラ側にインポートする証明書の発行の手順を次に記載します。

CA 証明書を発行するには

一時的に証明書を保存する Windows クライアント PC を準備します（以下、クライアント PC と呼ぶ）。クライアント PC と Windows Server 2003 のコンピューターがネットワーク接続可能になるように構成します。

1 クライアント PC で Internet Explorer を起動する。

2 アドレスバーに CA 局の URL を入力し、［移動］をクリックする。
CA 局の URL は、通常、以下のようになっています。
http://（CA局のIPアドレス）/CertSrv/

Microsoft 証明書サービスのページが表示されます。



ご注意

上記の URL で Microsoft 証明書サービスのページが表示されない場合には、以下の点を確認してください。
－インターネットインフォメーションサービス（IIS）で、Web サイトのサービスが開始状態になっていますか？
－証明書サービスが開始状態になっていますか？
－クライアント PC 側のファイアーウォール設定やアンチウィルスソフトなどにより接続できない状態になっていませんか？
－クライアント PC 側のネットワーク設定や Internet Explorer の設定は正しいですか？

3 Internet Explorer がログインユーザー、パスワードの入力を促したら、以下のようにユーザー名を入力する。

例として、ユーザー名が「1XClient」、ドメイン名が「localnetwork.net」の場合、以下のようにユーザー名を入力します。

1XClient@localnetwork.net

4 ［CA 証明書、証明書チェーン、または CRL のダウンロード］をクリックする。

5 ［エンコード方式］で［Base64］を選択し、［CA 証明書のダウンロード］をクリックする。
ファイルのダウンロードのダイアログが表示されます。

6 ファイルの保存場所を指定し、CA 証明書を保存する。

上記の手順で保存された CA 証明書をカメラにインポートすることで CA 証明書のインポートは完了となります。

クライアント証明書をダウンロードするには

クライアント証明書のダウンロードのしかたは、カメラの TLS モードに応じて異なります。それぞれの TLS モードについて説明します。
TLS モードについては、「クライアント証明書タブ」の「TLS モード」（50 ページ）をご覧ください。

［秘密鍵情報を含む証明書の利用］の場合

1 クライアント PC で Internet Explorer を起動し、アドレスバーに CA 局の URL を入力する。
CA 局の URL は、通常、以下のようになっています。

http://（CA局のIPアドレス）/CertSrv/

2 ［移動］をクリックする。

3 ログインユーザー名、パスワードを正しく入力し、Microsoft 証明書サービスページを表示する。

4 ［証明書を要求する］、［要求の詳細設定を送信する］、［この CA へ要求を作成し送信する］の順にクリックする。

5 以下の項目を設定する。



［証明書テンプレート］：ユーザー
［キーのオプション］：新しいキーセットを作成します。
－ CSP：Microsoft Enhanced Cryptographic Provider v1.0
－キーのサイズ：1024
－［エクスポート可能なキーとしてマークする］をチェックします。
［追加オプション］：ハッシュ アルゴリズムを「SHA-1」に設定します。

6 ［送信］をクリックする。
［証明書は発行されました］と表示されます。

7 ［この証明書をインストール］をクリックして、クライアント PC の証明書ストアにインストールする。

8 Internet Explorer の ［インターネットオプション］、［コンテンツ］、［証明書］の順にクリックする。
［個人］タブに新たなクライアント証明書が保存されていることが確認できます。

9 インストールされた証明書を選択し、［エクスポート］をクリックする。
「証明書エクスポートウィザード」が表示されます。

10 ［次へ］をクリックし、以下のように選択する。
［証明書と一緒に秘密キーをエクスポートしますか？］：［はい、秘密キーをエクスポートします］を選択します。
［使用する形式を選択してください］：［Personal Information Exchange - PKCS#12（PFX）］を選択します。
［パスワード］：秘密鍵パスワードを設定します。
［エクスポートするファイル］：エクスポートするファイル名を設定します。

これで、証明書がエクスポートされます。エクスポートされたファイルをカメラのクライアント証明書としてインポートします。
詳しくは、「クライアント証明書」タブの「クライアント証明書をインポートするには」（50 ページ）をご覧ください。

［カメラ内蔵の秘密鍵を利用］の場合

このモードを利用する場合には、あらかじめ、カメラから証明書要求（CSR）のダウンロードを行っておく必要があります。
詳しくは、「クライアント証明書」タブの「証明書要求（CSR）のエクスポート」（51 ページ）をご覧ください。

1 クライアント PC で Internet Explorer を起動し、アドレスバーに CA 局の URL を入力する。
CA 局の URL は、通常以下のようになっています。

http://（CA局のIPアドレス）/CertSrv/

2 ［移動］をクリックする。

3 ログインユーザー名、パスワードを正しく入力し、Microsoft 証明書サービスページを表示する。

4 ［証明書を要求する］、［要求の詳細設定を送信する］、［Base 64 エンコード CMC または PKCS #10 ファイルを使用して証明書の要求を送信するか、または Base 64 エンコード PKCS #7 ファイルを使用して更新の要求を送信する。］の順にクリックする。
［証明書の要求または更新要求の送信］ページが表示されます。

5 ［保存された要求］のテキストボックスに、あらかじめカメラからエクスポートした証明書要求（CSR）の内容を貼り付ける。



6 ［証明書テンプレート］を「ユーザー」に設定し、［送信］をクリックする。
［証明書は発行されました］と表示されます。

7 ［Base64 エンコード］を選択して、［証明書のダウンロード］をクリックする。
これで証明書が保存されます。保存されたファイルをカメラのクライアント証明書としてインポートします。
詳しくは、「クライアント証明書」タブの「クライアント証明書をインポートするには」（50 ページ）をご覧ください。

ご注意

上記の手順で保存される証明書は、CA 証明書を保存する際の初期ファイル名称（certnew.cer）と同様となります。クライアント PC で上書きされないようにご注意ください。

ユーザー設定をする
－ユーザーメニュー

管理者設定メニューの ユーザー をクリックすると、ユーザーメニューが表示されます。
このメニューでは、管理者（Administrator）と最大 9 ユーザー（User 1 ～ User 9）のユーザー名とパスワード、および各ユーザーのアクセス権が設定できます。



Administrator

[ユーザー名]、[パスワード]、[パスワードの確認] を設定します。

User 1 ～ User 9

各列に [ユーザー名]、[パスワード]、[パスワードの確認]、[FTP]、[オーディオ]、[ビューアーモード] を設定します。

ユーザー名

ユーザー名を 5 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

パスワード

パスワードを 5 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

パスワードの確認

パスワードの確認のために、パスワード欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

FTP

FTP サーバーへのログインを許可するかどうかの設定を行います。FTP サーバーへログインする必要がある場合には、チェックしてください。

オーディオ

付属の CD-ROM に収録されている SNC audio upload tool を使用し、カメラのライン出力端子に接続されるスピーカーへの音声出力を許可するかどうかを設定します。音声の出力を行う必要がある場合はチェックしてください。

ご注意

SNC audio upload tool を使用して音声出力を行う場合は、あらかじめカメラメニューの [オーディオアップロード] 設定を [有効] に設定してください。（37 ページ）

ビューアーモード

メインビューアーを表示するときにユーザー認証を行う場合、認証後に表示させるビューアーのモードを選択できます。

[フル]： このモードではすべての操作が可能です。
[ライト]： ビューモードに加え、メインビューアーの画像サイズ選択やデジタルズーム操作、静止画取得が可能です。
[ビュー]： カメラ映像のモニターのみが可能です。

各ビューアーモードで利用できる機能については、「管理者とユーザーについて」（18 ページ）をご覧ください。

ビューアー認証

メインビューアーを表示するときにユーザー認証を行うかどうかの設定を行います。

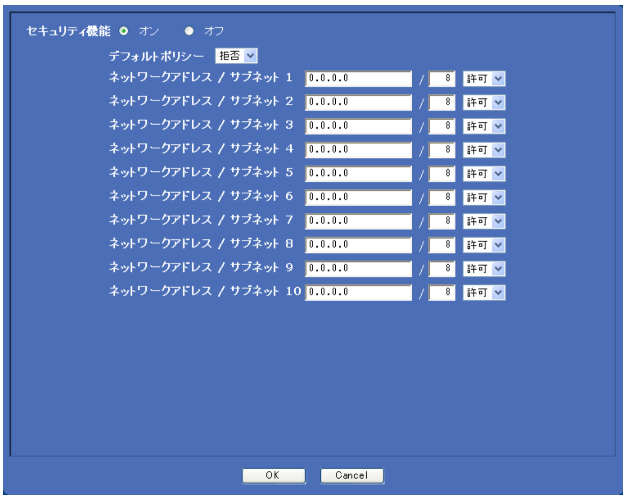
[オン]： 認証ユーザーに合ったビューアーモードでメインビューアーが表示されます。
[オフ]： [オフ] を選択したときは、認証をせずに表示させるメインビューアーのビューモードを [フル]、[ライト]、[ビュー] の中から選択します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

セキュリティ設定をする
－セキュリティメニュー

管理者設定メニューの セキュリティ をクリックすると、セキュリティメニューが表示されます。
このメニューでは、本機にアクセスできるコンピューターを制限するセキュリティ機能を設定します。



セキュリティ機能

セキュリティ機能を使用するときは [オン] を選択します。

デフォルトポリシー

下記のネットワークアドレス／サブネット 1 ～ネットワークアドレス／サブネット 10 に設定するネットワークアドレス以外のコンピューターに対して、アクセス制限を［許可］にするか、［拒否］にするかを設定します。

ネットワークアドレス／サブネット 1 ～ネットワークアドレス／サブネット 10

アクセスを許可または拒否したいネットワークアドレス / サブネットマスク値を入力します。
10 種類のネットワークアドレス / サブネットマスクが設定可能です。
サブネットマスクは 8 ～ 32 を半角で入力します。
それぞれのネットワークアドレス／サブネットマスクに対し、右のリストボックスで［許可］、または［拒否］を設定できます。

補足

サブネットマスク値はネットワークアドレスの左からのビット数を表わします。
たとえば 255.255.255.0 のサブネットマスクに対しては 24 となります。
「192.168.0.0/24」、「許可」と設定すれば 192.168.0.0 ～ 192.168.0.255 の IP アドレスのコンピューターに対してアクセスを許可できます。

ご注意

アクセス制限を［拒否] に設定された IP アドレスのコンピューターからでも、認証画面でユーザーメニューの Administrator（管理者）欄に設定したユーザー名とパスワードを入力すると、カメラにアクセスすることができます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

メールに画像を添付して送る
－メール (SMTP) メニュー

管理者設定メニューの メール（SMTP） をクリックすると、メール（SMTP）メニューが表示されます。
メール（SMTP）機能を使用すると、外部センサー入力や内蔵の動体 / 不動体検知機能に連動して撮影された映像ファイルをメールに添付して送信することができます。また、映像ファイルを定期的に送信することも可能です。
メール（SMTP）メニューは [共通]、[アラーム送信]、[定期送信] の 3 つのタブで構成されます。

共通タブ ― メール（SMTP）機能の基本設定をする



メール（SMTP）機能

メール（SMTP）機能を使用するときは［オン］を選択します。

ご注意

- メール（SMTP）機能を使用して音声ファイルを送信することはできません。
- メール（SMTP）機能によるメール送信中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

SMTP サーバー名

SMTP（送信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または SMTP メールサーバーの IP アドレスを入力します。

認証設定

メールの送信に要求される認証方法を設定します。

[オフ]：メール送信に認証が必要ない場合に選択します。
[オン]：メール送信に認証が必要な場合に以下の認証方法を選択し、必要に応じて [POP サーバー名]、[ユーザー名]、[パスワード] を入力します。
　[SMTP 認証]：メール送信に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。
　[POP before SMTP 認証]：メール送信に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

ご注意

[オン] で設定する場合、必ず [SMTP 認証] または [POP before SMTP 認証] のどちらかまたは両方を選択してください。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定は、メールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要です。

ユーザー名、パスワード

メールアカウントを持つユーザーのユーザー名とパスワードを半角 64 文字以内で入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが認証を行う場合に必要です。

宛先アドレス

宛先のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。
3 送信先まで入力できます。

管理者アドレス

カメラの管理者のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。
メールの返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

件名

メールの件名／題名を半角 64 文字以内で入力します。
アラーム送信タブの [アラーム送信] が [オン] に設定されているとき、アラーム検出時に送信されるメールについては、表題にアラーム種別を示す文字列が追加されます。

センサー入力 1 検出時は [S1]、センサー入力 2 検出時は [S2]、動体検知検出時は [MD]、不動体検知検出時は [UD] が追加されます。

本文

メールの本文を 384 文字以内、全角 192 文字以内（改行は半角 2 文字換算）で入力します。半角カタカナ文字は使用しないでください。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

アラーム送信タブ ― アラーム検出時のメール送信の設定をする

外部センサー入力や内蔵の動体 / 不動体検知機能によるアラーム検出に連動してメール送信を行うための設定を行います。



アラーム送信

アラーム検出に連動してメール送信するための設定を行うときは [オン] を選択します。

ファイル添付

映像ファイル（JPEG ファイル）をメールに添付して送信するかどうかを設定します。
[オン] を選択すると、以下の設定にしたがって作成された映像ファイルを添付します。[オフ] を設定するとメール本文のみが送信されます。

映像ファイル名称

メールに添付する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。

サフィックス

メール送信時に添付されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付／時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

アラーム種別

メール送信に連動するアラームを選択します。

[センサー入力 1]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー

[センサー入力 2]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー

[動体 / 不動体検知]：動体 / 不動体検知機能によるアラーム
[Detection] をクリックすると、動体 / 不動体検知メニューが表示され、動体 / 不動体検知機能の設定を行うことができます（75 ページ）。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。

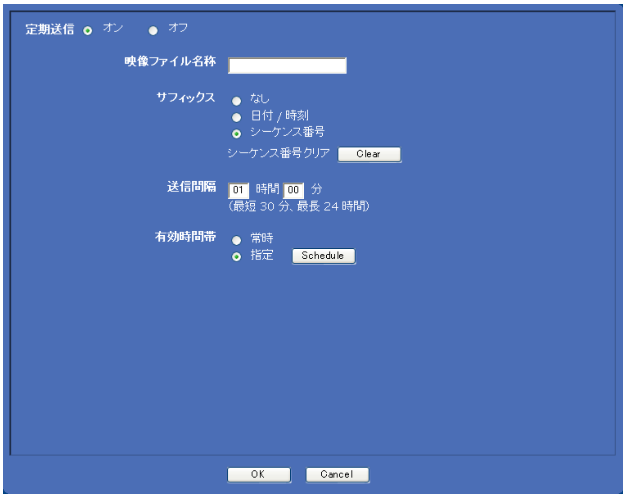
[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

定期送信タブ — 定期的なメール送信の設定をする

定期的にメール送信するための設定を行います。



定期送信

定期送信を行うときは [オン] を選択します。

映像ファイル名称

メールに添付する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。
実際に転送される映像ファイル名称は、「指定ファイル名 + サフィックス +.jpg」となります。

サフィックス

メール送信時に添付されるファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付／時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

送信間隔

定期的にメールを送信する時間間隔を設定します。
最短 30 分間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

有効時間帯

定期送信が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常に定期送信を行います。

[指定]：別途行うスケジュール設定で定期送信が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ）

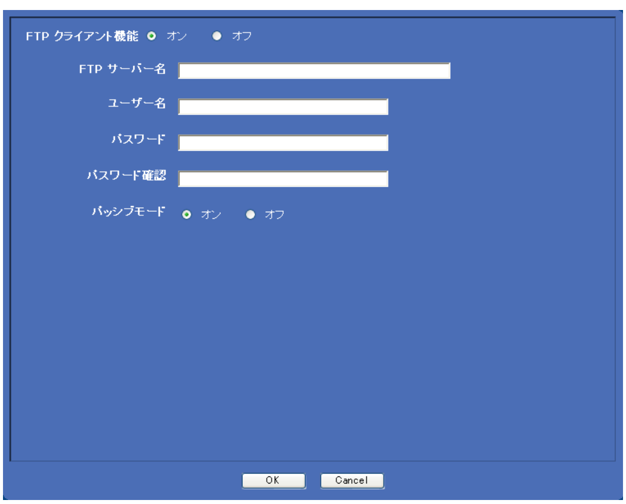
OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

FTP サーバーへ画像を送信する
– FTP クライアントメニュー

管理者設定メニューの FTP クライアント をクリックすると、FTP クライアントメニューが表示されます。
FTP クライアント機能を使用すると、外部センサー入力や内蔵の動体 / 不動体検知機能に連動して、撮影・記録された映像・音声ファイルを FTP サーバーに送信することができます。また、映像ファイルを定期的に送信することも可能です。
FTP クライアントメニューは [共通]、[アラーム送信]、[定期送信] の 3 つのタブで構成されます。

共通タブ — FTP クライアント機能の基本設定をする



FTP クライアント機能

FTP クライアント機能を使用するときは［オン］を選択します。

ご注意

FTP クライアント機能によるファイル転送中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

FTP サーバー名

アップロードする FTP サーバー名を半角 64 文字以下で入力します。または FTP サーバーの IP アドレスを入力します。

ユーザー名

FTP サーバーに対するユーザー名を半角 64 文字以内で入力します。

パスワード

FTP サーバーに対するパスワードを半角 64 文字以内で入力します。

パスワード確認

パスワードの確認のため、パスワード欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

パッシブモード

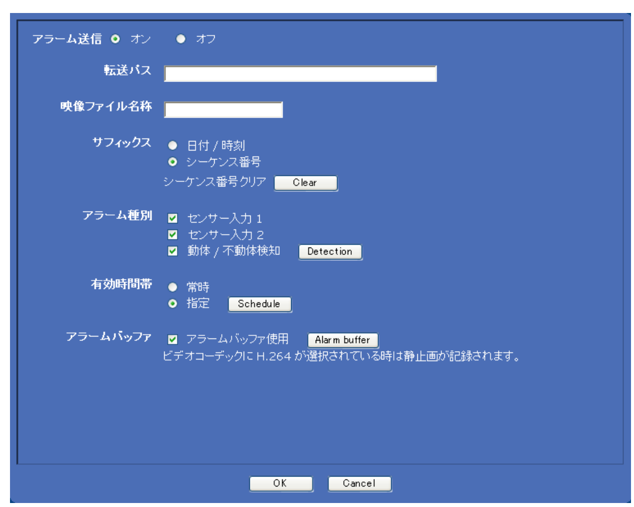
FTP サーバーへ接続するとき、FTP サーバーのパッシブモードを使用するかどうかを設定します。[オン] を設定するとパッシブモードで接続します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

アラーム送信タブ — アラーム検出時の FTP クライアント動作を設定する

外部センサー入力や内蔵の動体 / 不動体検知機能によるアラーム検出に連動して指定の FTP サーバーに映像・音声ファイルを転送するための設定を行います。



アラーム送信

アラーム検出に連動して映像・音声ファイルを FTP サーバーへ転送するための設定を行うときは [オン] を選択します。

転送パス

送信先パスを、半角 64 文字以内で入力します。

映像ファイル名称

FTP サーバーに送信する映像ファイル名を、半角英数字と - (ハイフン)、_ (アンダースコア) を使って 10 文字以内で入力します。

サフィックス

FTP サーバーに送信されるファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[日付／時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位 (2 桁) ＋月 (2 桁) ＋日 (2 桁) ＋時 (2 桁) ＋分 (2 桁) ＋秒 (2 桁) ＋連続番号 (2 桁)、合計 14 文字がファイル名に付加されます。
[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号 (10 桁) ＋連続番号 (2 桁) が付加されます。

補足

日付／時刻およびシーケンス番号に付加される連続番号は、連続的なアラームで作成される複数のファイルを区別するために使用されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

アラーム種別

FTP サーバーへのファイル送信に連動するアラームを選択します。

[センサー入力１]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー
[センサー入力２]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー
[動体 / 不動体検知]：動体 / 不動体検知機能によるアラーム。
[Detection] をクリックすると、動体 / 不動体検知メニューが表示され、動体 / 不動体検知機能の設定を行うことができます (75 ページ)。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。
[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。(「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ)

アラームバッファ

アラーム検出時の前後の映像・音声 (プリアラーム、ポストアラーム) の転送を行う場合には [アラームバッファ使用] を選択します。
選択しないとアラーム検出時の瞬間の画像 (JPEG ファイル) のみが転送されます。
[Alarm buffer] をクリックすると、アラームバッファメニューが表示されます。(「アラームバッファを設定する－アラームバッファメニュー」74 ページ)

ご注意

カメラメニューのビデオコーデックタブで、動作させるビデオコーデックに [H.264] を選択した場合、この設定は無効になり、静止画が記録されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(29 ページ) をご覧ください。

定期送信タブ — 定期的な FTP クライアント動作を設定する

映像ファイル (JPEG ファイル) を定期的に FTP サーバーに送信するための設定を行います。



定期送信

定期送信を行うときは [オン] を選択します。

転送パス

送信先パスを半角 64 文字以内で入力します。

映像ファイル名称

FTP サーバーに送信するファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。実際に転送される映像ファイル名称は、「指定ファイル名 + サフィックス + .jpg 」となります。

ご注意

FTP クライアント機能の定期送信を使用して音声ファイルを送信することはできません。

サフィックス

FTP サーバーに送信されるファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付 / 時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付 / 時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、[シーケンス番号] のサフィックスが 1 に戻ります。

送信間隔

FTP サーバーに定期的に画像を送信する時間間隔を設定します。
最短 1 秒、最長 24 時間（1 日）の送信間隔が設定できます。

ご注意

画像サイズや設定画質、ビットレート、ネットワーク環境などにより、実際に送信される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

有効時間帯

定期送信が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常に定期送信を行います。

[指定]：別途行うスケジュール設定で定期送信が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する – スケジュールメニュー」73 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

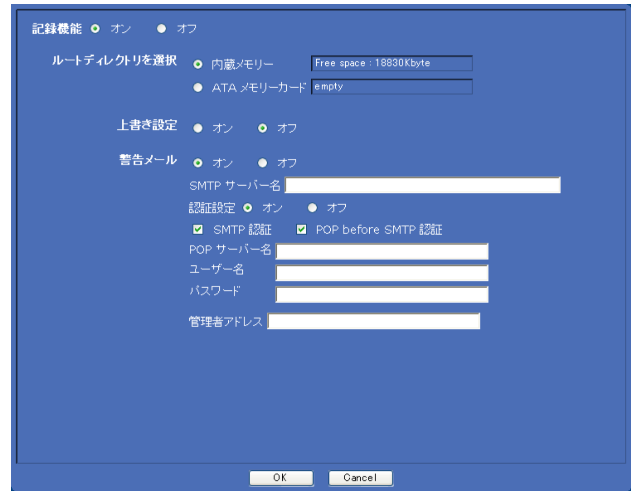
画像を記録する−イメージメモリーメニュー

管理者設定メニューの イメージメモリー をクリックすると、イメージメモリーメニューが表示されます。
イメージメモリー機能を使用すると、外部センサー入力や内蔵の動体 / 不動体検知機能に連動して撮影・記録された映像・音声ファイルを、内蔵メモリー（約 18MB）やカメラに装着した ATA メモリーカード (別売り) に記録することができます。また、映像ファイルを定期的に記録することも可能です。
記録された映像・音声ファイルは、FTP サーバー機能を使用し、検索したり、コンピューターへダウンロードしたりすることができます。(「カメラから画像をダウンロードする − FTP サーバーメニュー」68 ページ)
イメージメモリーメニューは [共通]、[アラーム]、[定期設定] の 3 つのタブで構成されます。
動作確認済みのカードについては、ソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

ご注意

・内蔵メモリーに記録された映像・音声ファイルは、電源を切ったり、[ルートディレクトリを選択] の設定を変更したりすると消去されます。
・画像の記録中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。
・ATA メモリーカードを取り外すときや、ATA メモリーカードが入った状態でカメラの電源を切るときは、イメージメモリー機能を [オフ] にしてください。
・カードを抜き差しする場合は、10 秒以上の間隔をあけてください。
・ATA メモリーカードをお使いになる前に、コンピューターを使って初期化するか、「ATA メモリーカード初期化」(「初期化タブ」34 ページ)で初期化 (フォーマット) してください。

共通タブ — イメージメモリー機能の基本設定をする



記録機能

イメージメモリー機能を使用するときは [オン] を選択します。

ルートディレクトリを選択

画像を記録したいメモリーを選択します。それぞれ現在書き込み可能なメモリーの空き容量も表示されます。

[内蔵メモリー]：本カメラの内蔵メモリー
[ATA メモリーカード]：カメラの PC カードスロットに装着した ATA メモリーカード

ご注意

・内蔵メモリーに記録された映像・音声ファイルは、[ルートディレクトリを選択] の設定を変更すると消去されます。
・[ルートディレクトリを選択] で [ATA メモリーカード] が設定されている場合、[内蔵メモリー] の空き容量欄に「empty」と表示され、内蔵メモリーにはアクセスできません。

上書き設定

内蔵メモリーまたは ATA メモリーカードの空き容量がなくなりファイルの記録ができなくなった場合、上書きするかどうかを選択します。

[オン]：上書き許可となり、日付の古いフォルダー（ファイル）から上書きされます。
[オフ]：上書き禁止となり、記録されません。

警告メール

内蔵メモリーまたは ATA メモリーカードの空き容量が少なくなったときや、空き容量がなくなったりしたときに管理者宛に警告メールを送信する機能です。

[オン]：警告メールを送信します。
[オフ]：警告メールは送信されません。

ご注意

[上書き設定] が [オン] に設定されていると、警告メールは送信されません。

SMTP サーバー名

警告メール送信に使用する SMTP サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または、SMTP メールサーバーの IP アドレスを入力します。

認証設定

メールの送信に要求される認証方法を設定します。

[オフ]：メール送信に認証が必要ない場合に選択します。
[オン]：メール送信に認証が必要な場合に以下の認証方法を選択してし、必要に応じて [POP サーバー名]、[ユーザー名]、[パスワード] を入力します。
　[SMTP 認証]：メール送信時に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。
　[POP before SMTP 認証]：メール送信に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

ご注意

[オン] で設定する場合、必ず [SMTP 認証] または [POP before SMTP 認証] のどちらかまたは両方を選択してください。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP（受信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要となります。

ユーザー名 、パスワード

メールアカウントを持っているユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが認証を行う場合に必要となります。

管理者アドレス

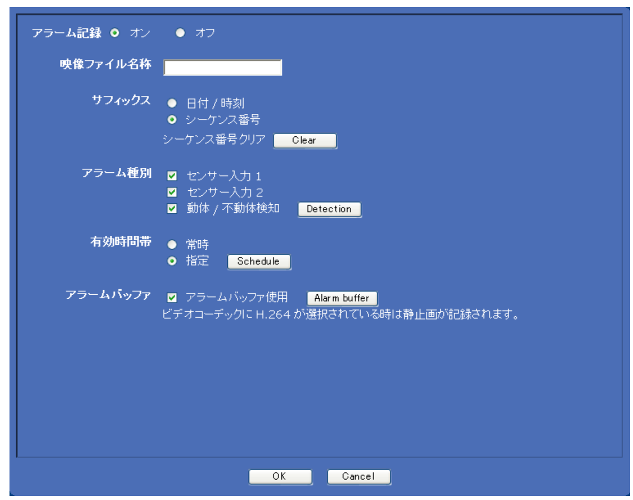
警告メールの送信先のメールアドレス (カメラの管理者のメールアドレス) を半角 64 文字以内で入力します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

アラームタブ ― アラーム検出時のイメージメモリー機能の設定をする

外部センサー入力や内蔵の動体 / 不動体検知機能によるアラーム検出に連動して映像・音声ファイルをメモリーに記録するための設定を行います。



アラーム記録

アラーム検出に連動して映像・音声ファイルを内蔵メモリーまたは ATA メモリーカードに記録するための設定を行うときは [オン] を選択します。

映像ファイル名称

記録する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。

サフィックス

記録されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[日付／時刻]：記録されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
　日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋ 連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

カメラの設定

[シーケンス番号]：記録されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋連続番号（2 桁）が付加されます。

補足

日付／時刻およびシーケンス番号に付加される連続番号は、連続的なアラームで作成される複数のファイルを区別するために使用されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

アラーム種別

映像・音声ファイルの記録に連動するアラームを選択します。

[センサー入力 1]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー

[センサー入力 2]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー

[動体 / 不動体検知]：動体 / 不動体検知機能によるアラーム

[Detection] をクリックすると、動体 / 不動体検知メニューが表示され、動体 / 不動体検知機能の設定を行うことができます（75 ページ）。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。

[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。

[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ）

アラームバッファ

アラーム検出時の前後の映像・音声 (プリアラーム、ポストアラーム) の記録を行う場合には [アラームバッファ使用] を選択します。選択しないとアラーム検出時の瞬間の画像（JPEG ファイル) のみが記録されます。
[Alarm buffer] をクリックすると、アラームバッファメニューが表示されます。（「アラームバッファを設定する－アラームバッファメニュー」74 ページ）

ご注意

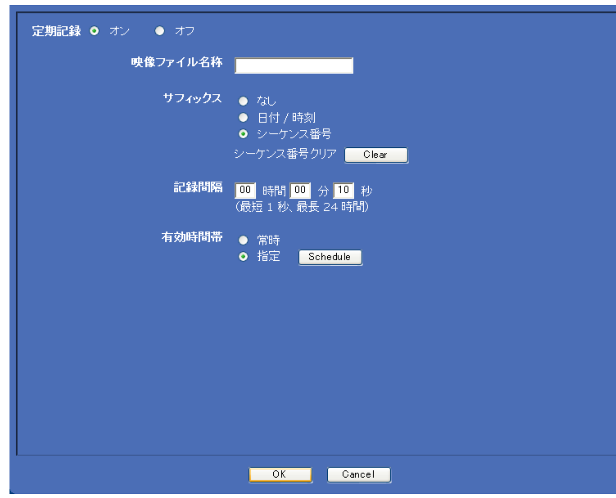
カメラメニューのビデオコーデックタブで、動作させるビデオコーデックに [H.264] を選択した場合、この設定は無効になり、静止画が記録されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

定期設定タブ — 定期的な記録の設定をする

映像ファイル（JPEG ファイル) を定期的に内蔵メモリーまたは ATA メモリーカードに記録するための設定を行います。



定期記録

定期記録を行うときは [オン] を選択します。

映像ファイル名称

記録する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。実際に記録される映像ファイル名称は、「指定ファイル名＋サフィックス＋ .jpg 」となります。

ご注意

定期記録機能を使用して音声ファイルを記録することはできません。

サフィックス

記録するファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：記録されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付／時刻]：記録されるファイル名は映像ファイル名に日付 / 時刻が付加されます。

日付 / 時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋ 連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：記録されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）+ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、[シーケンス番号] のサフィックスが 1 に戻ります。

記録間隔

定期的に映像を記録する時間間隔を設定します。
最短 1 秒、最長 2 4 時間（1 日）の記録間隔が設定できます。

ご注意

画像サイズや設定画質、ビットレート、記録メディアなどにより、実際に記録される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

有効時間帯

定期記録が有効な時間帯を設定します。

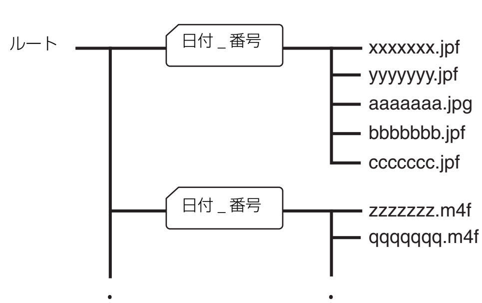
[常時]：常に定期記録を行います。
[指定]：別途行うスケジュール設定で定期記録が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

画像メモリーのフォルダー構造

イメージメモリー機能を使用して画像を記録すると、以下のようなフォルダーのツリー構造でファイルが保存されます。



は、自動的に生成されるフォルダーを表わします。
本機では [日付 _ 番号] フォルダーは、西暦（下 2 桁）+ 月（2 桁）+ 日（2 桁）+ アンダースコア + シーケンス番号（4 桁）の 11 文字のフォルダー名になります。

内蔵メモリーの場合、自動生成されるフォルダー 1 つに記録される映像ファイルは約 1 MB です。これを超えると新しいフォルダーが自動生成され、記録が行われます。

ご注意

ATA メモリーカードをご使用の場合、フォルダーごとに保存される容量は、ATA メモリーカードの容量によって変わります。

保存ファイルの拡張子について

本機のイメージメモリー機能、および FTP クライアント機能を使って記録 / 送信されるファイルにはカメラの動作モードや、記録 / 送信設定に応じて次の 3 つの拡張子を持つファイルが生成されます。

[.m4f]：アラーム記録／アラーム送信設定において [アラームバッファ使用] がチェックされ、アラームバッファメニューの [コーデック] に [MPEG4] が設定されている場合に生成されます。カメラのマイク設定に応じて音声データを含みます。

[.jpf]：アラーム記録／アラーム送信設定において [アラームバッファ使用] がチェックされ、アラームバッファメニューの [コーデック] に [JPEG] が設定されている場合に生成されます。カメラのマイク設定に応じて音声データを含みます。

[.jpg]：アラーム記録 / 送信設定において [アラームバッファ使用] がチェックされていない場合や、定期的な送信および定期的な記録の場合、生成されます。

[.m4f] 、[.jpf] ファイルは、SNC video player（91 ページ）を使用して再生できます。

カメラから画像をダウンロードする– FTP サーバーメニュー

管理者設定メニューの FTP サーバー をクリックすると、FTP サーバーメニューが表示されます。このメニューでは、コンピューターの FTP クライアントソフトウェアを使用して、内蔵メモリー（約 18MB）または ATA メモリーカード（別売り）に記録された映像・音声ファイルの検索や、ダウンロードする FTP サーバー機能の設定を行います。



FTP サーバー機能

FTP サーバー機能を使用するときは、［オン］を選択します。

ルートディレクトリを選択

ダウンロードしたいファイルが記録されているメモリーを選択します。それぞれ現在書き込み可能なメモリーの空き容量も表示されます。

[内蔵メモリー] : 本カメラの内蔵メモリー
[ATA メモリーカード] : カメラの PC カードスロットに装着した ATA メモリーカード

ご注意

・イメージメモリーメニューの共通タブ（64 ページ）で [ルートディレクトリを選択] に [ATA メモリーカード] が設定されている場合、[内蔵メモリー] の空き容量欄に「empty」と表示され、内蔵メモリーにはアクセスできません。
・コンピューターの FTP クライアントソフトウェアを使用して、本機の FTP サーバーにログインした場合は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

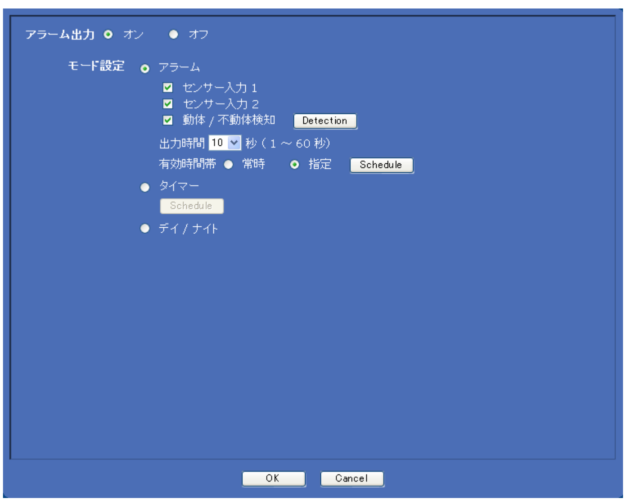
アラーム出力を設定する
－アラーム出力メニュー

管理者設定メニューの アラーム出力 をクリックすると、アラーム出力メニューが表示されます。
このメニューでは、アラーム検出やタイマー、デイ / ナイト機能に連動してカメラ後部の I/O ポートのアラーム出力を制御するための設定を行います。
アラーム出力メニューは [アラーム出力 1] タブと [アラーム出力 2] の 2 つのタブで構成されます。

補足

カメラの I/O ポートのアラーム出力を周辺デバイスに接続する方法は、付属の設置説明書をご覧ください。

アラーム出力 1、2 タブ



アラーム出力

アラーム出力機能を使用するときは［オン］を選択します。

モード設定

アラーム出力機能の動作モードを選択します。

[アラーム]：外部センサー入力や内蔵の動体 / 不動体検知機能と連動してアラーム出力を制御できます。
[アラーム] を選択すると、[センサー入力 1]、[センサー入力 2]、[動体 / 不動体検知]、[出力時間]、[有効時間帯] が設定可能になります。

[タイマー]：時刻と連動してアラーム出力を制御できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ）

[デイ / ナイト]：デイ / ナイト機能と連動してアラーム出力を制御できます。

センサー入力 1

カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサーを連動するアラームとして使用するときに選択します。

センサー入力 2

カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサーを連動するアラームとして使用するときに選択します。

動体 / 不動体検知

動体 / 不動体検知機能によるアラームを連動するアラームとして使用するときに選択します。
[Detection] をクリックすると、動体 / 不動体検知メニューが表示され、動体 / 不動体検知機能の設定を行うことができます（75 ページ）。

出力時間

アラーム出力を短絡する時間（1 ～ 60 秒）を選択します。

有効時間帯

モード設定を [アラーム] にしたとき設定可能になります。アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。

[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」73 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

アラーム検出時に音声を出力する －音声ファイル再生メニュー

管理者設定メニューの 音声ファイル再生 をクリックすると、音声ファイル再生メニューが表示されます。このメニューではアラーム検出時 (センサー入力時、動体 / 不動体検知時) にカメラのライン出力端子を通して音声を出力するための設定を行います。
アラームイベント (センサー入力や動体 / 不動体検知) に合わせて、カメラに接続されているスピーカーなどを通して音声を出力することができます。
音声ファイル再生メニューは [音声ファイル再生 1]、[音声ファイル再生 2]、[音声ファイル再生 3] の 3 つのタブで構成されます。各タブに 1 つずつ音声ファイルを設定できます。

ご注意

音声ファイル再生機能をお使いになるには、付属の CD-ROM に収録されている SNC audio upload tool を使用し、あらかじめカメラに音声ファイルを保存しておく必要があります。
SNC audio upload tool の使いかたについては 85 ページをご覧ください。

音声ファイル再生 1、2、3 タブ



音声ファイル

カメラに音声ファイルが保存されている場合、音声ファイルの名称が表示されます。
音声ファイルが保存されていない場合、[Not uploaded] と薄く表示されます。
[Delete] をクリックするとカメラに保存された音声ファイルを削除します。

ご注意

音声ファイルを削除するときは [音声ファイル再生] を [オフ] に設定してから行ってください。

テスト

カメラに音声ファイルが保存されている場合、その音声を再生して確認することができます。[Play] をクリックすると音声ファイルを 1 回再生します。

音声ファイル再生

センサー入力や動体 / 不動体検知に連動して音声ファイルを出力するときは [オン] を選択します。

リピート

繰り返し再生を行う回数を [1] ～ [3] から指定します。

アラーム種別

音声ファイル再生に連動させるアラームを選択します。

[センサー入力 1]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー
[センサー入力 2]：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー
[動体 / 不動体検知]：動体 / 不動体検知機能によるアラーム
[Detection] をクリックすると、動体 / 不動体検知メニューが表示され、動体 / 不動体検知の設定を行うことができます。（75 ページ）

ご注意

・音声ファイル再生中に異なるアラームイベントにより他の音声ファイル再生が発生した場合、先の音声ファイル再生はキャンセルされ，あとの音声ファイルが再生されます。
・同じアラームイベントに連動して複数の音声ファイルを再生するように設定された場合、音声ファイル再生１、２、３の優先順位で再生されます。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

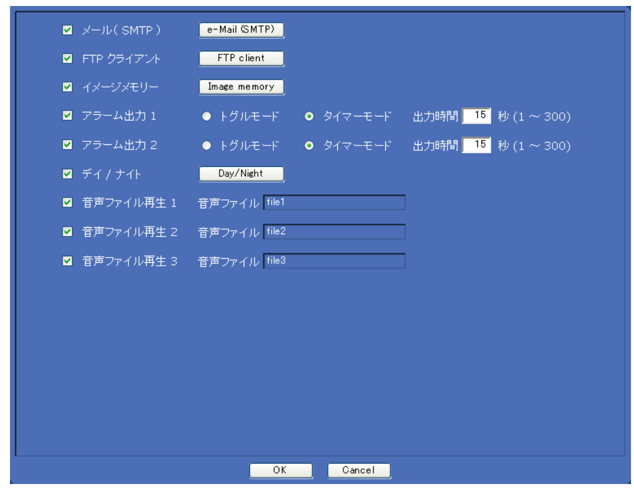
[常時]：常にアラーム検出が有効になります。
[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する －スケジュールメニュー」73 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

ビューアーページからの操作を設定する－トリガーメニュー

管理者設定メニューの トリガー をクリックすると、トリガーメニューが表示されます。
このメニューでは、メインビューアーの をクリックしたときの動作を設定します。

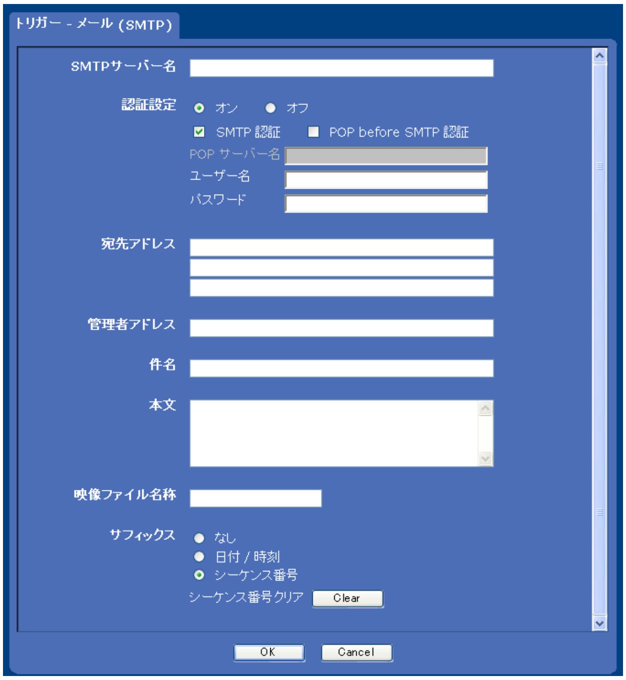


メール（SMTP）

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [e-Mail] が選択できるようになります。[e-Mail] を選択し、 をクリックすることにより、クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、設定されているメールアドレスに映像ファイルを添付したメールが送信されます。

[e-Mail（SMTP）] をクリックするとメール設定（トリガー）メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、メール（SMTP）メニュー（58 ページ）と同じです。

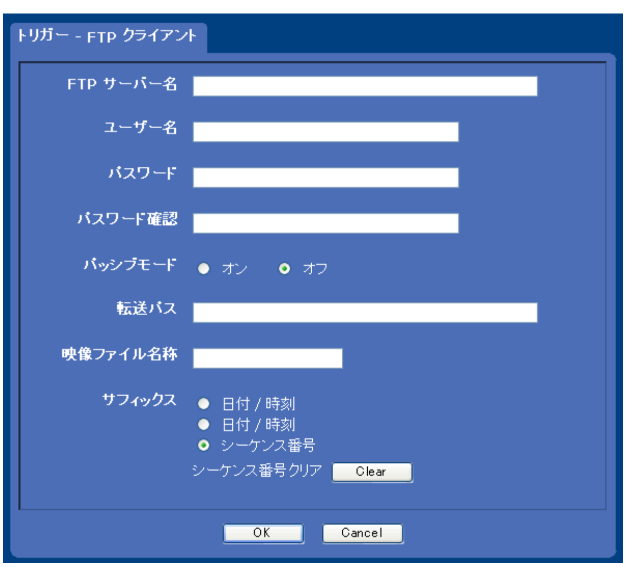
カメラの設定



FTP クライアント

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [FTP] が選択できるようになります。[FTP] を選択し、をクリックすることにより、クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、映像ファイルが FTP サーバーに送信されます。

[FTP client] をクリックすると [トリガー－ FTP クライアント] メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、FTP クライアントメニュー（61 ページ）と同じです。

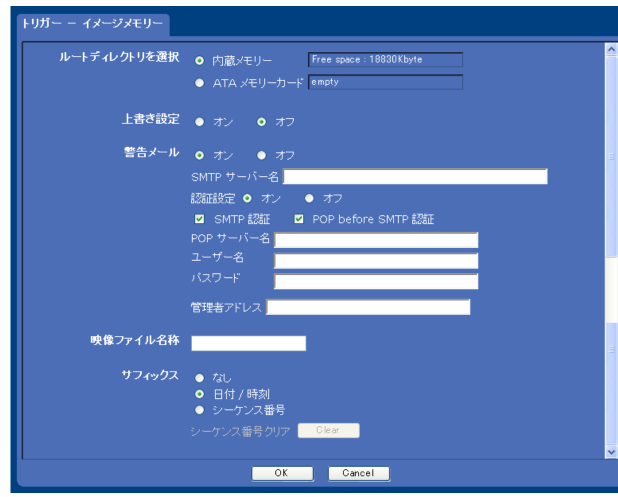


イメージメモリー

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [Image memory] が選択できるようになります。

[Image memory] を選択し、をクリックすることにより、クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、内蔵メモリーまたは ATA メモリーカード（別売り）に映像ファイルが記録されます。
動作確認済みのカードについては、ソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

[Image memory] をクリックすると [トリガー－イメージメモリー] メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、イメージメモリーメニュー（64 ページ）と同じです。



アラーム出力 1、2

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで［Alarm output1］または［Alarm output2］が選択できるようになります。［Alarm output1］または［Alarm output2］を選択し、をクリックすることにより、アラーム出力を制御できます。

アラーム出力の動作モードを［トグルモード］と［タイマーモード］から選択します。

[トグルモード]： をクリックするたびに、オン（短絡）とオフ（開放）が切り換わります。

[タイマーモード]： をクリックするとオン（短絡）になり、［出力時間］で設定した時間が経過すると、自動的にオフ（開放）に切り換わります。

出力時間

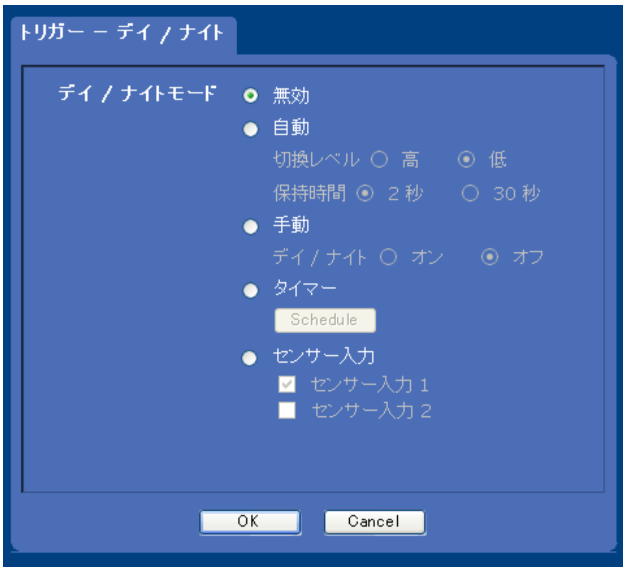
［タイマーモード］を選択したとき、アラーム出力を短絡する時間（1 ～ 300 秒）を設定します。

デイ / ナイト

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [Day/Night] が選択できるようになります。[Day/Night] を選択し、をクリックすることにより、デイ /

ナイト機能のオン（ナイトモード）、またはオフ（デイモード）を制御できます。

[Day/Night] をクリックすると [トリガーーデイ / ナイト] メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、カメラメニューのデイ / ナイトタブ（38 ページ）と同じです。



ご注意

[デイ / ナイトモード] が [無効] または [自動] に設定されているときは、 をクリックしてもデイ / ナイト機能を制御できません。

音声ファイル再生 1、2、3

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [Voice alert1]、[Voice alert2]、または [Voice alert3] が選択できるようになります。いずれかを選択し、 をクリックすることにより、カメラにあらかじめ保存されている音声ファイルの音声を出力することができます。

音声ファイル

カメラに音声ファイルが保存されている場合、音声ファイルの名称が表示されます。

音声ファイルが保存されていない場合、[Not uploaded] と薄く表示されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

スケジュールを設定する －スケジュールメニュー

管理者設定メニューの スケジュール をクリックすると、スケジュールメニューが表示されます。

スケジュールメニューは、次の 6 つのタブから構成されます。

各タブは次のメニューの [有効時間帯] を指定するために [Schedule] をクリックしたときに表示されるスケジュールメニューと同じです。

[デイ / ナイト]：カメラメニューのデイ／ナイトタブの [Schedule] ボタン

[メール]：メール (SMTP) メニューのアラーム送信タブと定期送信タブの [Schedule] ボタン

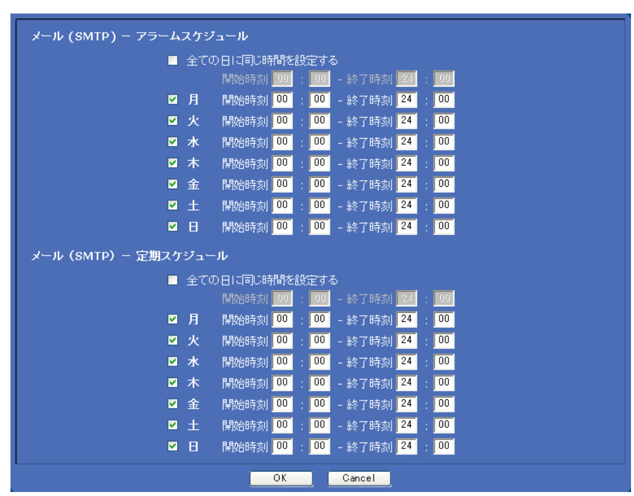
[FTP]：FTP クライアントメニューのアラーム送信タブと定期送信タブの [Schedule] ボタン

[イメージメモリー]：イメージメモリーメニューのアラームタブと定期設定タブの [Schedule] ボタン

[アラーム出力]：アラーム出力メニューのアラーム出力 1 タブとアラーム出力 2 タブの [Schedule] ボタン

[音声ファイル再生]：音声ファイル再生メニューの音声ファイル再生 1 タブ、音声ファイル再生 2 タブ、音声ファイル再生 3 タブの [Schedule] ボタン

例：スケジュールメニューでメール (SMTP) の定期送信スケジュール設定を行う場合



全ての日に同じ時間を設定する

チェックすると、設定した開始時刻と終了時刻がすべての曜日に設定されます。チェックしたときは、[月] 以降の開始時刻と終了時刻は入力できません。

月〜日チェックボックス

チェックした曜日に対して、右側に設定する時間帯がスケジュールの有効時間帯となります。

開始時刻、終了時刻

開始時刻と終了時刻を設定します。

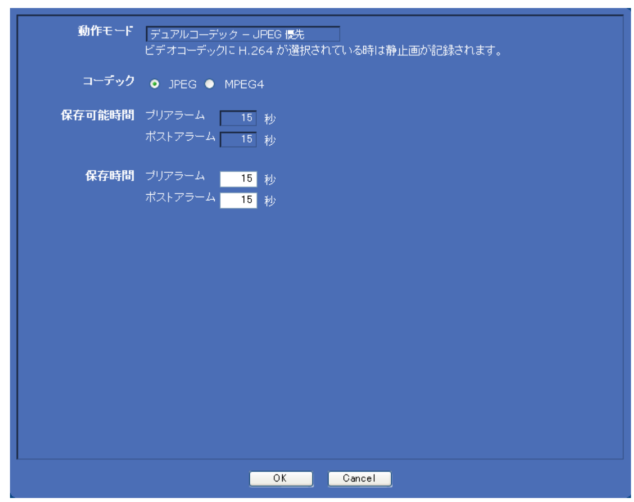
OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

アラームバッファを設定する−アラームバッファメニュー

管理者設定メニューの アラームバッファ をクリックすると、アラームバッファメニューが表示されます。

このメニューでは FTP クライアントメニューの [アラーム送信] やイメージメモリーメニューの [アラーム記録] を [オン] に設定し、[アラームバッファ使用] を選択したとき、アラーム検出時のプリアラーム映像・音声 (アラーム検出以前の映像・音声)、ポストアラーム映像・音声 (アラーム検出後の映像・音声) の設定を行います。



動作モード

カメラメニューのビデオコーデックタブで設定されている動作モードが表示されます。

ご注意

カメラメニューのビデオコーデックタブで、動作させるビデオコーデックに [H.264] を選択した場合、アラームバッファを設定することはできません。

コーデック

現在の動作モードで選択可能なコーデックが表示されます。アラームバッファに使用する映像コーデックを選択します。

ご注意

動作モードを [デュアルコーデックモード] に設定しているときに、優先するコーデックに設定していないコーデックを選択した場合、アラームバッファを使用して転送・記録されるファイルのビットレート、フレームレートが設定値を下回ることがあります。

保存可能時間

現在のカメラの動作モード、画像サイズ、ビットレート、フレームレート設定などで、アラームバッファに保存できる最大時間が表示されます。

[プリアラーム]：アラーム検出前の映像・音声を保存できる最大時間が表示されます。
[ポストアラーム]：アラーム検出後の映像・音声を保存できる最大時間が表示されます。

保存時間

プリアラーム映像・音声、ポストアラーム映像・音声を保存する時間を設定します。

[プリアラーム]：アラーム検出前の映像・音声を保存する時間を入力します。
[ポストアラーム]：アラーム検出後の映像・音声を保存する時間を入力します。

ご注意

保存可能時間の値は、カメラメニューで設定した画像サイズと画質により変わります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

動体／不動体検知機能を設定する
－ 動体／不動体検知メニュー

管理者設定メニューの 動体 / 不動体検知 をクリックすると、動体／ 不動体検知メニューが表示されます。
動体検知では、現在撮影中の画面上で動体物を検出したときにアラームを発生させて知らせます。
不動体検知は、あらかじめ撮影した背景画面と現在撮影画面とで存在する物体に差が出た場合、設定した時間以上にその状態が続いたらアラームで知らせます。
動体／不動体検知メニューは［共通］と［不動体検知設定］の２つのタブで構成されます。

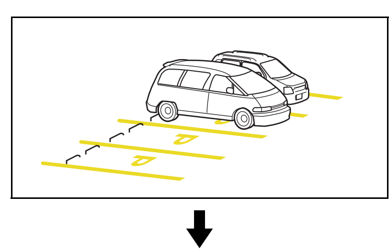
不動体検知とは？

本機に搭載している不動体検知機能では、基準となる「背景映像」と「現在撮影中の映像」を比較することで、撮影映像中にこれまでになかった物体が置かれたことを検知する「置き去り検知」や、撮影映像中にこれまでにあった物体がなくなったことを検知する「持ち去り検知」を行なうことができます。

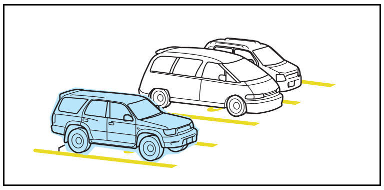
置き去り検知

はじめに、基準となる背景映像がカメラに記憶されます。撮影中に、これまでに存在しなかった物体が背景画面上に現れて停止すると、その物体を「不動体」として検出します。その不動体が、設定した時間以上に停止すると緑の枠が設定され、アラームが発生します。このアラームと連動して、FTP クライアントのアラーム送信、イメージメモリーのアラーム記録や音声ファイル再生などを行なうことができます。

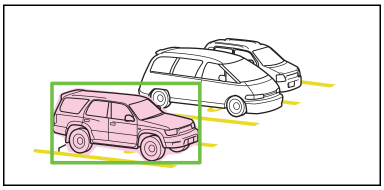
背景映像



手前に車が現れる。



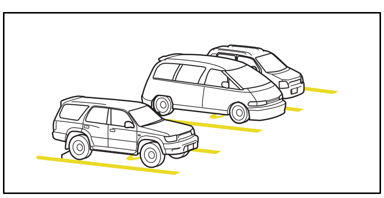
検知時間経過後、手前の車を「不動体」として検出する。



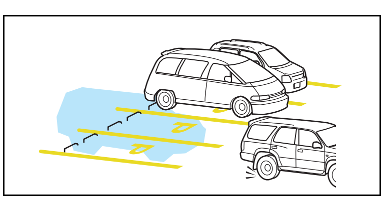
持ち去り検知

はじめに、基準となる背景映像がカメラに記憶されます。撮影中に、これまでにあった物体が移動してなくなると、その物体がもとあった場所を「不動体」として検出します。その不動体（もとあった場所）が、設定した時間がたっても変化がないと緑の枠が設定され、アラームが発生します。このアラームと連動して、FTP クライアントのアラーム送信、イメージメモリーのアラーム記録や音声ファイル再生などを行うことができます。

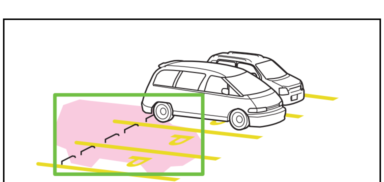
背景映像



手前の車が移動する。



検知時間経過後、車のあった場所を「不動体」として検出する。



ご注意

- 動体／不動体検知機能の設定中は、［ビデオコーデック］タブで［デュアルコーデック］を選択した場合のみ、メインビューアーで映像を見ることができます。このとき見ることができるのは MPEG4 映像のみです。
- ビデオコーデックタブで［H.264］が選択されている場合、動体／不動体検知機能は動作しません。
- 屋外などの撮影シーンで昼から夜に時間が経過した場合のように、撮影シーンの明るさなどが大きく変化すると、不動体検知が正常に行われなくなる場合があります。
- 撮影シーンが単色の壁や床のような平坦な映像の場合、不動体検知が正しく行われなくなる場合があります。
- 動体 ／ 不動体検知を使用する時は、あらかじめ動作テストを行い、正常に動作することを確認してください。

初めて動体／不動体検知メニューを表示するときは

［動体／不動体検知］をクリックすると「セキュリティ警告」が表示されます。［はい］をクリックすると、ActiveX コントロールがインストールされ、動体／不動体検知メニューが表示されます。



ご注意

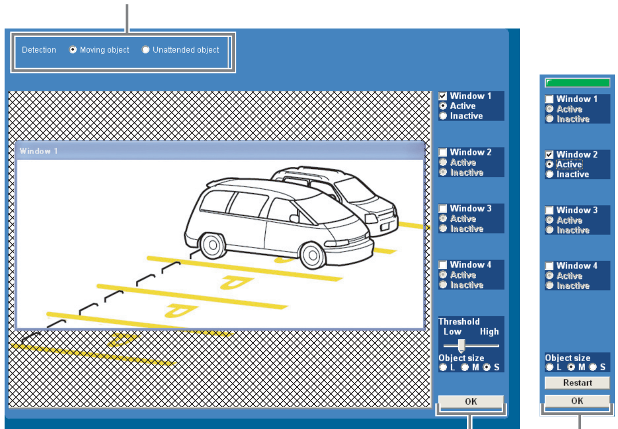
- Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を［自動構成］にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は［自動構成］を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。
- Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合は、［動体／不動体検知］をクリックしたとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ ActiveX コントロールの

インストールについて」（11 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ ActiveX コントロールのインストールについて」（13 ページ）をご覧ください。

共通タブ

はじめに動体検知か不動体検知を選択し、映像を見ながら動体／不動体検知機能を動作させる条件の設定を行います。
このメニューは、メール（SMTP）メニューのアラーム送信や、イメージメモリーメニューのアラーム記録などで［Detection］をクリックしたときに表示される設定メニューと同じです。

Detection 選択部



動体検知の設定部

不動体検知の設定部

Detection（検知）選択部

動体検知を行うか、不動体検知を行うかを設定します。

［Moving object］：動体検知を行う場合、選択します。
選択すると、動体検知の設定画面に切り換わります。
設定項目は「動体検知の設定項目」をご覧ください。

［Unattended object］：不動体検知を行う場合、選択します。選択すると、不動体検知の設定画面に切り換わります。
設定項目は「不動体検知の設定項目」をご覧ください。

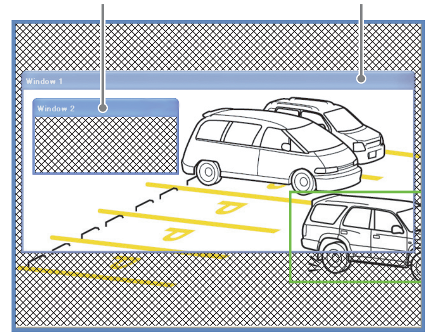
動体検知の設定項目

［Detection］で［Moving object］を選択すると、動体検知の設定画面項目が表示されます。

モニター画面

映像をモニターし、検知枠および非検知枠の設定を行います。
検知枠の外側や非検知枠の内側は非検知領域となり、網かけで表示されます。

非検知枠　　検知枠



ご注意

・モニター画面には低解像度の映像が表示されます。
・モニター画面内の緑の枠は、動体検知機能に連動して送信・記録される映像ファイルには表示されません。

Window1 ～ Window4 チェックボックス



チェックすると、検知枠（または非検知枠）がモニター画面上に表示されます。表示された枠は自由に位置・大きさを変えることができます。

［Active］：選択した Window を検知枠（Active）として設定し、枠内の動体を検知します。

［Inactive］：選択した Window を非検知枠（Inactive）として設定します。Inactive に設定すると、枠内の動体を無視します。
非検知枠は、検知枠内に非検知領域を設定する際に使用します。

ご注意

すべての Window を非検知枠に設定することはできません。どれか 1 つの Window を必ず検知枠（Active）として設定してください。

Threshold（しきい値）設定スライドバー



全 Window 共通で、動体検知のしきい値を設定することができます。
しきい値は、カメラ映像に動きがあったかどうかを判定する基準となります。モニター画面内の物体の動きがし

きい値を超えると動きがあったと判定され、緑の枠が付きます。表示されている検知枠内の物体に緑の枠が付いた場合、アラームが発生します。

Object size（物体のサイズ）



全 Window 共通で、検知する動体の最小サイズを設定します。［L］（大）、［M］（中）、［S］（小）から選択してください。それぞれのサイズは以下のようになります。

[L]：64 × 64 ドット
[M]：32 × 32 ドット
[S]：8 × 8 ドット

補足

モニター画面は 640 × 480 ドットです。［L］サイズはモニター画面の横幅の 1/10 の大きさです。

OK ボタン



現在の設定をカメラに送信し、確定させます。

ご注意

それぞれの Window の位置や設定内容を変更すると、モニター画面は設定に応じた反応を示しますが、確定するためには必ず［OK］ボタンをクリックしてください。［OK］ボタンをクリックしないと、設定が取り消されます。

動体検知設定を行う

以下の手順で、動体検知機能の設定を行います。

1 ［Detection］で［Moving object］（動体検知）を選択する。
動体検知の設定部が表示されます。

2 Window1 チェックボックスをチェックする。
モニター画面上に Window1 枠が表示されます。

3 Window1 の位置と大きさを設定する。
Window1 枠をドラッグして設定したい位置に配置し、また枠の大きさを変更します。

4 検知枠、または非検知枠の設定を行う。
Window1 を検知枠として設定する場合は［Active］を、非検知枠として設定する場合は［Inactive］を選択します。

ご注意

検知枠と非検知枠が重なったところは非検知領域となります。
検知枠と非検知枠が重なると、モニター画面では非検知枠が手前に表示されます。検知枠が非検知枠に隠れて位置や大きさの変更ができなくなった場合は、いったん検知枠を非検知枠に変更し、位置や大きさの変更が完了してから検知枠に指定し直してください。

5 Window2 ～ 4 の設定を行う。
Window2 ～ 4 も設定する場合は、手順 2 ～ 4 の操作で検知枠／非検知枠を設定します。

6 検知する物体のサイズを［Object size］で 設定する。
小さなノイズを動きとして誤検出するような場面であれば、より大きなサイズに設定します。

7 Threshold（しきい値）設定スライドバーを操作し、対象 Window の検知レベル（しきい値）を設定する。
実際に動きのある物体で、モニター画面を確認しながら設定してください。

8 ［OK］をクリックする。
動体検知設定が反映されます。

ご注意

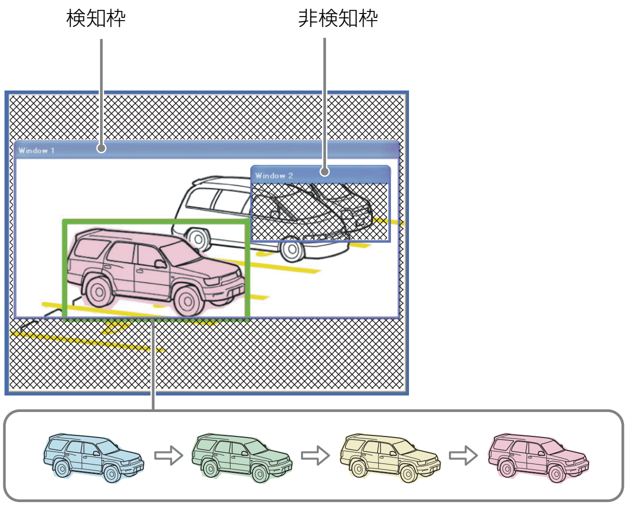
設定を確定するためには必ず［OK］ボタンをクリックしてください。［OK］ボタンをクリックしないと、設定が取り消されます。

不動体検知の設定項目

［Detection］で［Unattended object］を選択すると不動体検知の設定画面になります。

モニター画面

動画をモニターし、検知枠および非検知枠の設定を行います。



不動体検知時のモニター画面では、画面内の不動体候補に色が付きます。不動体とみなされる可能性が増えるにしたがって、青→緑→黄→赤と色が変わります。
これは、不動体検知の処理中であることを示します。カメラが不動体と認識すると緑の枠が表示されます。

ご注意

・モニター画面内の不動体候補に付く色や緑の枠は、不動体検知機能に連動して送信・記録される映像ファイルには表示されません。
・モニター画面には低解像度の映像が表示されます。

ステータスランプ



不動体検知が可能な状態であるかどうかを表示します。

灰色：背景映像を取得中であるため、不動体検知機能は動作していません。
起動直後は背景映像を取得するため、不動体検知ができません。
緑色：背景映像の取得が終了して、不動体検知機能が動作しています。

Window1 ～ Window4 チェックボックス



チェックすると、検知枠（または非検知枠）がモニター画面上に表示されます。表示された枠は自由に位置・大きさを変えることができます。

[Active]：選択した Window を検知枠（Active）として設定し、枠内の不動体を検知します。
[Inactive]：選択した Window を非検知枠（Inactive）として設定します。Inactive に設定すると、枠内の不動体を無視します。

非検知枠は、検知枠内に非検知領域を設定する際に使用します。

ご注意

すべての Window を非検知枠に設定することはできません。どれか 1 つの Window を必ず検知枠（Active）として設定してください。

Object size（物体のサイズ）



全 Window 共通で、検知する不動体の最小サイズを設定します。[L]（大）、[M]（中）、[S]（小）から選択してください。それぞれのサイズは以下のようになります。

[L]：64 × 64 ドット
[M]：32 × 32 ドット
[S]：8 × 8 ドット

補足

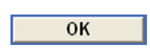
モニター画面は 640 × 480 ドットです。[L] サイズはモニター画面の横幅の 1/10 の大きさです。

Restart ボタン



不動体検知機能を初期化します。現在の映像から背景映像の取得を行います。

OK ボタン



現在の設定をカメラに送信し、確定させます。

ご注意

・ステータスランプが緑色になるまで不動体検知は機能しません。
・それぞれの Window の位置や設定内容を変更すると、モニター画面は設定に応じた反応を示しますが、確定するためには必ず［OK］ボタンをクリックしてください。［OK］ボタンをクリックしないと、設定が取り消されます。

不動体検知設定を行う

以下の手順で、不動体検知機能の設定を行います。

1 ［Detection］で［Unattended object］（不動体検知）を選択する。
不動体検知の設定部が表示されます。

2 ステータスランプが緑色になるまで待つ。
ステータスランプが灰色のときは、背景映像取得中です。この間、検知機能は動作しません。

背景映像の取得が終了するとステータスランプが緑色になります。

ご注意

背景映像を取得するときは、できるだけ動きの少ない映像で行ってください。映像中の動きが多いと、背景映像の取得が終了するまでの時間が長くなる場合があります。

3 Window1 チェックボックスをチェックする。
モニター画面上に Window1 枠が表示されます。

4 Window1 の位置と大きさを設定する。
Window1 枠をドラッグして設定したい位置に配置し、また枠の大きさを変更します。

5 検知枠、または非検知枠の設定を行う。
Window1 を検知枠として設定する場合は［Active］を、非検知枠として設定する場合は［Inactive］を選択します。

ご注意

検知枠と非検知枠が重なったところは非検知領域となります。
検知枠と非検知枠が重なると、モニター画面では非検知枠が手前に表示されます。検知枠が非検知枠に隠れて位置や大きさの変更ができなくなった場合は、いったん検知枠を非検知枠に変更し、位置や大きさの変更が完了してから検知枠に指定し直してください。

6 Window2 ～ 4 の設定を行う。
Window2 ～ 4 も設定する場合は、手順 3 ～ 5 の操作で検知枠／非検知枠を設定します。

7 検知する不動体のサイズを［Object size］で設定する。
小さなノイズを誤検出するような場面であれば、より大きなサイズに設定します。

8 不動体が検知されることを確認する。
設定した枠内に実際に物などを置き、不動体検知が動作することを確認します。
カメラが不動体として検知すると緑の枠が表示されます。

ご注意

撮影映像によっては認識されるまでの時間が長くなる場合があります。

9 ［OK］をクリックする。
不動体検知設定が反映されます。

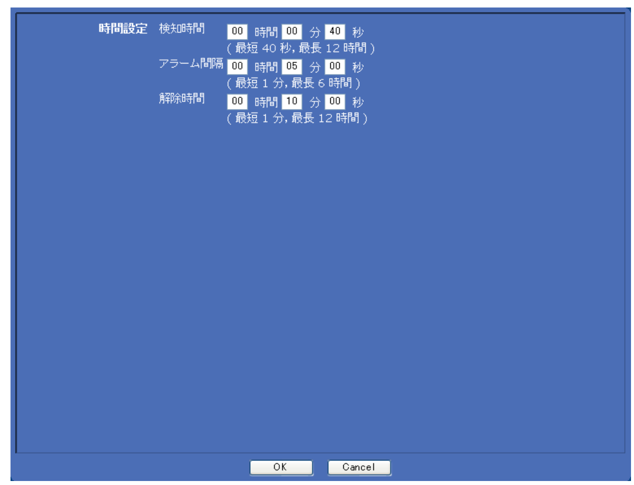
ご注意

設定を確定するためには必ず［OK］ボタンをクリックしてください。［OK］ボタンをクリックしないと、設定が取り消されます。

10 不動体検知設定タブで［検知時間］、［アラーム間隔］、［解除時間］を設定する。

不動体検知設定タブ

不動体検知でのアラーム時間に関する設定を行います。



時間設定

不動体検知では、次の 3 種類の時間を設定する必要があります。

検知時間

物体が検知枠内に現れてから停止したあと、もしくは検知枠内の物体が持ち去られるなどしたあと不動体とみなされるまでの時間を設定します。この設定時間を経過すると、アラームが発生します。
設定可能な時間は、40 秒から 12 時間です。

アラーム間隔

不動体を検知したあと、設定時間ごとにアラームをくり返し発生させることができます。
たとえば、5 分に設定すると、一度不動体を検知してアラームが発生したあと、5 分ごとにアラームがくり返し発生します。
設定可能な時間は、1 分から 6 時間です。

解除時間

一度不動体とみなされた物体を背景と認識するまでの時間を設定します。

ある不動体を検知したあと設定時間が経過すると、その不動体が背景と認識されるため、これをきっかけとするアラームは発生しなくなります。
設定可能な時間は、1 分から 12 時間です。

ご注意

［解除時間］は、［検知時間］より大きな値を設定してください。

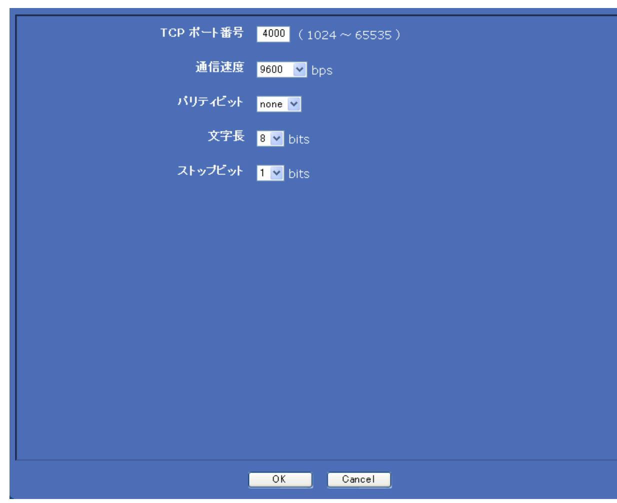
OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

外部シリアル端子を使って外部機器と通信する

ー シリアルメニュー

管理者設定メニューの シリアル をクリックすると、シリアルメニューが表示されます。
このメニューでは、コンピューターからネットワーク経由でカメラに入力されたデータを外部シリアルインターフェースに出力して周辺接続機器をコントロールしたり、逆に周辺接続機器から外部シリアルインターフェースを通じて入力されたデータをネットワーク経由でコンピューターに出力するための設定を行ったりします。
カメラに接続した周辺機器に合わせて設定してください。



TCP ポート番号

TCP ポートに対応する番号を入力します。
Well-Known ポート番号以外のポート番号（1024 ～ 65535）を設定してください。
このポート番号の TCP ポートを使用し、外部インターフェイスとのデータの入出力を行うことができます。また、DOS コマンド「telnet [ホスト名] [ポート番号]」により、シリアル通信ポートのデータ送受信が簡単に確認できます。

通信速度

シリアル接続した周辺機器に対応する通信ボーレートを選択します。
以下のボーレートが選択できます。
38400, 19200, 9600, 4800, 2400, 1200 (bps)

パリティビット

シリアル接続した周辺機器に対応するパリティを [none]、[odd]、[even] から選択します。

文字長

シリアル接続した周辺機器に対応する文字長を [8]、[7] (bits) から選択します。

ストップビット

シリアル接続した周辺機器に対応するストップビットを [2]、[1] (bits) から選択します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（29 ページ）をご覧ください。

携帯電話によるモニタリング

本カメラでは、携帯電話の Web ブラウザ（ホームページ閲覧機能）を使用して静止画像をモニターできます。一般的な操作手順は以下のとおりです。詳しい手順は、ご使用の携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

1 携帯電話の [URL 入力] メニューを開き、モニターしたいカメラの IP アドレスまたはホスト名を次のように入力する。

http://<カメラのIPアドレスまたはホスト名>/

2 ユーザー名、パスワードの入力を促す画面が表示されたら、カメラのユーザー名、パスワードを入力する。
カメラ側の設定により、この画面が表示されない場合もあります。
現在のカメラの画像が画面に表示されます。

3 カメラ画像を更新するには、[更新] ボタンを選択します。

ご注意

- 携帯電話の機種によっては、画像が正しく表示できない場合があります。
- ユーザー名とパスワードによる認証機能に対応していない携帯電話では、画像を表示できない場合があります。
- 表示される静止画像のサイズは 160 × 120 (QQVGA) になります。
- 携帯電話では音声を聞くことはできません。

その他

この章では、付属の CD-ROM に収録されているアプリケーションソフトウェアやコマンド類の使いかたを説明します。

付属のセットアッププログラムを使う

ここでは、付属のセットアッププログラムの Network タブ以外の機能を説明します。

セットアッププログラムのインストールおよびカメラへの IP アドレスの割り当て、ネットワーク設定のしかたは、「準備」の（「カメラに IP アドレスを割り当てる」8 ページ）をご覧ください。

ご注意

- お使いのコンピューターにパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、セットアッププログラムが正しく動作しないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または「ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる」（97 ページ）などの別の方法で IP アドレスを割り当ててください。
- Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］にしないと IP Setup Program が正常に動作しません。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について（11 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（14 ページ）をご覧ください。

セットアッププログラムを起動する

Windows の [スタート] メニューから [プログラム]、[IP Setup Program] 、[IP Setup Program] の順に選択します。
IP Setup Program が起動します。
Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されているカメラを検出してリストを表示します。

Windows Vista をご利用の場合、起動時に「ユーザーアカウント制御（認識できないプログラムがこのコンピューターへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックしてください。

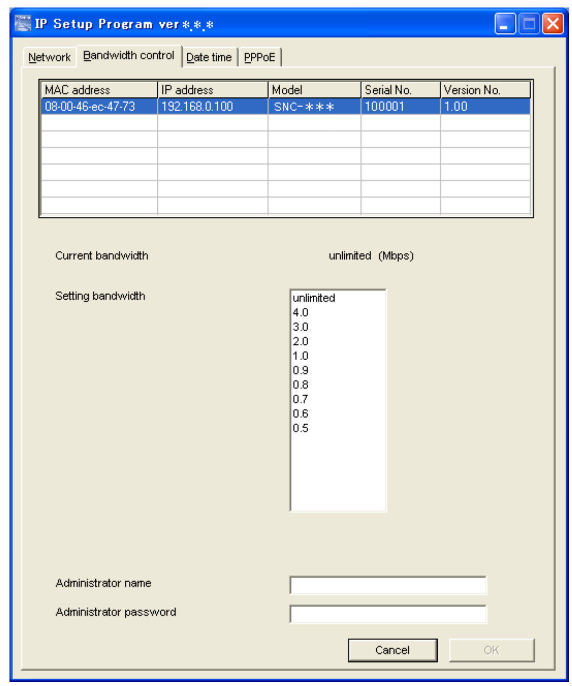
通信帯域を変更する

[JPEG] 映像の通信帯域を設定できます。

ご注意

MPEG4 または H.264 映像については、帯域制限はできません。

1 Bandwidth control タブをクリックして帯域制限設定画面を表示する。
現在設定されている帯域制限が Current bandwidth 欄に表示されます。



2 リストから通信帯域を設定したいカメラをクリックして選択する。

3 [Setting bandwidth] リストボックスから、変更したい帯域制限をクリックして選択する。

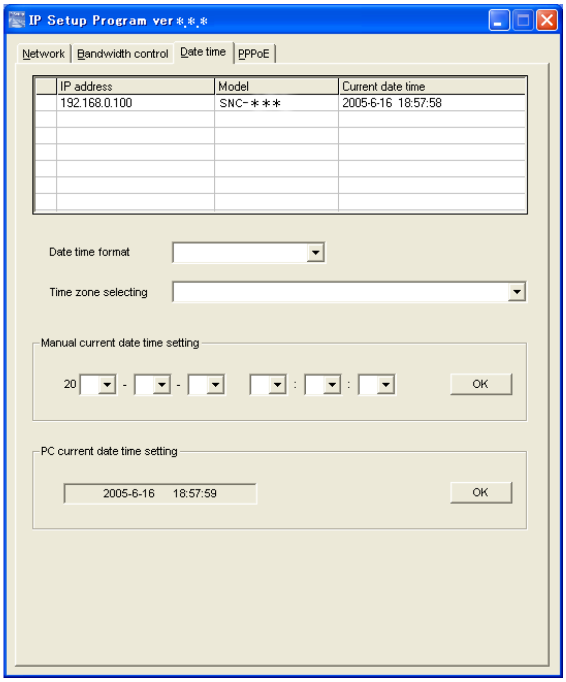
4 [Administrator name] と [Administrator password] 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。
工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

5 ［OK］をクリックする。
「Setting OK」が表示されれば、帯域制限の設定は終了です。

日付、時刻を設定する

カメラの日付と時刻を設定します。

1 Date time タブをクリックして日付・時刻設定画面を表示する。



2 リストから日付・時刻を設定したいカメラをクリックして選択する。
複数のカメラを選択して、同時に日付・時刻を設定することができます。

3 Date time format リストボックスから、日付・時刻のフォーマットを選択する。

4 Time zone selecting のリストボックスから、カメラが設置されている地域を選択する。

5 日付・時刻を設定する。
次の２とおりの設定方法があります。

マニュアルで設定する

Manual current date time setting の各リストボックスに現在の日付と時刻を設定する。
リストボックスは、左から「年（下２桁）」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」です。
設定が終わったら右端の［OK］をクリックするとカメラに反映されます。

コンピューターの日付・時刻に合わせる

PC current date time setting 欄にコンピューターに設定されている日付と時刻が表示されています。この日付・時刻に設定するときは、右端の［OK］をクリックします。

ご注意

ネットワークの特性上、設定された時刻には多少のずれが発生する場合があります。

カメラを再起動する

Network タブの [Reboot] をクリックすると、カメラを再起動できます。
再起動には、約２分かかります。

その他

SNC audio upload tool を使う－カメラに音声を送信する

付属の SNC audio upload tool を使うことにより，お使いのコンピューターに接続したマイクからカメラに音声を送信したり、音声ファイル再生機能用の音声ファイルをカメラにアップロードしたりすることができます。

送信する音声データは以下の形式をサポートしています。

形式	帯域
G.711(μ-LAW)	64kbps
G.726	40kbps
G.726	32kbps
G.726	24kbps
G.726	16kbps

ご注意

カメラに音声を送信できるのは 1 人だけです。したがって、2 人目以降の人が SNC audio upload tool を使ってカメラにアクセスしても音声を送信することはできません。

SNC audio upload tool をインストールする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

2 SNC audio upload tool の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

3 [開く] をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、正常にインストールできません。
ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「SNC audio upload tool」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

カメラとコンピューターを接続する

1 カメラの ◁（ライン出力）端子にスピーカーを接続する。

2 コンピューターのマイク端子にマイクを接続する。

ご注意

コンピューターによってはマイク端子の設定が適切に設定されていない場合があります。この場合、無音データが送信されてカメラに接続したスピーカーからは音が出ません。
Windows のコントロールパネルから、マイク端子を次のように設定してください。

Windows XP の場合

1 コントロールパネルの [サウンドとオーディオデバイス] を選択する。

2 [オーディオ] タブの [録音] 欄にある [音量] ボタンをクリックする。
[録音コントロール] パネルが表示されます。

3 [マイク] 欄の [選択] チェックボックスを有効にする。

Windows Vista の場合

マイク端子の設定はありません。
録音できない場合は、マイクデバイスを PC 本体に接続した状態で、録音デバイスが正常に動作しているか確認してください。

1 コントロールパネルの［サウンド］を選択する。

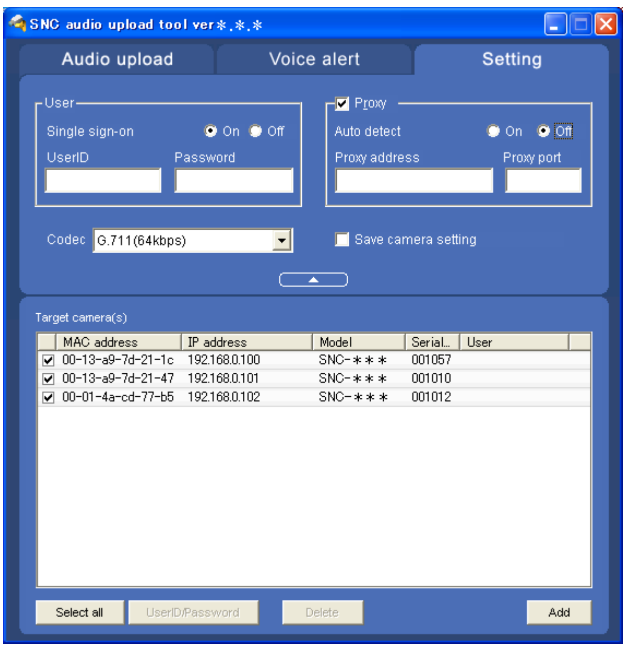
2 ［録音］タブを選択して、ハードウェアが正常に認識されていることを確認する。

SNC audio upload tool の使いかた

SNC audio upload tool を起動すると Setting タブが表示されます。

Setting タブ

コンピューターからカメラに音声を送信したり、音声ファイルをアップロードしたりするためにカメラの設定を行います。



User

カメラと通信するための管理者用ユーザー ID とパスワードを設定します。
工場出荷時の管理者用ユーザー ID は「admin」、パスワードは「admin」です。

Single sign-on：すべてのカメラに対して同じユーザー ID とパスワードを使用する場合、［On］にします。カメラごとに設定を行いたい場合は［Off］にします。［Off］にした場合の設定については、カメラリストの「User ID/Password」（87 ページ）をご覧ください。

User ID：Single sign-on を［On］にしたとき入力可能になります。ここに入力された管理者用ユーザー ID がすべてのカメラに適用されます。

Password：Single sign-on を［On］にしたとき入力可能になります。ここに入力された管理者用パスワードがすべてのカメラに適用されます。

Proxy

通信を行うときにプロキシサーバーを使用する場合は、この項目をチェックしてください。チェックしない場合はカメラと直接通信を行います。

Auto detect：［On］を選択すると、プロキシ設定を Internet Explorer の設定から自動取得します。

Proxy address：プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Proxy port：プロキシサーバーと通信するためのポート番号を入力します。

ご注意

Proxy 設定はすべてのカメラで使用されます。カメラごとに Proxy の設定をすることはできません。

Codec

リストボックスから音声モード（Codec）を選択します。

Save camera setting

チェックすると、カメラリストを含めた Setting タブの状態を記憶します。次回起動時に、同じ設定で起動します。



クリックするとカメラリストを非表示にできます。もう一度クリックするとカメラリストが表示されます。

Target camera(s)（カメラリスト）

アプリケーションの起動時に、ローカルネットワーク上のソニー製ネットワークカメラを自動的に検索してカメラリストに表示します。表示可能なカメラの数は最大 256 台です。
左端にあるチェックボックスをチェックすると、同時に複数のカメラに対して音声を送信したり、音声ファイルをアップロードしたりすることができます。

ご注意

- Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］にしないとカメラリストが自動的に表示されない場合があります。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（11 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（14 ページ）をご覧ください。
- アプリケーション起動後に、ローカルネットワークに接続したカメラは表示されません。
- 音声機能を持たないネットワークカメラは表示されません。

カメラ選択チェックボックス：左端のチェックボックスです。音声を送信したり、音声ファイルをアップロードしたりするカメラをチェックします。

MAC address：ネットワークカメラの MAC アドレスが表示されます。

IP address：ネットワークカメラの IP アドレスが表示されます。IP アドレスが DHCP サーバーにより設定されている場合は、IP アドレスの後ろに DHCP と表示されます。

Model：ネットワークカメラのモデル名が表示されます。

Serial：ネットワークカメラのシリアル番号が表示されます。

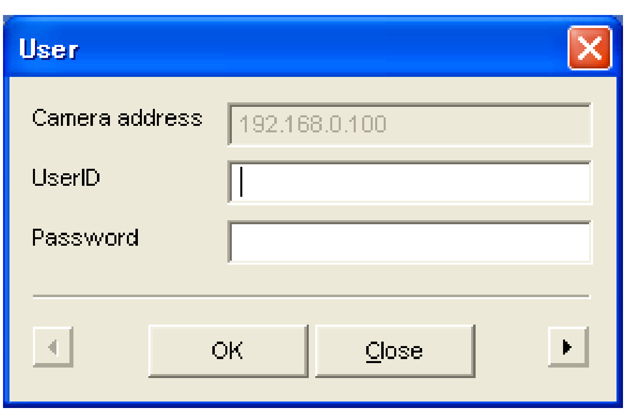
User：設定したユーザー ID とパスワードが表示されます。パスワードは読めないようになっています。

Select all

カメラリストに表示されているすべてのカメラを選択するときクリックします。すべてのカメラをリストから削除する場合や、すべてのカメラに同じユーザー ID、パスワードを設定するときに使います。

User ID/Password

選択したカメラに通信するためのユーザー ID、パスワードを設定するときに使います。
カメラリストから設定したいカメラをクリックして選択し、このボタンをクリックすると、次のダイアログが開きます。
管理者用ユーザー ID とパスワードを入力して［OK］をクリックします。

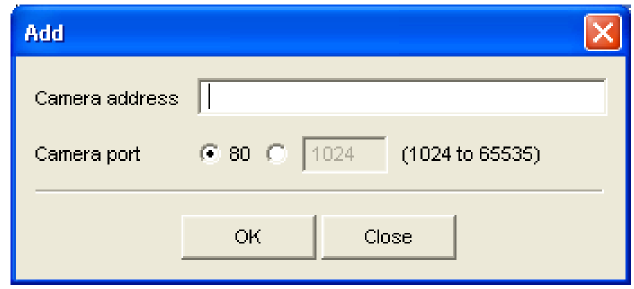


ご注意

カメラリストで、複数のカメラを選択した場合は、選択したカメラすべてに対して同じユーザー ID とパスワードが入力されます。工場出荷時の管理者用ユーザー ID は「admin」、パスワードは「admin」です。

Add

カメラリストにないネットワークカメラを手動でリストに加えることができます。このボタンをクリックすると、次のダイアログが開きます。
追加したいカメラの IP アドレスとポート番号を設定して［OK］をクリックします。



ご注意

- すでにカメラリスト上に存在する IP アドレスや、ネットワークカメラではない IP アドレス、ネットワーク上に存在しない IP アドレスを入力するとエラーダイアログが表示されます。
- カメラリストに最大数の 256 台が表示されているときは、新しいカメラを追加できません。

Delete

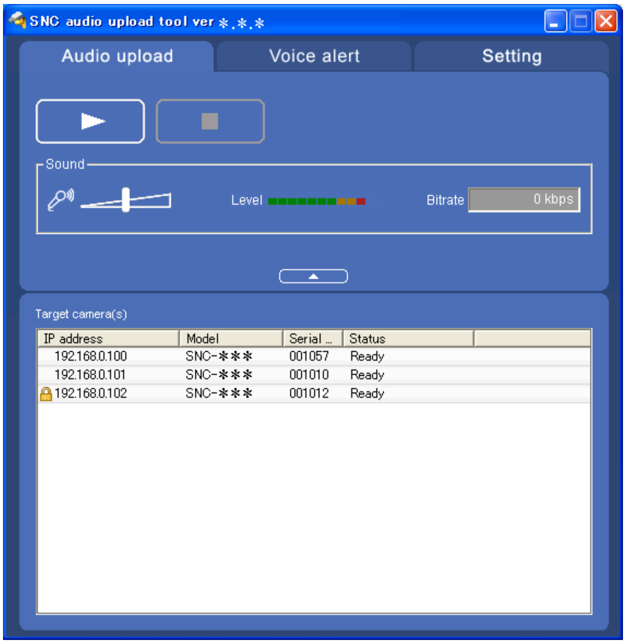
選択したカメラをカメラリストから削除するときクリックします。

タブ移動時のご注意

Setting タブから Audio upload タブや Voice alert タブへ移動する際にエラーが発生するとそのカメラは赤く表示されます。このときはカメラの設定やユーザー名やパスワードの設定をもう一度確認してください。

Audio upload タブ

コンピューターからカメラに音声を送信するときに使います。カメラリストに表示されているカメラに音声を同時に送信できます。
カメラに音声を送信する場合、あらかじめ、カメラメニューの共通タブで、［オーディオアップロード］を［有効］に設定してください。



►（スタート）／■（ストップ）

► をクリックすると音声通信が始まります。通信中は Bitrate（ビットレート）欄に通信速度が表示されます。使用環境に合わせて、マイク音量やミュート機能を調整してください。
音声の送信を終わるときは、■ をクリックします。

ご注意

・通信中にタブを切り換えると音声通信は停止します。
・ネットワークメニューの［IP アドレス］で［IP アドレスを自動的に取得する（DHCP）］が選択されているときは、IP アドレスが変更になった際に音声が途切れることがあります。
・多数のカメラに音声を同時に送信すると、音声が途切れることがあります。

Sound 調整と表示

スライドバーでマイク入力の音量を調整します。音声送信中でも調整可能です。
をクリックすると、ミュートのオン／オフを切り換えることができます。
Level 欄には、マイク入力の音量レベルが表示されます。
Bitrate 欄には、現在の通信速度が表示されます。



クリックするとカメラリストを非表示にできます。もう一度クリックするとカメラリストが表示されます。

Target camera(s)（カメラリスト）

Setting タブのカメラリストにあるカメラ選択チェックボックスで選択されたカメラが表示されます。選択されているカメラの情報や状態を確認することができます。

IP address：ネットワークカメラの IP アドレスが表示されます。IP アドレスが DHCP サーバーにより設定されている場合は、IP アドレスの後ろに DHCP と表示されます。

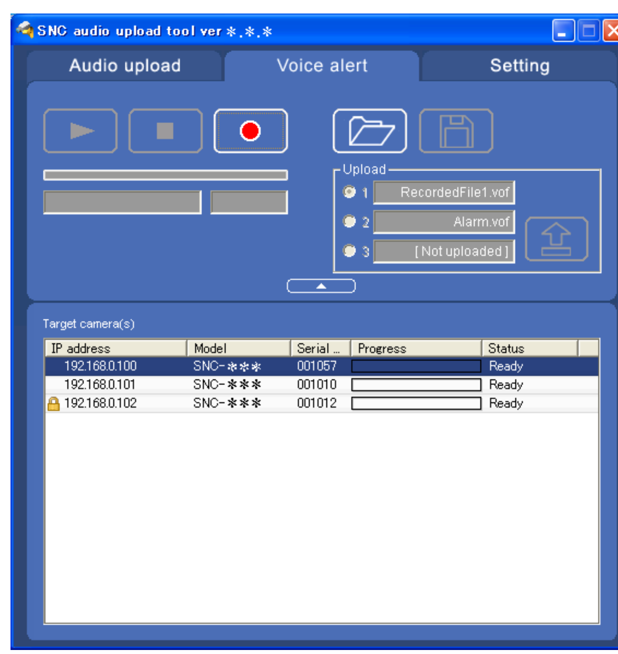
補足

SSL 通信が行われているカメラは IP アドレスの左側に が表示されます。
本機には SSL 機能は搭載されていません。

Model：ネットワークカメラのモデル名が表示されます。
Serial：ネットワークカメラのシリアル番号が表示されます。
Status：現在の状態を示しています。状態には以下のものがあります。
[Ready]：未接続で待機中
[Connected]：接続完了
[Fault]：接続処理に失敗したとき
[Sending]：音声データの送信中

Voice alert タブ

コンピューターに接続したマイクを使って音声を録音し、録音した音声ファイルをカメラにアップロードするときに使います。アップロードしたいカメラをカメラリストから選択すると、複数のカメラに音声ファイルを同時にアップロードできます。



（再生）

録音後、または音声ファイルを開いた後、クリックすると音声を再生します。録音した音声や選択した音声ファイルの確認をすることができます。再生するにつれ、プログレスバーの表示が進みます。

（停止）

録音または再生を停止します。
録音中にクリックすると、録音を停止し、そこまでの音声を再生して確認したり、カメラにアップロードしたりすることができます。
再生中にクリックすると、再生が中断され、プログレスバーの表示が開始位置に戻ります。

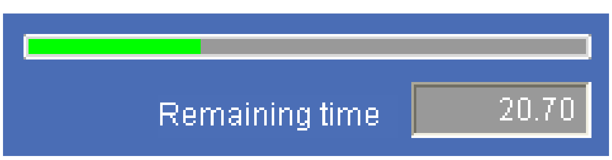
（録音）

コンピューターのマイクに入力された音声の録音を開始します。録音最大時間は 30 秒です。
録音の圧縮方式（コーデック）は Setting タブの Codec で選択した音声モードになります。
録音したファイルは「RecordedFile.vof」と表示されます。

ご注意

- 録音中や再生中にタブを切り換えると録音や再生は停止します。
- 録音したファイルはコンピューターには保存されません。

録音／再生プログレスバー



録音／再生の進捗を確認することができます。
録音時は右端まで行くと 30 秒です。録音時は、バーの下に残り時間が表示されます。
再生時は、録音されている時間が最大表示となります。

（ファイルオープン）

すでに保存されている音声ファイルを選択します。ここで選択した音声ファイルを再生して確認したり、カメラにアップロードしたりすることができます。

（保存）

録音した音声をファイルとしてコンピューターに保存します。

音声ファイル再生番号選択



アップロードする音声ファイル再生の番号を指定します。
音声ファイル再生 1 なら［ 1 ］を選択します。
番号の右には、現在カメラにアップロードされている音声ファイル名が表示されます。
音声ファイルがカメラにアップロードされていない場合は「Not uploaded 」と表示されます。
（録音）を使って録音し、コンピューターに保存されていない音声ファイルをアップロードした場合、音声ファイル名は「RecordedFile」＋「音声ファイル再生番号」＋「.vof」になります。

ご注意

- Setting タブで指定したカメラのソフトウェアバージョンが古い場合、音声ファイル再生番号選択はできません。
- 表示されるファイル名は、カメラリストで選択されているカメラのファイル名です。アップロードされているファイル名を確認したいカメラをクリックすると、この欄に表示されます。
- 音声ファイルはカメラリストにあるすべてのカメラが同じ音声ファイル再生番号にアップロードされます。カメラのソフトウェアバージョンが古い場合、自動的に［1］にアップロードされます。

（アップロード）

録音した音声ファイル、または選択した音声ファイルを Setting タブで指定したカメラにアップロードします。
アップロードできるファイルは 1 回に 1 つのみです。

ご注意

カメラに音声ファイルがアップロードされている場合、新たに音声ファイルをアップロードすると上書きされます。

クリックするとカメラリストを非表示にできます。もう一度クリックするとカメラリストが表示されます。

Target camera(s)（カメラリスト）

Setting タブのカメラリストにあるカメラ選択チェックボックスで選択されたカメラが表示されます。
選択されているカメラの情報や状態を確認することができます。

IP address：ネットワークカメラの IP アドレスが表示されます。IP アドレスが DHCP サーバーにより設定されている場合は、IP アドレスの後ろに DHCP と表示されます。

補足

SSL 通信が行われているカメラは IP アドレスの左側に が表示されます。
本機には SSL 機能は搭載されていません。

Model：ネットワークカメラのモデル名が表示されます。
Serial：ネットワークカメラのシリアル番号が表示されます。
Progress：音声ファイル送信の進捗状況が表示されます。
Status：現在の状態を示しています。状態には以下のものがあります。
- **[Ready]**：未接続で待機中
- **[Inquiry]**：カメラに情報を問い合わせ中
- **[No func]**：Voice alert 機能に対応していない機種のとき
- **[Uploading]**：音声ファイルのアップロード中
- **[Fault]**：音声ファイルのアップロードに失敗したとき
- **[No Privilege]**：権限が与えられていないため音声ファイルをアップロードできません。
- **[Succeeded]**：音声ファイルのアップロードに成功したとき

録音した音声ファイルをカメラにアップロードするには

補足

操作する前に、音声ファイルの作成とアップロードするカメラの設定が必要です。あらかじめ Setting 画面でカメラを設定してください。

1 Voice alert タブの （録音）をクリックして録音を開始する。

2 （停止）をクリックして録音を止める。
または、30 秒経過すると自動的に録音が終了します。

3 音声ファイル再生番号を選択する。

4 （アップロード）をクリックしてカメラに音声ファイルを送信する。

録音した音声ファイルをコンピューターに保存するには

1 Voice alert タブの （録音）をクリックして録音を開始する。

2 （停止）をクリックして録音を止める。
または、30 秒経過すると自動的に録音が終了します。

3 （保存）をクリックする。
「ファイル保存」ダイアログが表示されますので、ファイル名を指定して保存します。

保存した音声ファイルをカメラにアップロードするには

1 Voice alert タブの （ファイルオープン）をクリックし、アップロードする音声ファイルを選択する。

2 音声ファイル再生番号を選択する。

3 （アップロード）をクリックし、カメラに音声ファイルを送信する。

SNC video player を使う－カメラで記録した映像・音声ファイルを再生する

付属の SNC video player を使うと、カメラで記録した映像・音声データファイルをコンピューターで再生できます。

SNC video player をインストールする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

2 SNC video player の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

3 [開く] をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除し、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「SNC video player」をインストールする。

使用許諾に関する文面が表示されたらよくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

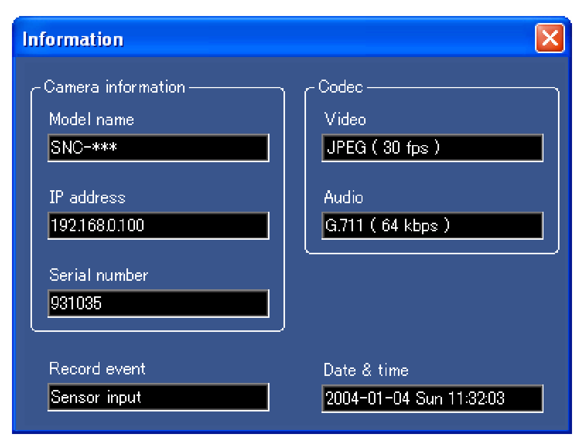
SNC video player の使いかた

1 インストールした SNC video player を起動する。



2 （ファイル参照）をクリックする。
ファイル選択ダイアログが表示されます。

3 再生したいファイルを選択する。
画像上部の INFO を押すとファイル情報のダイアログが表示されます。



ファイルダイアログの項目

Model name：記録したカメラの型名
IP address：記録したカメラの IP アドレス
Serial number：記録したカメラのシリアル番号
Video：映像コーデック

Audio：音声コーデック
Record event：記録したイベントの種類
Sensor input（センサー入力）、Motion detection（動体検知）
Date&time：記録された日時

映像・音声ファイルを再生するには

（再生）をクリックすると指定したファイルを先頭から再生します。
再生中に（一時停止）をクリックすると映像が一時停止します。もう一度をクリックすると続きから再生されます。
（停止）をクリックすると再生を中止します。もう一度をクリックすると先頭から再生されます。
ファイルの再生が終わると停止状態に戻ります。

再生位置を指定するには

映像の下部にあるスライドバーを動かすと、再生位置を指定できます。スライドバーの設定に応じた位置から再生が始まります。

音量を調節するには

スライドバーを動かして再生する音声の音量を調節します。左端が音量最小、右端が最大です。
をクリックするとミュート機能が ON になり消音され、もう一度クリックすると再び音声が出ます。
ミュート機能が ON のときはスライドバーを動かしても音声は出ません。

画像を保存するには

再生中または一時停止中に（キャプチャー）をクリックすると、取得された画像がダイアログでポップアップ表示されます。ダイアログの [保存] をクリックすると、JPEG 形式（または Bitmap 形式）でファイルを指定の場所に保存することができます。

画像表示サイズを変更するには

画像上部の［× 1/4］、［× 1/2］、［× 1］、［× 2］ボタンをクリックすると選択された倍率で画像が表示されます。
［× 1］ボタンを選択すると、ファイルの元の画像表示サイズで表示されます。
［× 2］ボタンは、画像サイズが 640 × 480（VGA）サイズ以下の場合のみ有効です。
選択されている画像表示サイズは色が反転して表示されます。

SNC privacy masking tool を使う－カメラ映像にマスクをかける

付属の SNC privacy masking tool を使うと、配信される映像の任意の場所にプライバシーマスクをかけて映像を隠すことができます。

SNC privacy masking tool をインストールする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

2 SNC privacy masking tool の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

3 「開く」をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで「保存」をクリックすると正常にインストールできません。
ダウンロードされたファイルを削除し、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

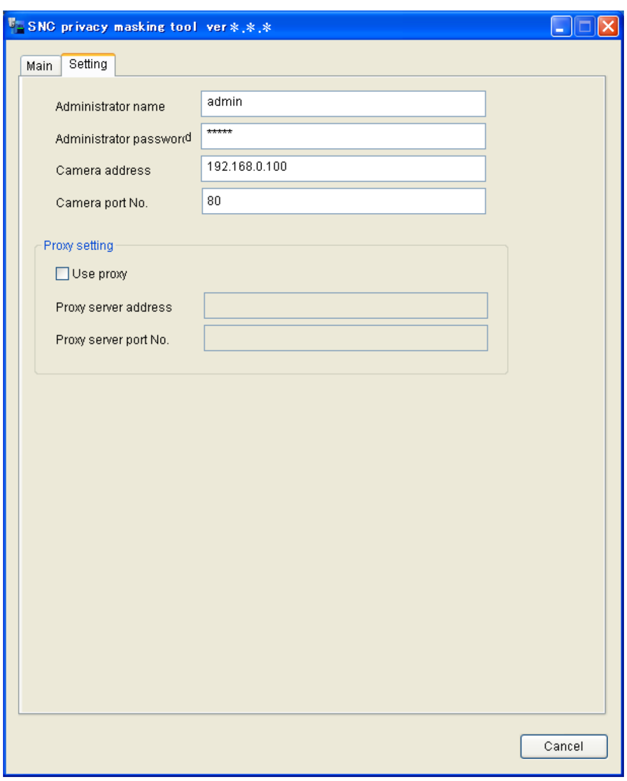
4 画面に表示されるウィザードに従って「SNC privacy masking tool」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

SNC privacy masking tool の使いかた

SNC privacy masking tool は、プライバシーマスク位置を設定する Main タブと、カメラと接続するための Setting タブから構成されています。
SNC privacy masking tool を起動すると Setting タブが表示されます。

Setting タブ

プライバシーマスク設定をするためには、カメラに接続する必要があります。接続するために Setting タブで以下の項目を入力してください。



[Administrator name]：接続先カメラの管理者 ID
[Administrator password]：接続先カメラの管理者パスワード

補足

工場出荷値では、それぞれ「admin」となっています。

[Camera address]：接続先カメラの IP アドレス、またはホスト名
[Camera port No.]：接続先カメラのポート番号

カメラの接続にプロキシサーバーを使用する場合は［Use proxy］にチェックし、以下の項目も入力してください。

[Proxy server address]：プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名
[Proxy server port No.]：プロキシサーバーのポート番号

上記の設定でカメラへの接続準備は完了です。

Main タブ

プライバシーマスクを設定します。



ご注意

カメラのビデオコーデックが H.264 に設定されていると、Main タブをクリックしても Main タブ画面が表示されません。
この場合は、カメラメニューの「動作モード」（39 ページ）で［JPEG］または［MPEG4］に設定し直してから操作してください。

ビューアー

接続したカメラのライブ映像が表示されます。このエリア上でプライバシーマスク位置を指定します。

Numbers

設定されているマスクの番号をビューアーに表示します。

Rectangles

設定されているマスクの枠を表示します。マスクが重なって設定されている場合に見やすくなります。

プライバシーマスク設定欄 No.1 ～ No.7

プライバシーマスクの登録、消去ができます。設定できるプライバシーマスクは全部で7か所です。また、プライバシーマスクの色を設定することもできます。

Set

ビューアー上で指定したエリアをプライバシーマスク領域として設定します。
［Set］をクリックすると、ビューアー上にプライバシーマスクが反映されます。［Color］［リストボックスで選択されている色がプライバシーマスクの色として設定されます。

ご注意

「ブレ補正」（36ページ）の機能をON/OFFすると、マスクの位置がずれることがあります。「ブレ補正」の設定を変更する場合は、設定変更後にマスク位置を設定してください。

Clear

クリックすると、設定されているプライバシーマスクを削除します。

Color

プライバシーマスクの色を指定します。色はすべてのプライバシーマスクに共通です。
指定できる色は以下のようになります。
［Black］（黒）、［White］（白）、［Gray］（グレー）、［Red］（赤）、［Green］（緑）、［Blue］（青）、［Cyan］（シアン）、［Yellow］（黄）、［Magenta］（マゼンダ）

All clear

クリックすると、設定されているプライバシーマスクをすべて、削除します。

プライバシーマスクを設定する

以下の手順で、任意の場所にプライバシーマスクを設定することができます。

1 Mainタブのビューアー上でマウスをドラッグ操作して、プライバシーマスクの範囲を設定する。

2 ［Color］リストボックスからマスクの色を選択する。

ご注意

マスクの色はすべてのマスクに共通です。最後に選択した色が設定されます。

3 プライバシーマスク設定欄から登録する番号を選び、［Set］をクリックする。
ビューアー上にマスクが反映されます。

Custom Homepage Installer を使う－独自のホームページを設定する

付属の Custom Homepage Installer を使うことにより、お客様が作成したホームページをカメラに搭載して閲覧することができます。

ホームページ作成上のご注意

ホームページを作成する際には以下の点に注意してください。
・ファイル名の長さは拡張子まで含めて 24 文字以内にしてください。
・全体のファイル容量は 2.0MB 以内にしてください。
・作成したホームページを閲覧するには、システムメニューの [ホームページ] で設定してください。

Custom Homepage Installer でホームページをカメラにアップロードする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

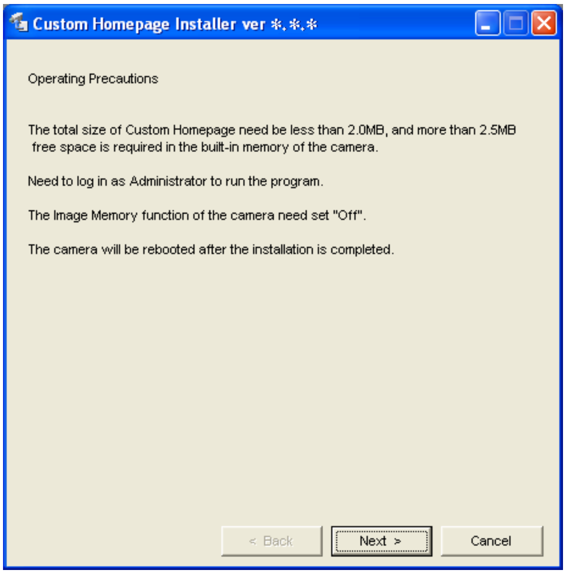
Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

2 Custom Homepage Installer の Start アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 以降または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 以降をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（12 ページ）をご覧ください。

3 [開く] をクリックする。
インストーラーが起動し、注意事項が表示されます。

Windows Vista をご利用の場合、起動時に「ユーザーアカウント制御（認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックしてください。

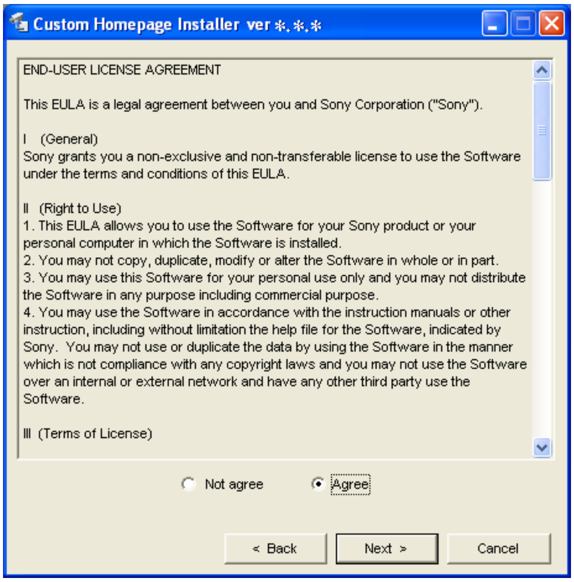


ご注意

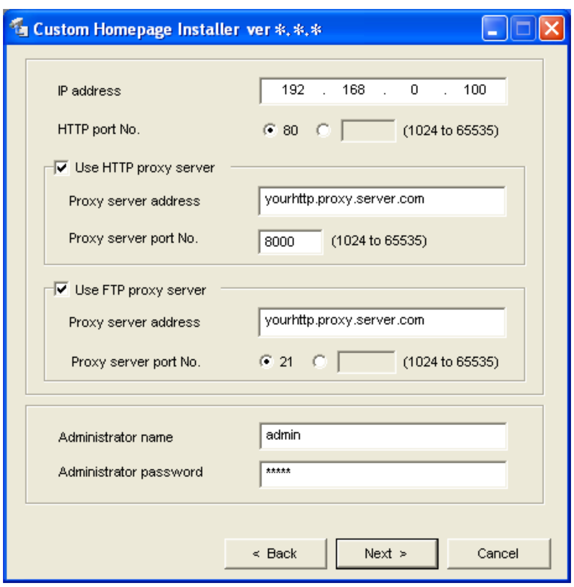
「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、CustomHomepageInstaller.exe ファイルがコンピューターに保存されます。保存した場合は、保存したファイルをダブルクリックして起動してください。

4 注意事項をよく読んで、[Next>] をクリックする。
使用許諾契約書が表示されます。

その他



5 使用許諾契約書をよく読んで、同意される場合は、[Agree] を選択し、[Next>] をクリックする。



6 IP address 欄に、アップロードするカメラの IP アドレスを入力する。

7 カメラの HTTP port No. を設定する。
初期値は HTTP ポートの 80 番が設定されています。

8 プロキシサーバーを経由してカメラと通信を行う場合は以下の設定を行う。
プロキシサーバーについては、ネットワーク管理者にご相談ください。

HTTP proxy server を使う場合

[Use HTTP proxy server] を選択し、Proxy server address および Proxy server port No. 欄にそれぞれの値を入力します。

FTP proxy server を使う場合

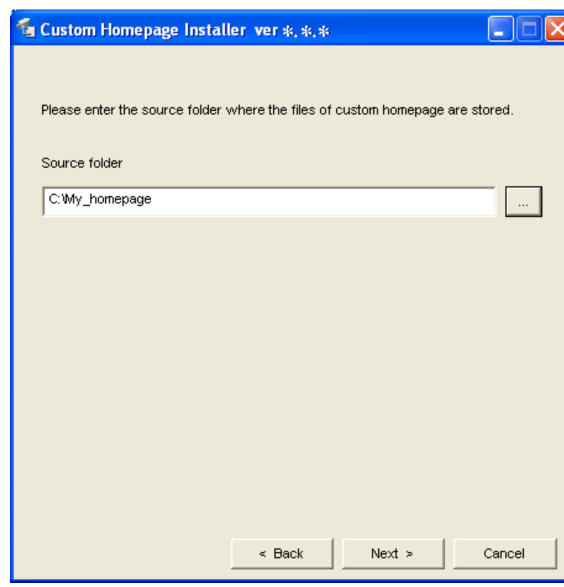
[Use FTP proxy server] を選択し、Proxy server address および Proxy server port No. 欄にそれぞれの値を入力します。

ご注意

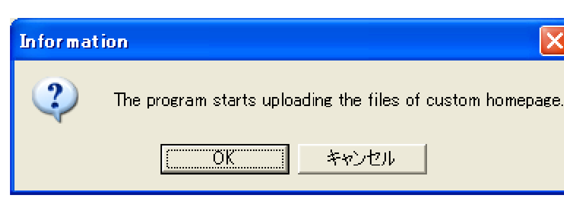
お使いになるプロキシサーバーによっては、カメラと正しく通信できない場合があります。その場合は、ローカルネットワーク上にカメラを接続して、プロキシサーバーを使わずにインストーラーを実行してください。

9 Administrator name と Administrator password 欄に、アップロードするカメラの管理者のユーザー名とパスワードを入力する。
工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

10 正しく設定されていることを確認してから、[Next>] ボタンをクリックする。



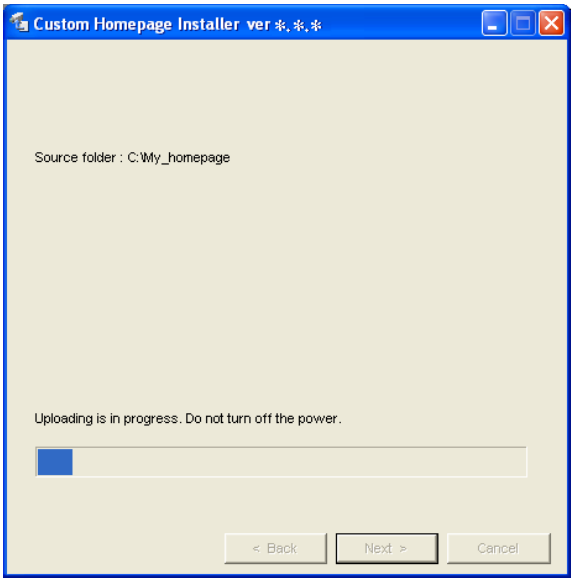
11 Source folder 欄に、独自に作成したホームページが保存されているフォルダーのパスを入力するか、 をクリックして対象のフォルダーを選択し、[Next>] をクリックする。



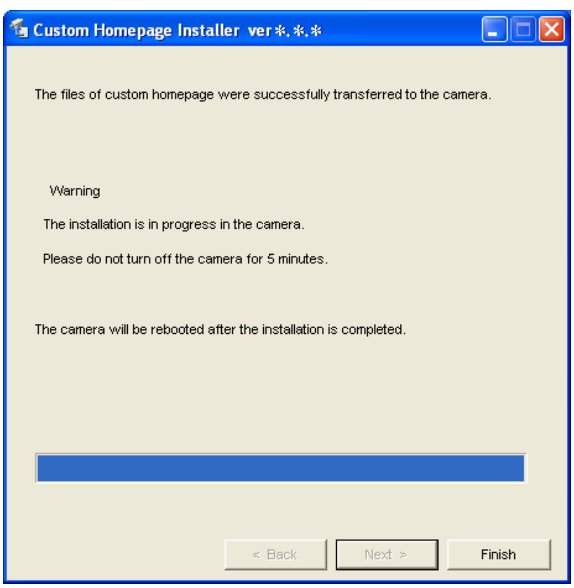
12 [OK] をクリックする。
ホームページファイルのカメラへのアップロードが始まります。

ご注意

アップロードが終了してカメラが再起動するまでは、カメラの電源を切らないでください。



しばらくすると次の画面に変わります。



この画面が表示された後、カメラ内部で調整が行われ、約 5 分後にカメラが自動的に再起動します。

13 [Finish] をクリックしてプログラムを終了する。

ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる

ここでは、付属のセットアッププログラムを使わずに、ARP（Address Resolution Protocol）コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる方法を説明します。

ご注意

ARP および PING コマンドの実行は、本機の電源を入れてから 5 分以内に行ってください。
また、本機を再起動した場合も、再起動してから 5 分以内に操作を行ってください。

1 コンピューター上でコマンドプロンプトを開く。

2 ARP コマンドを使って、IP アドレスとその IP アドレスを割り当てるカメラの MAC アドレスを入力する。

```
arp -s ＜本機の IP アドレス＞ ＜本機の MAC アドレス＞
ping -t ＜本機の IP アドレス＞
```

例：

```
arp -s 192.168.0.100 08-00-46-21-00-00
ping -t 192.168.0.100
```

3 コマンドプロンプトに次の行が表示されたら [Ctrl] + [C] を押す。
停止します。

```
Reply from 192.168.0.100:bytes=32 time...
```

通常、「Request time out」が 5 回ほどで返答（Reply）を受け取ります。

4 PING の実行が止まったら以下のコードを入力する。

```
arp -d 192.168.0.100
```

ご注意

返答が受け取れない場合は、以下のことを確認してください。

– 本機の電源を入れてから 5 分以内に ARP コマンドを入力しましたか？
いったん電源を切ってから操作し直してください。
– カメラ本体の NETWORK インジケーターが消えていませんか？
ネットワークを正しく接続してください。

– 割り当てられた IP アドレスがすでに使われていませんか？
新しい IP アドレスを割り当ててください。
– ping コマンドを実行したコンピューターと本機が同じネットワークアドレスを持っていますか？
同じネットワークアドレスを入力してください。

SNMP 設定方法について

本機は、SNMP（Simple Network Management Protocol）をサポートしています。SNMP マネージャーソフトウェアなどのソフトウェアを使用して、MIB-2 オブジェクトの読み出しが可能です。また、トラップとして、電源投入時および再起動時に発生させる coldStart トラップ、SNMP の不正アクセスが発生した場合に通知する Authentication failure トラップをサポートしています。
また、本機は、CGI コマンドを使ってコミュニティ名やアクセス元の制限設定、トラップ送信先の設定、一部の MIB-2 オブジェクトの設定を行うことができます。これらの設定を行うには カメラの管理者の認証を経る必要があります。

1. 問い合わせコマンド

以下の CGI コマンドで SNMP Agent の設定情報を確認できます。

< メソッド >
GET, POST
< コマンド >
http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inqjs=snmp
(JavaScript パラメーター形式)
http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inq=snmp
(通常の形式)

上記の問い合わせによって、以下の設定情報を取得できます。ここでは inqjs=snmp（JavaScript パラメーター形式）で問い合わせ情報を取得した場合の設定情報について説明します。

var sysDescr="SNC-CS50" ・・・①
var sysObjectID="1.3.6.1.4.1.122.8501" ・・・②
var sysLocation="" ・・・③
var sysContact="" ・・・④
var sysName="" ・・・⑤
var snmpEnableAuthenTraps="1" ・・・⑥
var community="public,0.0.0.0,read,1" ・・・⑦
var community="private,192.168.0.101,
read,2" ・・・⑧
var trap="public,192.168.0.101,1" ・・・⑨

① mib-2.system.sysDescr.0 のインスタンスが記されます。これについては変更することはできません。

その他

② mib-2.system.sysObjectID.0 のインスタンスが記されます。これについても変更することはできません。

③ mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスが記されます。この製品の設置場所に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時は何も設定されていません。

④ mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理者に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑤ mib-2.system.sysName.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理対象ノードを記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑥ mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスが記されます。この例では 1(enable) が設定されており、Authentication failure が発生した場合にはトラップが発生することになります。2(disable) が設定されている場合には Authentication failure トラップは発生しません。

⑦ コミュニティ設定情報が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレスを問わず（0.0.0.0)、read（読み出し）が可能となるように設定されています。

⑧ ⑦と同様にコミュニティ設定情報が記されています。この例の場合には ID=2 という識別番号で、"private" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストからの SNMP 要求パケットに対して、read（読み出し）が可能となるように設定されています。

⑨ トラップ送信先設定情報が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストに対してトラップが送信されるように設定されています。

2. 設定コマンド

SNMP に関する設定コマンドは以下のような形でサポートされています。

＜メソッド＞
GET, POST
＜コマンド＞
http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi？
〈parameter〉=〈value〉&〈parameter〉=…&…

まず、以下のパラメーターを使用して設定を行います。

1) sysLocation=<string>
mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。<string> の長さは最大 255 文字です。

2) sysContact=<string>
mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

3) sysName=<string>
mib-2.system.sysName.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。<string> の長さは最大 255 文字です。

4) enaAuthTraps=<value>
mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスの値を設定します。<value> には 1（enable）または 2（disable）のいずれかを入力します。

5) community=<ID>, r, <communityName>, <IpAddressString>
コミュニティ情報設定を行います。<ID> は設定の識別番号 (1 ～ 8 のいずれか)、<communityName> は設定するコミュニティ名、<IpAddressString> はアクセスを許可するホストの IP アドレスを記述します（任意のホストに許可する場合には 0.0.0.0 とします)。
例： 識別番号 2 に "private" というコミュニティ名で任意のホストに read を許可する
community=2,r,private,0.0.0.0

6) trap=<ID>,<communityName>, <IpAddressString>
トラップ送信先情報設定を行います。<ID> は設定の識別番号 (1 ～ 8 のいずれか)、<communityName> はトラップ送信時のコミュニティ名、<IpAddressString> はトラップ送信先のホストの IP アドレスを設定します。

例：識別番号 1 に "public" というコミュニティ名でトラップ送信先を設定する。
trap=1,public,192.168.0.101

7) delcommunity=<ID>
既に設定されているコミュニティ設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されているコミュニティ設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）です。

8) deltrap=<ID>
既に設定されているトラップ送信先のホスト設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されているトラップ送信先設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）です。

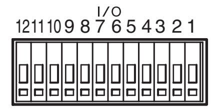
上記 1) ～ 8) のパラメーターを使用して SNMP 設定情報の変更が完了したら、問い合わせコマンドを使用して設定変更情報を確認します。変更した設定でよければ次の CGI コマンドを使用して SNMP を再起動させます。

SNMP 再起動コマンド

< メソッド >
GET, POST
< コマンド >
http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi?snmpd=restart

その他

I/O ポートのピン配列

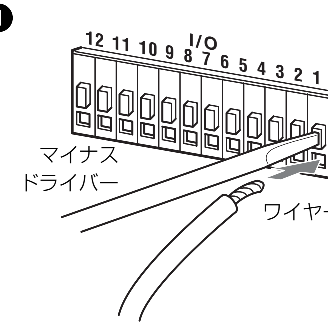


ピン番号	ピン名称
1	センサー入力 1 ＋
2	センサー入力 1 －（GND）
3	センサー入力 2 ＋
4	センサー入力 2 －（GND）
5	アラーム出力 1 ＋
6	アラーム出力 1 －
7	アラーム出力 2 ＋
8	アラーム出力 2 －
9	GND
10	GND
11	RS232C・RX
12	RS232C・TX

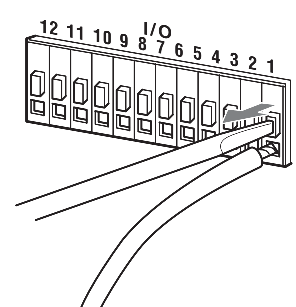
付属の I/O コネクターハウジングの使いかた

ワイヤー（AWG No.28 ～ 22）を接続したい穴の上のボタンをマイナスドライバーなどで押しながらワイヤーを差し込み、その後マイナスドライバーをボタンから離します。

❶



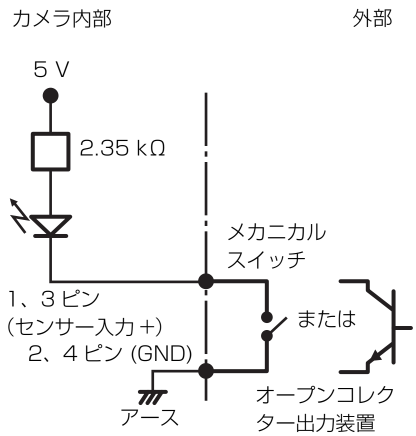
❷



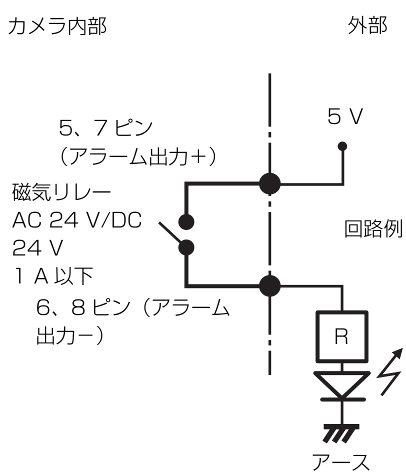
同じ手順で、必要なワイヤーをすべて接続します。

センサー入力への配線図

メカニカルスイッチ / オープンコレクター出力装置



アラーム出力への配線図

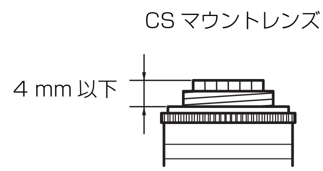


CS マウントレンズの取り付けかた

本カメラには、付属以外の CS マウントレンズも使用できます。

適合するレンズ

マウント面からの突起が 4mm 以下の CS マウントレンズが使用できます。

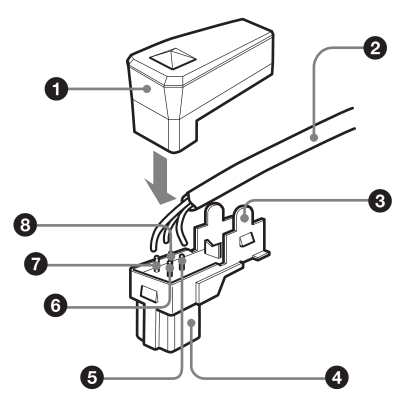


オートアイリスレンズの取り付け

DC 制御方式のオートアイリスレンズが使用できます。
オートアイリスレンズを本機に接続する際は、下図のようにレンズケーブルのプラグをオートアイリスレンズ用プラグ（別売り）と交換してください。

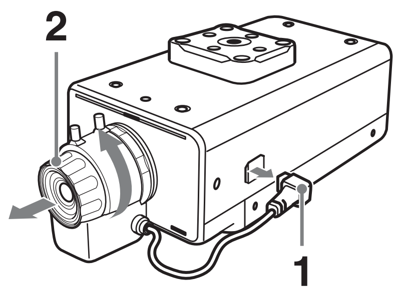
1 元のレンズケーブルのプラグからレンズケーブルを外す。

2 オートアイリスレンズ用プラグの各ピンに、レンズケーブルをハンダ付けする。
ケーブルの配線は、レンズの説明書をご覧ください。



❶	カバー
❷	レンズケーブル
❸	リブ（ケーブルが太い場合は切り取ってください。）
❹	プラグ（別売り）
❺	ピン 4：Drive −（アース）
❻	ピン 2：Control +
❼	ピン 1：Control −
❽	ピン 3：Drive +

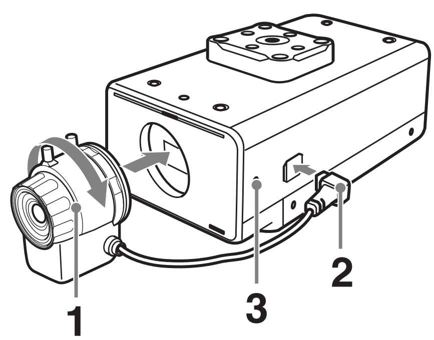
レンズを取り外す



1 オートアイリスレンズ端子からレンズケーブルを抜く。

2 レンズを左に回して外す。

レンズを取り付ける



1 レンズをレンズマウント部に合わせ、右に回しながらはめ込む。

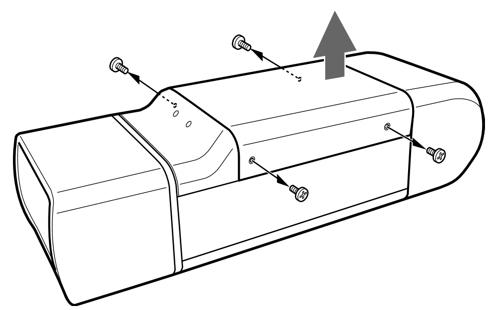
2 オートアイリスレンズ端子にレンズケーブルのプラグを差し込む。
（絞りが手動のレンズを付ける場合は、手順2は不要です。）

3 レンズのフォーカス調整をしても∞（無限遠）にピントが合わない場合は、プラスドライバーでADJUST ネジを回し、フランジバックを調整する。

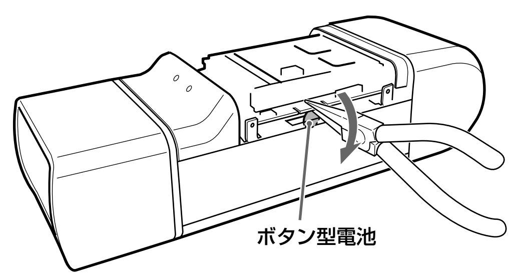
本機を廃棄するときは

環境保護のため充電式ボタン型電池を取り外し、適宜処理してください。

1 ネジ4本を外し、本機の底板を取り外す。



2 ボタン型電池が付いている基板をラジオペンチなどでつかみ、矢印の方向に折り曲げて外す。



用語集

キャプチャー
映像や音声のデジタルデータを映像機器からコンピューターの中に取り込むこと。

共有シークレット
RADIUS サーバーと RADIUS クライアント間で相互認証を行うための文字列。

コーデック (Codec)
映像や音声データを圧縮・伸張するソフトウェア及びハードウェアのこと。

コモンネーム
セキュリティ機能を持つプロトコル SSL（Secure Sockets Layer）を使ったサイトにアクセスする場合、ブラウザに入力する URL。サイトの URL とサーバー側のコモンネームが一致しているかどうかが検証され、一致していればアクセスすることができる。

サブネットマスク
ネットワークを識別するため、IP アドレスのうち、上位の何ビットをネットワークアドレスに使用するかを決める 32 ビットの数値。

彩度
色のあざやかさの度合。

セカンダリー DNS サーバー
DNS サーバーの一種で、プライマリ DNS サーバーが利用できないときに処理を肩代わりするサーバー。

帯域制限
転送されるデータの量を制限すること。

デジタル証明書
暗号を解除するための公開鍵の発行元が真正であることを証明するために、認証局が発行する電子証明書。

デジタルズーム
光学的なズームではなく、撮影映像をソフトウェア的に拡大することによりズームを行う方式。

デフォルトゲートウェイ
所属するネットワークから他のネットワークへアクセスするときに経由する機器。

ネットワークアドレス
IP アドレスのうち、ローカルのネットワーク（サブネット）を識別するのに使われる部分。

ネットワーク帯域
ネットワークを利用できる接続速度。

パッシブモード
FTP クライアント側から FTP サーバーへ向けてデータ転送用の TCP コネクションをオープンするモード。

ビットレート
データを転送するときの速度。

プライマリー DNS サーバー
DNS サーバーの一種で、各機器や他の DNS サーバーからの問い合わせを優先的に処理するサーバー。

フレームレート
1 秒間に伝送できる動画像のフレーム数。

プロキシサーバー
内部のネットワークとインターネットの間にあって、直接インターネットに接続できない内部のネットワークのコンピューターに代わって、インターネットへの接続を行なう機器またはソフトウェア。

マルチキャスト
224.0.0.0 から 239.255.255.255 の範囲で割り当てられるクラス D の IP アドレスで、このアドレスを使用することによって、複数の機器に対して同じデータを送信することができる。

ユニキャスト
ネットワーク内で単一のアドレスを指定して特定の機器にデータを送信すること。

ActiveX コントロール
Microsoft 社が開発したソフトウェアの部品化技術。Web ページまたはその他のアプリケーションに挿入できるコンポーネントまたはオブジェクト。

AES

Advanced Encryption Standard の略。米国政府の次世代標準暗号化方式。

ARP コマンド

ホストマシン中にある、IP アドレスと MAC アドレスの対応表（エントリー）を確認したり、更新したりするためのコマンド。

CA 局

認証局（Certificate Authority）。ネットワークアクセスに関する認証を行うための電子的な証明書を発行、管理する、民間の機関。

DHCP サーバー

Dynamic Host Configuration Protocol Server の略。固定の IP アドレスを持たない端末に自動的に IP アドレスを振り分けるプロトコル (DHCP) を使用して IP アドレスを割り振るサーバー。

DNS サーバー

Domain Name System Server の略・IP ネットワーク上の機器同士が接続する場合、接続相手の IP アドレスが必要であるが、数字の並びである IP アドレスでは相手を想像することが難しいため、相手に名前を付加し（ドメイン名）、それで相手を想像することを容易にするシステムが構築された。これが Domain Name System である。クライアント機器は、ドメイン名を使用して相手機器に接続するとき、DNS サーバーに問い合わせをすることで、相手機器の IP アドレスを取得して接続する。

EAP 方式

Extensible Authentication Protocol の略。拡張認証プロトコル。ダイヤルアップで用いられる PPP（Point-to-Point Protocol）を拡張し、認証機能を備えたプロトコル。

EAP-TLS 認証方式

TLS は Transport Layer Security を用いた EAP 方式の認証プロトコルで、デジタル証明書などを用い、データの盗聴や改ざん、なりすましを防ぐことができる。

FTP クライアント

FTP サーバーにアクセスするときに使われるソフトウェア。

FTP サーバー

ファイルを転送するときに使われるサーバー。

H.264

映像データの圧縮方式の 1 つで ISO、および ITU-T との共同標準化組織 JVT（Joint Video Team）により標準化された規格。MPEG4 より、さらに高圧縮で映像配信することができる。

HTTP ポート

Web サーバーとクライアント（Web ブラウザなど）がデータを送受信するときに使うポート。

IP アドレス

Internet Protocol Address の略。基本的にインターネットに接続する機器は、独自の IP アドレスが割り当てられている。

Java applet

Web ブラウザのウィンドウに埋め込まれて実行される Java プログラム。

Java バーチャルマシン

Java バイトコードをそのプラットフォームのネイティブコードに変換して実行するソフトウェア。

JPEG

Joint Photographic Expert Group の略で、ISO（国際標準化機構）と ITU-T によって標準化されている静止画圧縮技術またはその規格のこと。インターネット上でなど、画像ファイルの圧縮方式として広く使用されている。

MAC アドレス

各 LAN カード 1 枚 1 枚に割り当てられている固有の ID 番号。

MPEG4

Moving Picture Experts Group phase4 の略で、映像データの圧縮方式の 1 つで MPEG 規格の 1 つ。低画質、高圧縮の映像配信用途のための規格。

NTP サーバー

ネットワーク内で標準的に利用されている時刻情報サーバー。

PoE

LAN ケーブルを利用して電力を供給する技術。

POP サーバー

受信した電子メールを保管しているサーバー。

PSK

Pre-Shared Key の略。暗号化用の鍵を作るための共有鍵。暗号化規格 WPA の暗号化方式である TKIP にて使われる。また、事前共有鍵を使う認証方式を意味する場合もある。

RADIUS クライアント

ネットワークアクセスに関する認証とアカウンティングを行うためのプロトコルである RADIUS（Remote Authentication Dial-in User Service）の着信側。
インターネット接続サービスにおいては、ダイヤルアップ着信装置やブロードバンドアクセスサーバなどの着信装置、無線 LAN においては、無線 LAN アクセスポイントが RADIUS クライアントである。

SMTP サーバー

電子メールを送信または中継するためのサーバー。

SNMP

ネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコル。

SSL

Secure Sockets Layer の略。インターネット上で、暗号化した情報の通信を行うために、Netscape Communications 社が開発したプロトコル。

TCP

Transmission Control Protocol の略。インターネットで使用される標準プロトコル。インターネットでは他のプロトコルとして UDP も使われるが、UDP は転送速度が速いが信頼性は低く、TCP は信頼性が高いが転送速度は遅いという特徴がある。

TKIP

Temporal Key Integrity Protocol の略。無線 LAN の暗号化規格である WPA に使われている。通信中でも PSK を基に暗号化の鍵を変えていくため、セキュリティ機能が高い。

UDP

User Datagram Protocol の略。インターネットで使用される標準プロトコル。インターネットでは、他のプロトコルとして TCP も使われるが、TCP は信頼性が高いが転送速度は遅く、UDP は転送速度が速いが信頼性は低いという特徴がある。

WPA

Wi-Fi Protected Access の略。無線 LAN 用の暗号化規格。従来の WEP（Wired Equivalent Privacy）よりもセキュリティ機能が高い。暗号化方式には TKIP、認証プロトコルには PSK と EAP が採用されている。

WPA2

Wi-Fi Protected Access 2 の略。WPA に暗号化方式 AES を加えた規格。

802.11g

2.4GHz 帯の電波を用い、転送速度最大 54Mbps の無線 LAN の規格。

802.1X

LAN 上でユーザー認証と動的なキーの生成、配送を行う規格。

索引

その他

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/